

1. 調査の概要

【調査の目的】

市民の男女平等に対する意識や結婚観、家庭生活や地域活動における男女共同参画の状況、就労や人権に関する意識・実態等を把握することによって、今後の男女共同参画を推進するための施策の参考にするとともに、「加古川市男女共同参画行動計画」改定の策定資料とするため。

【調査の内容】

- ・ 基本属性
- ・ 男女の平等感などについて
- ・ 人権について
- ・ 結婚観や家庭生活について
- ・ 教育について
- ・ 地域活動について
- ・ 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について
- ・ 就労について
- ・ 市の男女共同参画推進に関する施策について

【調査の設計】

調査地域	加古川市全域
調査対象	市内在住の満20歳以上の男女（平成21年12月1日現在）
標本数	3,000人
抽出方法	住民基本台帳及び外国人登録原票から年齢階層別に無作為抽出
調査方法	質問紙法（無記名自記式）、メール便による配布・郵送による回収
調査期間	平成21年12月11日～25日

【回収の結果】

配付数	3,000件
有効回答数	1,209件
回収率	40.3%

【分析表示について】

- ・ 割合については、小数点以下第 2 位を四捨五入しているため、割合がちょうど 100% とならない場合がある。
- ・ グラフ中の「計」はその項目における四捨五入を合計した実数値であり、割合算出の基数となる。
- ・ グラフ中の N は回答者全員、n は限定された回答者数（母数）であり、回答率（%）の分母である。
- ・ 複数回答を許している項目については、原則として、サンプル数を基数として割合算出を行っているため、割合計は 100% を超えている。
- ・ 報告書の中では、平成 21 年度内閣府の「男女共同参画社会に関する世論調査」、加古川市が平成 17 年度に実施した「男女共同参画社会に関する市民意識調査」の結果データを参考にしている。

2. 回答者の属性

図 1 性別

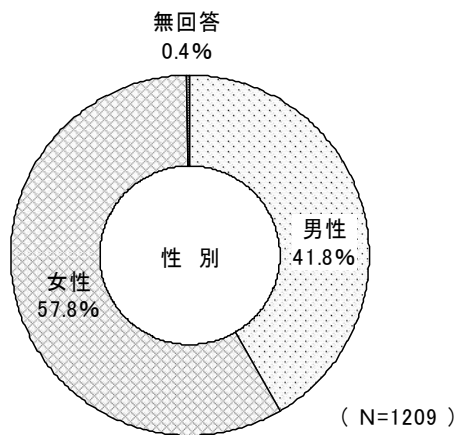


図 2 年齢

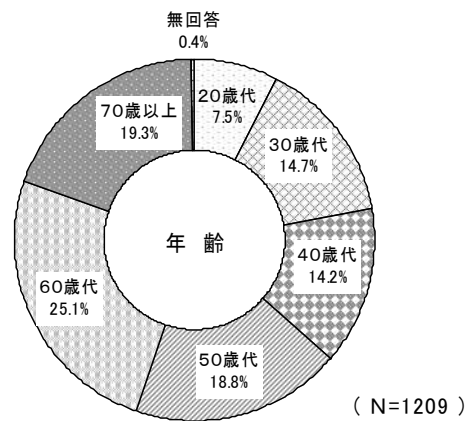


図2-1性別・年代別の構成

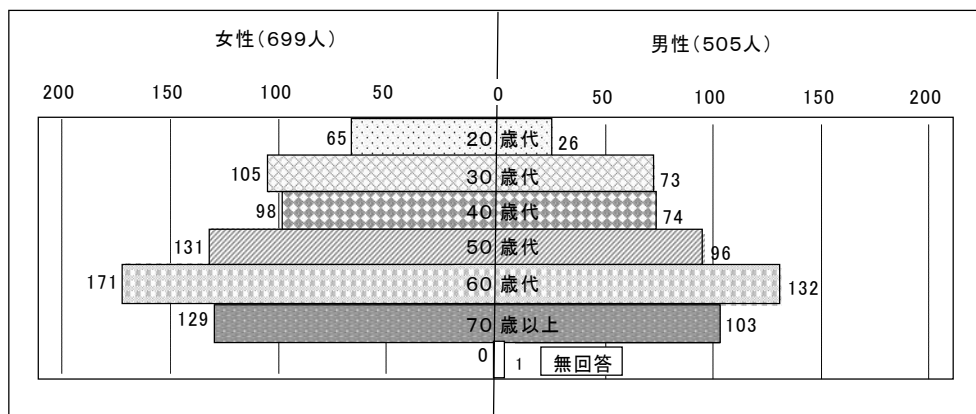
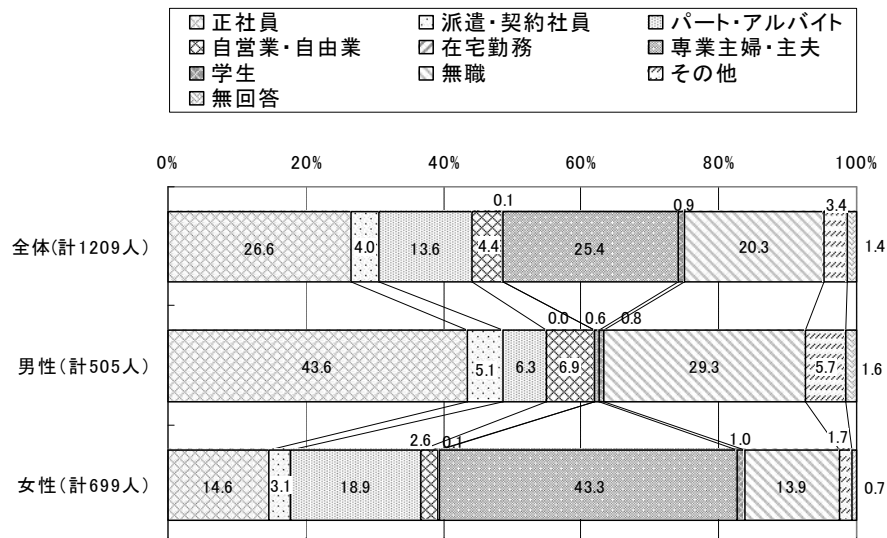


図 3 仕事



2. 回答者の属性

図 4 婚姻状況

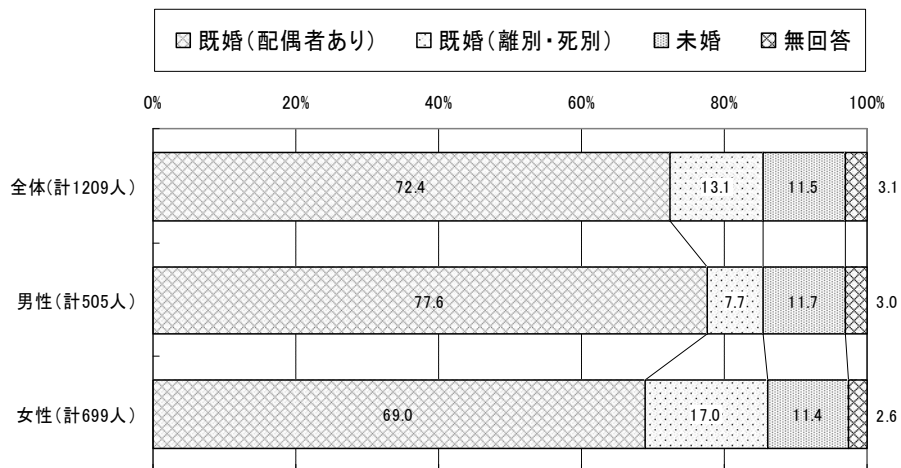


図 5 家族構成

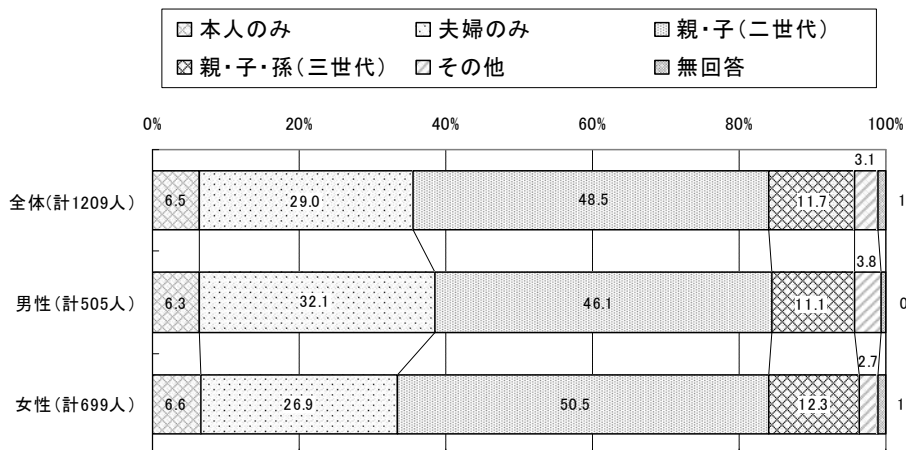
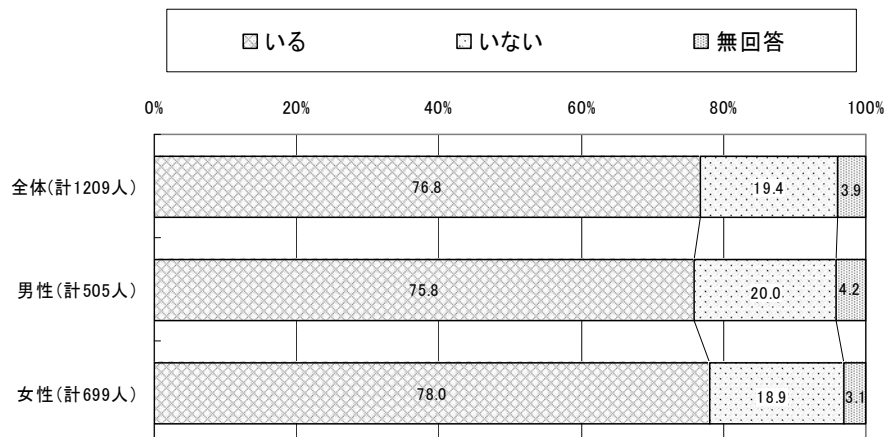


図 6 子どもの有無



3. 調査結果の概要

(1) 男女の平等感などについて

男女共同参画に関する言葉では、「セクシャル・ハラスメント」が最も認知度が高く、「ジェンダー」の認知度が最も低い。「男女雇用機会均等法」、「育児・介護休業法」、「配偶者暴力防止法（DV 防止法）」という法律についても認知度が高く定着した言葉となっている。一方で、「男女共同参画社会」という言葉は前回の調査とほぼ変わらず3分の1が「知らない」との回答である。また「ワーク・ライフ・バランス」も新しい用語のためか、認知度が低く定着に至っていない。

平等に関する意識では、依然、男性が優遇されているとの意識を持つ人が多く、全国を対象とした同種の調査と比較しても、その割合が高い傾向にある。特に加古川市の場合、「慣習・しきたりの中で」など社会的な分野において、男性が優遇されていると感じる人が多いようである。ただし前回の調査と比較した場合、その割合は低くなってきている。一方、男女間で意識の差は大きく、女性の方が、男性が優遇されているとの意識が強い。また若い年代ほどその意識は低い。

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」、「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる方がよい」など多くの項目で、「賛成」が過半数を占めている。前回の調査と比べ「賛成」が増加する傾向にあり、全国での調査と比較しても高い。

男女平等を進めるために必要なこととして、特に女性の意見が多いのは、「保育所や介護施設など、安心して働くための施設整備を進める」、「仕事や賃金面で男女差別をなくす」など、女性が働ける環境や働く条件の整備などである。この回答は前回の調査よりも増加している。性別でみると、女性は男性の働き方、ワーク・ライフ・バランスの見直しに対する期待が大きく、男性は教育や慣習を改めることなど、観念的な側面から男女平等の実現を期待する意見が多い。

(2) 人権について

「セクシャル・ハラスメントの被害を受けた」との回答は前回の調査と比べ減少しているものの、言葉によるハラスメントは増加傾向にある。

「配偶者暴力防止法（DV防止法）」の認知度は上昇している。しかし、行為においては、配偶者や恋人に対し、身体的な被害をもたらす暴力を DV と認識しているが、「見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せられた」や「何を言っても長期間無視され続けた」など精神的な苦痛を与えることを DV と認識する割合は、まだ 50%程度である。

実際に DV の被害に遭ったという割合は、前回の調査と比べて増加する傾向にある。

セクシュアル・ハラスメントや DV の被害時の相談であるが、「相談をした」は全体で 4.5%であり、これは前回の調査と変わらない。「相談したかったが誰（どこ）に相談してよいかわからなかった」は 3.0%で、前回の調査よりも 0.4%減少しており、相談することの重要性は徐々に認識されているようである。

(3) 結婚観や家庭生活について

「結婚を負担と感じるか」については、女性で 35.3%、男性で 26.9%であり前回の調査と比べてやや増加している。特に未婚者で負担に感じるとの回答は 54.0%となっている。負担と感じる内容であるが、男女でその認識に差があり、男性では「経済的負担」を、女性では「家族関係・親せき付き合い」を負

3. 調査結果の概要

担として重く感じている。

「家庭における夫婦の役割分担」については、そのほとんどを妻が担っているが、前回の調査と比較すると、夫も家庭における役割を担うようになってきている。夫婦が協力して家事や育児、介護などの役割を担うようになってきているが、男女間での認識の差は大きい。夫婦が比較的一緒に関わっている項目が地域活動であり、前回の調査と比べても、男性がその役割を担うことが多くなっている。

(4) 教育について

「子どもがどのように育ってほしいか」については、「経済的な自立ができるように」という回答が男の子、女の子とも前回の調査よりも増加している。特に男の子については、62.5%を占めている。また「責任感をもてるように」は男の子に対して、「やさしさと思いやりをもつように」は女の子に対する期待として大きくなっている。ただし、この割合は前回の調査と比べると低下している。

「学校教育において、男女平等に配慮してほしいこと」については、「性別に関わらず、個性や能力を活かせるような生徒指導や進路指導に配慮する」が最も多く、次いで、「学校では、男女がともに協力しあい、学習や行事に参加できるように配慮する」である。いずれも前回の調査よりもその割合は増加している。これらについて、性別でみると、女性の回答の割合がやや高くなっている。

(5) 地域活動について

1 年間に参加した地域活動については、「自治会・町内会等の活動」44.6%、「仲間・友人と行うサークル活動」28.1%となっている。前回の調査と比べた場合、「自治会や町内会等の活動」への参加が低下している。年代別にみると仲間・友人とのサークル活動などへは若年者が中心で、年代が高くなるにしたがい自治会・町内会等への参加が中心となる。

今後参加してみたい活動では、「イベントなどのボランティア」が最も多く、次いで「仲間・友人と行うサークル活動」となっている。ボランティアなど新しい市民活動や仲間内の活動に関心がある一方で、「少年団（子ども会）活動・PTA 活動、老人会、婦人会活動」には 23.4%が、「自治会・町内会等の活動」には 18.3%が「参加したくない」と回答している。

(6) 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について

「生活の中での優先度 あなたの希望と現実（現状）」については、男女とも、20 歳代から 40 歳代では、『「仕事」と「家庭生活」を優先したい』と希望していることがわかる。しかし、『「仕事」と「家庭生活」を優先したい』との希望者のうち男性では 39.7%、女性では 36.1%しか実現ができていない。現実には男性は『「仕事」が優先』となり、女性は『「家庭」が優先』となっており、希望と現実に大きな差があることがわかる。

(7) 就労について

「女性が仕事をもつこと」については、男女とも「結婚や出産を機に女性は一時家庭に入り、育児が終わると再び仕事をもつ方がよい」という就労一時中断型の回答が最も多く、女性では、60.1%、男性では、55.2%となり前回の調査よりも増えている。「結婚・出産をきっかけとして家庭に入る方がよい」との考えは減少してきているものの、女性の 8.0%に対し、男性では 17.7%を占め、男女の意識の差が見られる。「結婚や出産の後も仕事を続ける方がよい」との考えでは、男性の 20 歳代で 3.8%と低く、

30 歳代から 50 歳代でほぼ 20%、女性では、20 歳代から 40 歳代でほぼ 30%、50 歳代で 24.4%が就労を継続することがよいと考えている。

女性に限定した「仕事を辞めた経験」については、「ある」という回答は 77.1%を占め。前回の調査と比べてもこの割合はやや低下している。年代別でみると、仕事を辞めた経験があるのは、30 歳代以上で多くなっている。婚姻状況との関係を見ると、既婚では 80%以上が仕事を辞めた経験があり、結婚や出産を機に仕事を辞めた女性が多いことを示している。

女性の「働くにあたって気がかりなこと」については、前回の調査と比較すると、「年齢制限を受けないか」「家庭との両立ができるか」という回答の割合が増加しており、「自分に向けた仕事につけるか」などは低下している。

「女性の働きやすい環境をつくるために重要だと思うこと」については、まず「保育所や学童保育（児童クラブ）などの育児環境を充実する」が最も多くを占めている。次いで「パートタイムなどの女性の労働条件を向上する」である。以下、「多様な働き方ができる環境を整備する」、「出産後も職場復帰できる再雇用制度を充実する」、「女性が働ける職場の増加や職業紹介の充実」となっている。

（８）市の男女共同参画推進に関する施策について

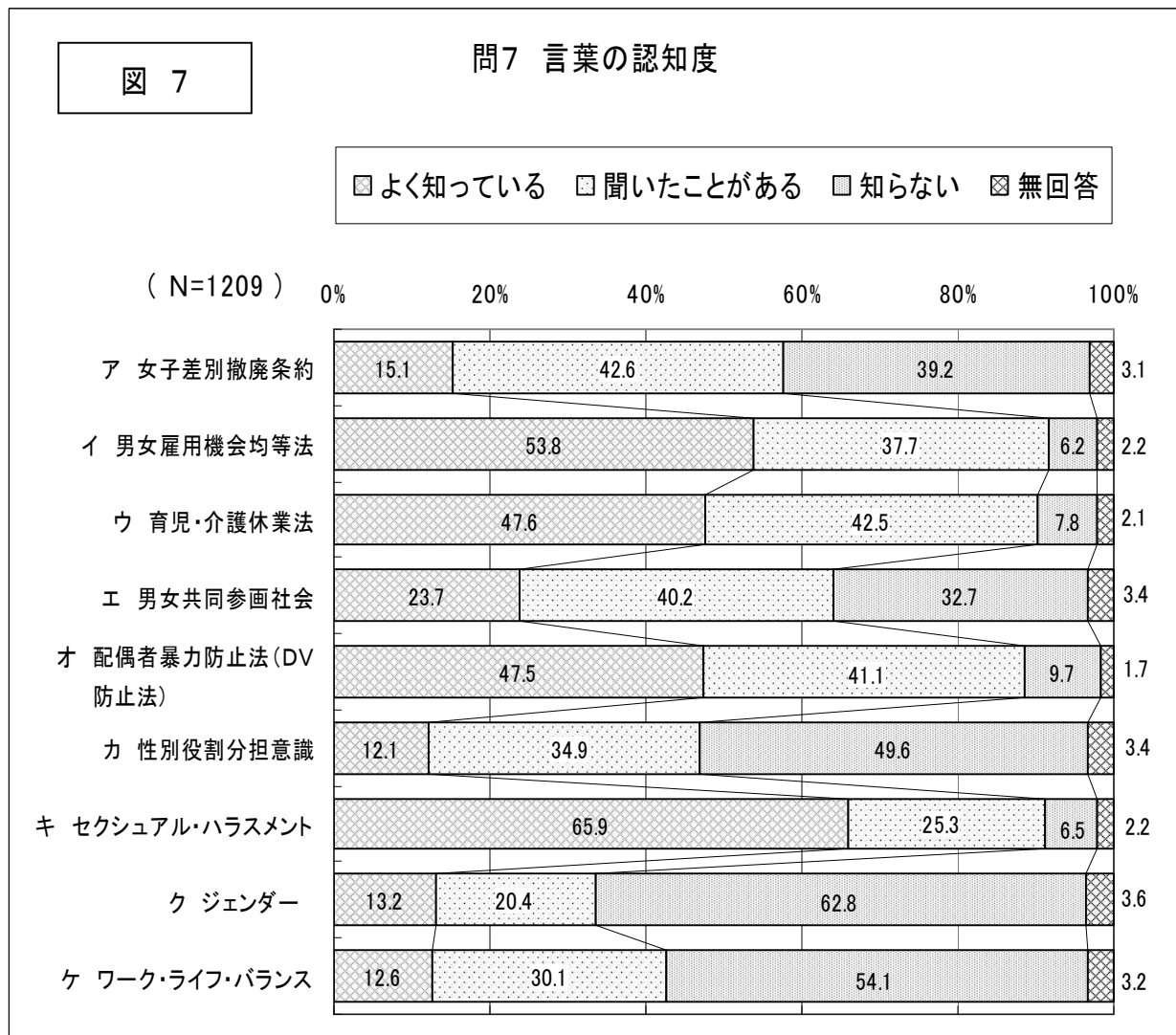
「加古川市男女共同参画センターの知名度」については、全体では「利用したことがある」が 2.2%、「知っているが利用したことがない」は 29.2%、「知らない」が 66.6%である。女性では、「利用したことがある」が 3.4%、「知っている」が 31.2%であり、いずれも男性を上回ることから女性に対して知名度が高い。

「男女共同参画社会を実現していくために市に望むこと」については、最も多い回答が、「保育や介護に関するサービスの充実」である。次いで「就労条件の改善や、男女の平等な扱い、男性を含めた働き方の見直しなど、企業等への啓発」となっており、どちらも家庭生活と仕事の両立ができる環境整備への期待である。以下、「男女共同参画社会について広報紙等で P R する」、「男女がともに参画できる地域社会づくりの推進」、「女性の就労支援や交流・情報提供の充実」、「学校で平等意識を育てる教育を充実させる」、「あらゆる分野へ女性が参画できるよう、女性の人材育成」が続く。

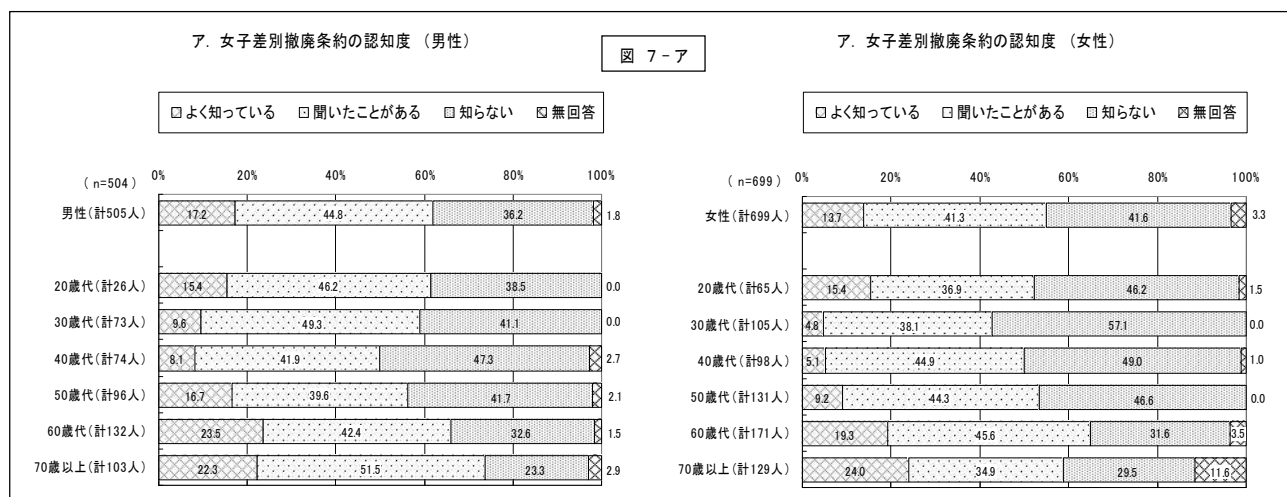
4. 調査結果

(1) 男女の平等感などについて

問7 次のア～ケの言葉を知っていますか。それぞれあてはまる番号に○をつけてください。
(単数回答)

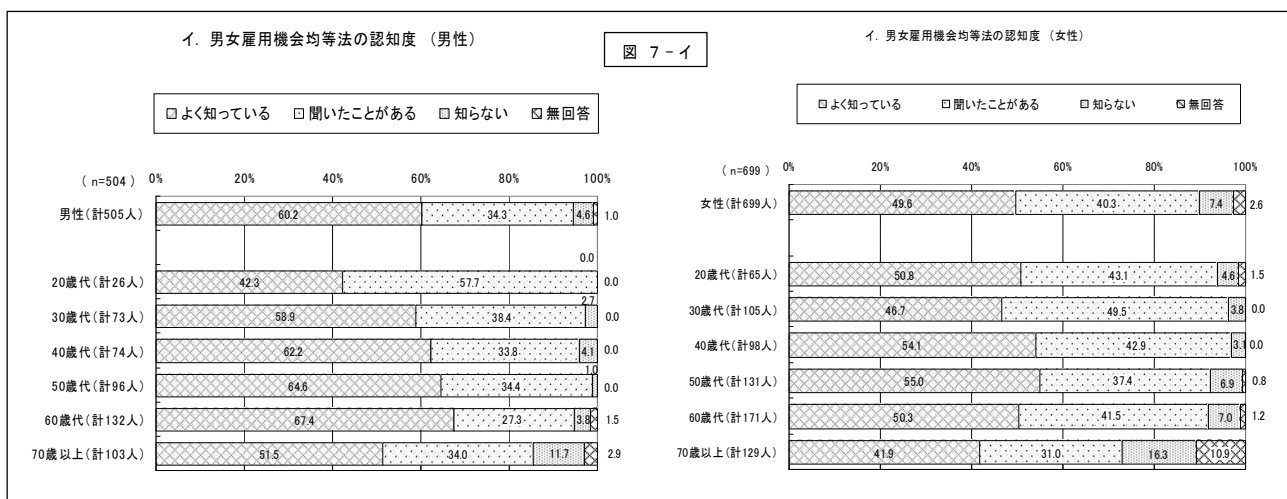


「言葉の認知度」については、全般的な特徴として第一に、「ジェンダー」、「ワーク・ライフ・バランス」というカタカナ言葉は認知されにくい結果となっている。第二に、「男女機会均等法」など法律となっている言葉の認知度が高い。制度として、実際の生活にも影響しているためと考えられる。



「女子差別撤廃条約」については、「よく知っている」が 15.1%（18.2%）と低く、「知らない」が 39.2%（35.4%）である。（カッコ内の数字は前回の調査結果）。前回の調査よりも認知度は低下している。年代別では 60 歳代、70 歳代以上では男女とも 3 分の 2 以上が知っている。一方、年代が低下するに従って、「知らない」は増加する傾向にある。

平成 21 年度内閣府の「男女共同参画社会に関する世論調査」（以下、「内閣府世論調査」と称する）（回答数 3,240）調査では、「男女共同参画社会に関する用語の周知度」について、「見たか聞いたことがある」との回答を集計しており、「女子差別撤廃条約」については 35.1%を占めている。

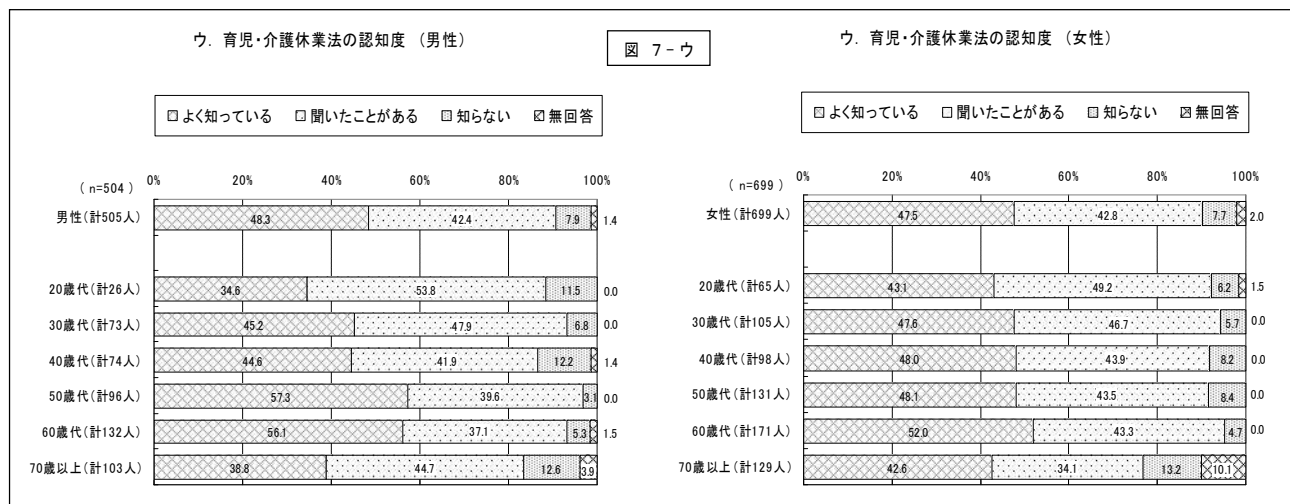


「男女雇用機会均等法」については、「よく知っている」が 53.8%（57.7%）、「聞いたことがある」37.7%（35.5%）であり、ほぼ定着した言葉といえる。前回の調査と比べ大きな差は見られない。

これを性別、年代別でみると、70 歳以上の世代以外は、「知らない」との回答は 7.0%未満であり、性別を問わず各年代に認知された言葉である。性別でみると、女性よりも男性の方が「よく知っている」との回答の割合がどの年代でも高く、男性に認知度が高い。また、「よく知っている」との回答については女性では 40 歳代、50 歳代が多い。同法の制定は昭和 60 年（1985 年）で、女性の場合、現在 40 歳代は大学を卒業して同法の適用を受けた世代である。

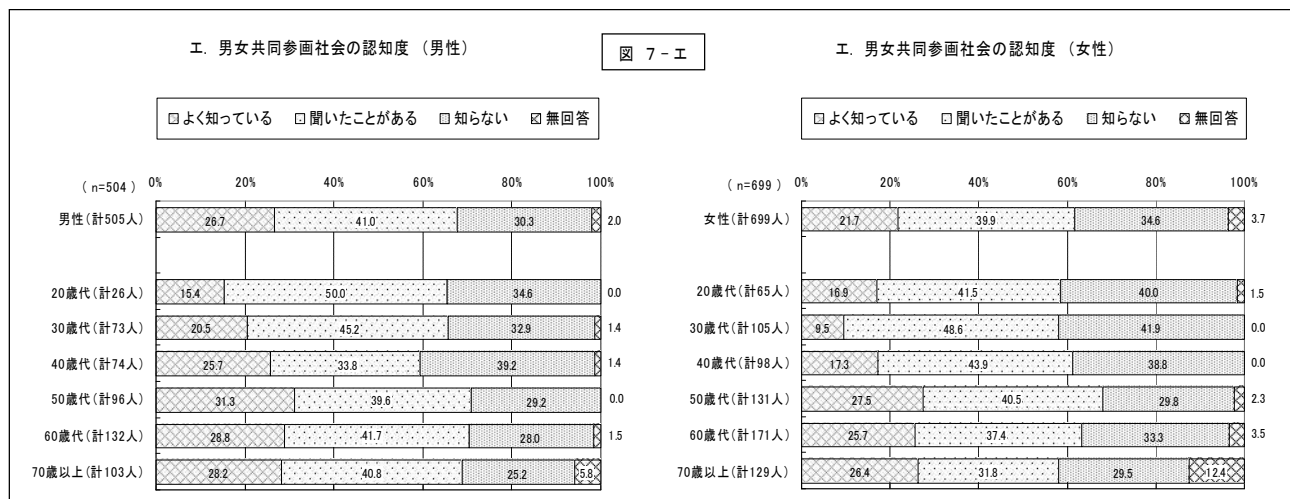
なお、内閣府世論調査では、79.3%が「見たか聞いたことがある」との回答であるため、加古川市の方が認知度が高いといえる。

4. 調査結果



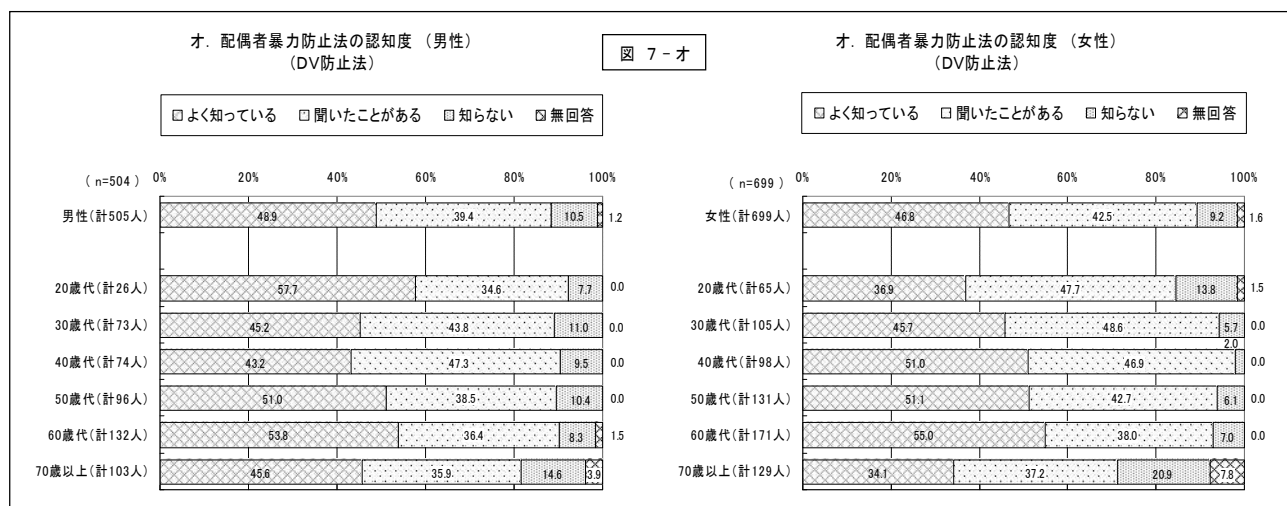
「育児・介護休業法」については、「よく知っている」が 47.6% (46.5%)、「聞いたことがある」42.5% (42.5%) で、合わせて 90%であり、前回の調査の結果と同様、認知された言葉といえる。

性別、年代別で見ると、女性では認知度が全般的に高いことがわかる。男性では、50歳代と60歳代で、「よく知っている」が60%近くを占め、これは女性の認知度を上回る。



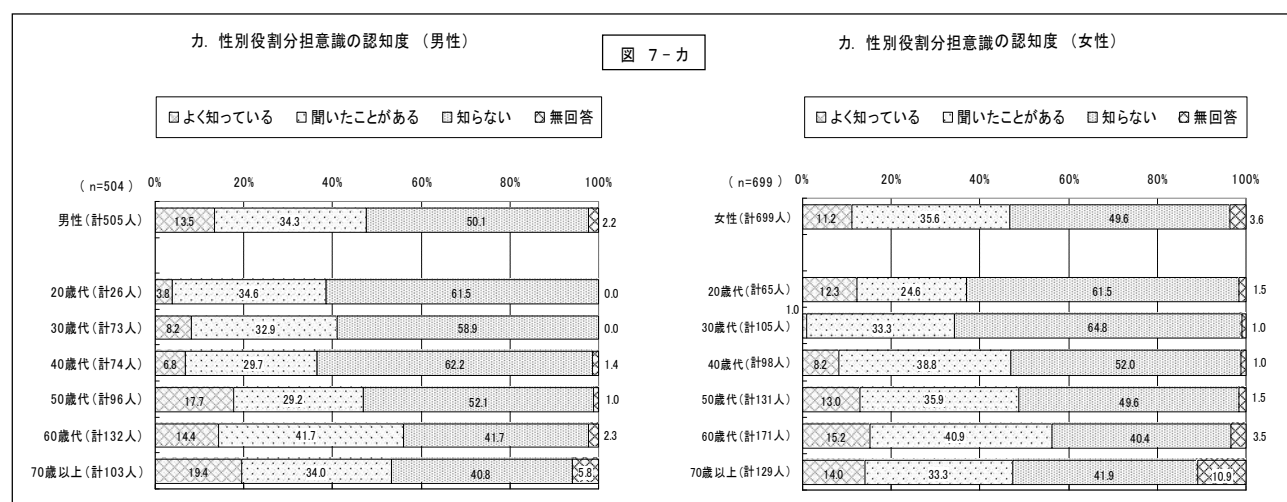
「男女共同参画社会」については、「よく知っている」23.7% (22.6%)、「聞いたことがある」40.2% (40.5%)、「知らない」32.7% (32.5%) で前回の調査の結果と変わらず、「知らない」の割合が3分の1を占めている。

年代別では、男女とも50歳代以上では、「よく知っている」が30%程度を占めており、年代が高いほど認知された言葉となっている。なお、内閣府世論調査では64.6%が、「見たり聞いたりしたことがある」と回答しており、ほぼ加古川市の結果と一致する。また、男女とも年代の高い層で認知度が高いことも共通する傾向である。



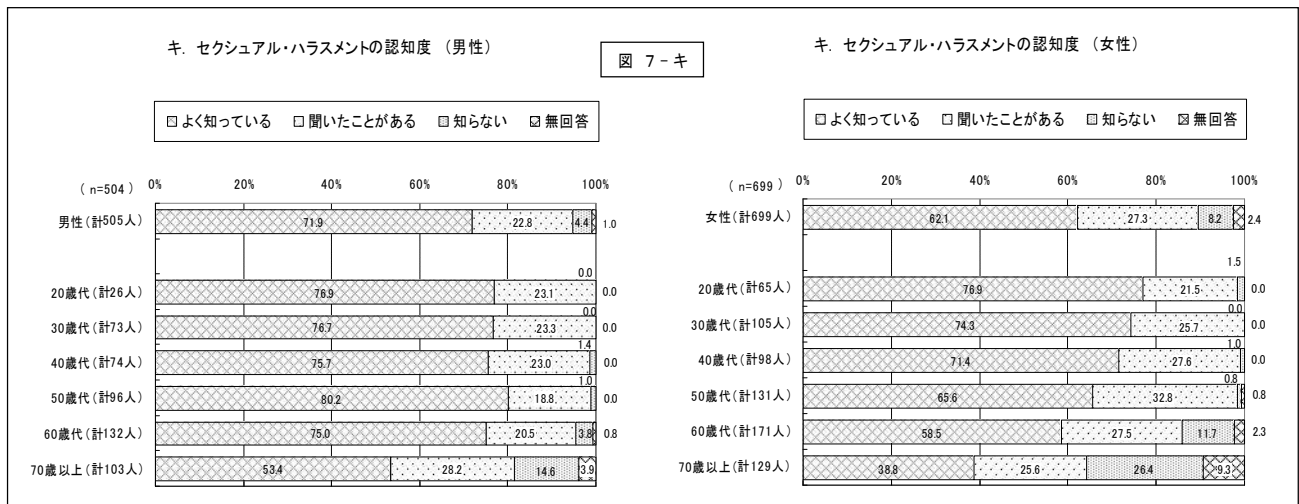
「配偶者暴力防止法（DV防止法）」については、「よく知っている」が47.5%、「聞いたことがある」が41.1%となっており高い割合を占める。

内閣府世論調査では、「見たり聞いたりしたことがある」との回答が78.7%であるが、加古川市では「よく知っている」、「聞いたことがある」との回答は88.6%を占めており、全国に比べ認知度は高い。内閣府世論調査でも、女性の若年者や高齢者の認知度が低く、この点も加古川市の結果の傾向とも一致する。

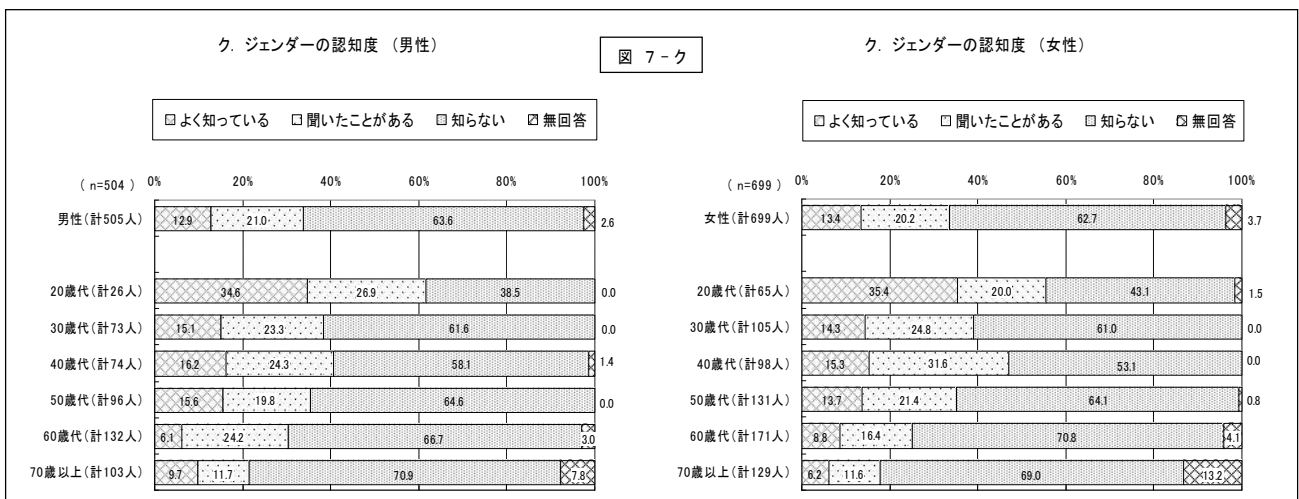


「性別役割分担意識」については、言葉としての認知度は低い。「よく知っている」12.1%（16.8%）、「聞いたことがある」34.9%（36.2%）、「知らない」49.6%（42.3%）という結果で、前回の調査よりも認知度は低下している。

4. 調査結果

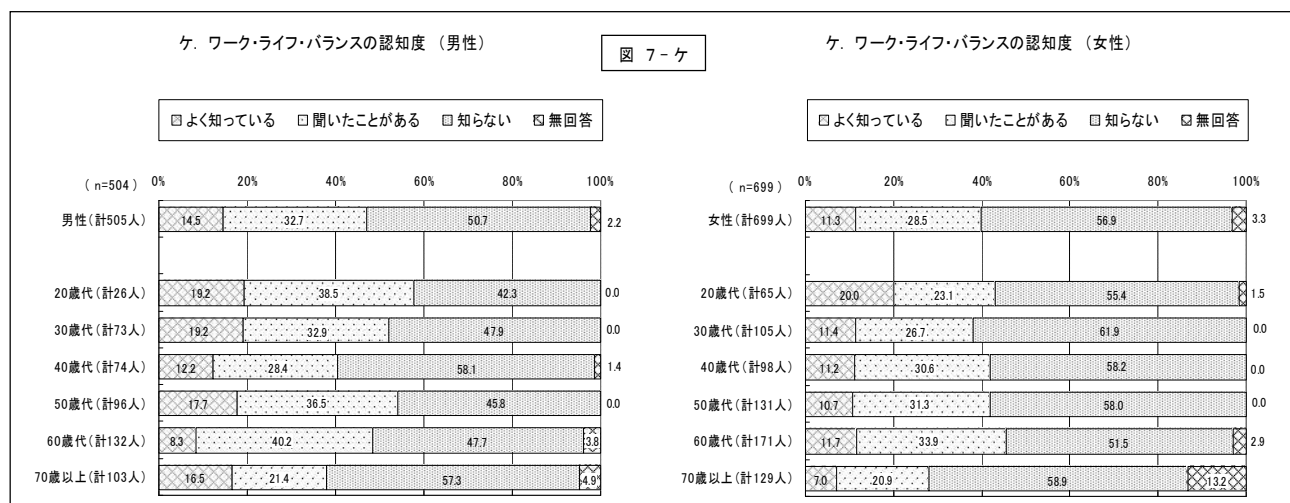


「セクシュアル・ハラスメント」については、調査対象の中では最も認知度が高い言葉となっている。性別、年代別に見ると男性では、70歳以上を除き、「よく知っている」が4分の3以上を占める。女性の場合は、「よく知っている」との回答の割合は年代が高くなるほど低下する。



「ジェンダー」については、調査対象の中で最も認知度が低い。「よく知っている」は13.2%、「聞いたことがある」との回答は20.4%である。内閣府世論調査でも31.9%が「見たか聞いたことがある」との回答で、加古川市の結果とほぼ一致する。前回の調査では、「よく知っている」と「聞いたことがある」の合計は31.3%であったので、わずかであるが認知度は上昇している。

性別、年代別では、若年層ほど認知度が高く、特に20歳代の男性では34.6%が、女性では35.4%が「よく知っている」と回答している。内閣府世論調査の20歳代では男性で16.1%、女性で12.5%が回答しており加古川市の方が高い結果となっている。



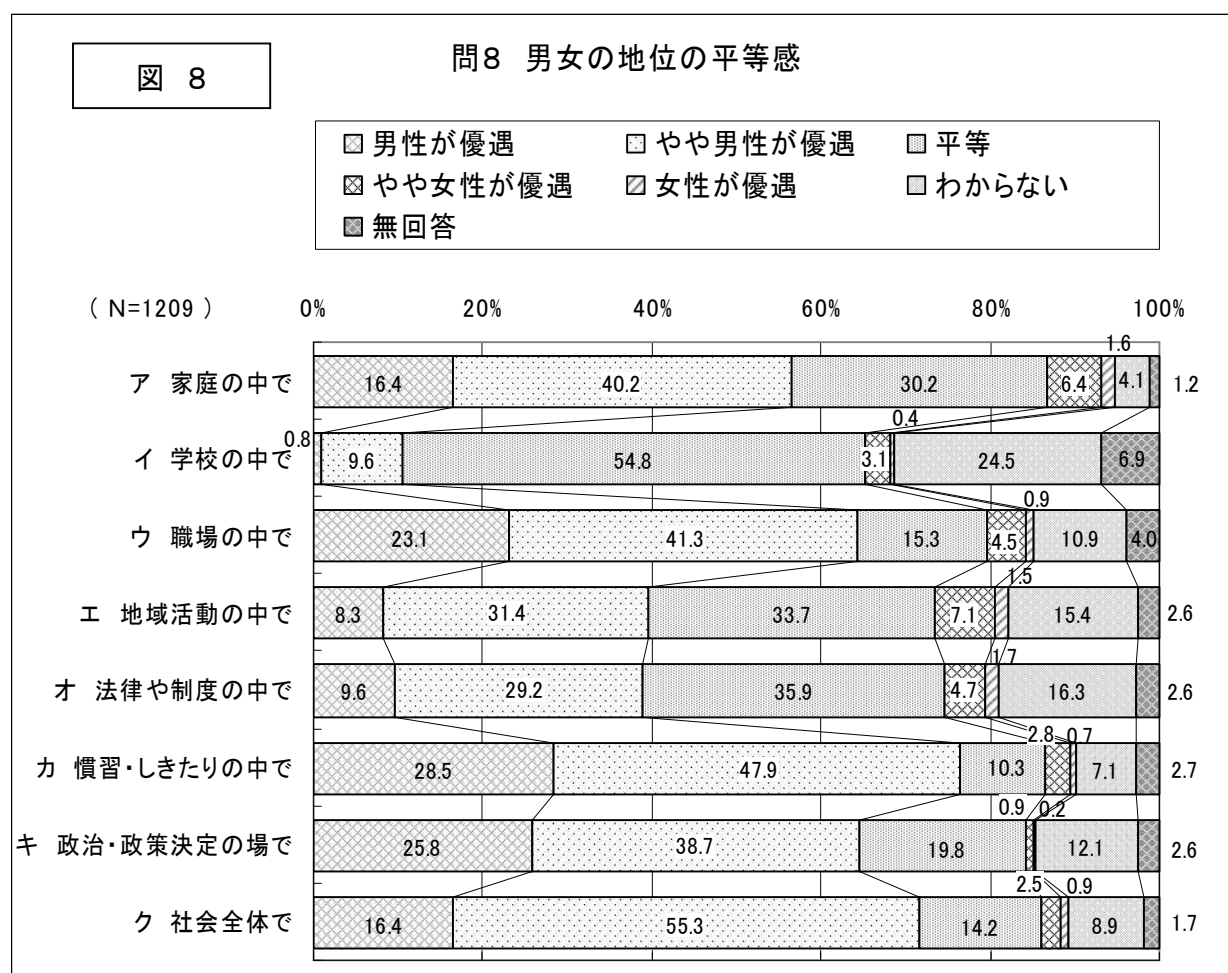
「ワーク・ライフ・バランス」については、新しい言葉であるため認知度は低い。性別、年代別で見ると、男性が女性を上回る。

男性では、60歳代の「よく知っている」が8.3%と他の年代と比べ少し低いと全体的に大きな差はみられない。「聞いたことがある」を含めると20歳代から40歳代までと50歳代から70歳以上までとで2分化している。40歳代まで認知度は低下し、50歳代で上昇する。その後年代が高くなるほど低下する。

女性では、20歳代の「よく知っている」が20.0%と比較的高く、また「聞いたことがある」を含めると70歳以上が27.9%と低くなっている。

4. 調査結果

問8 次のような分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。次のア～クの項目について、あてはまる番号に○をつけてください。（単数回答）



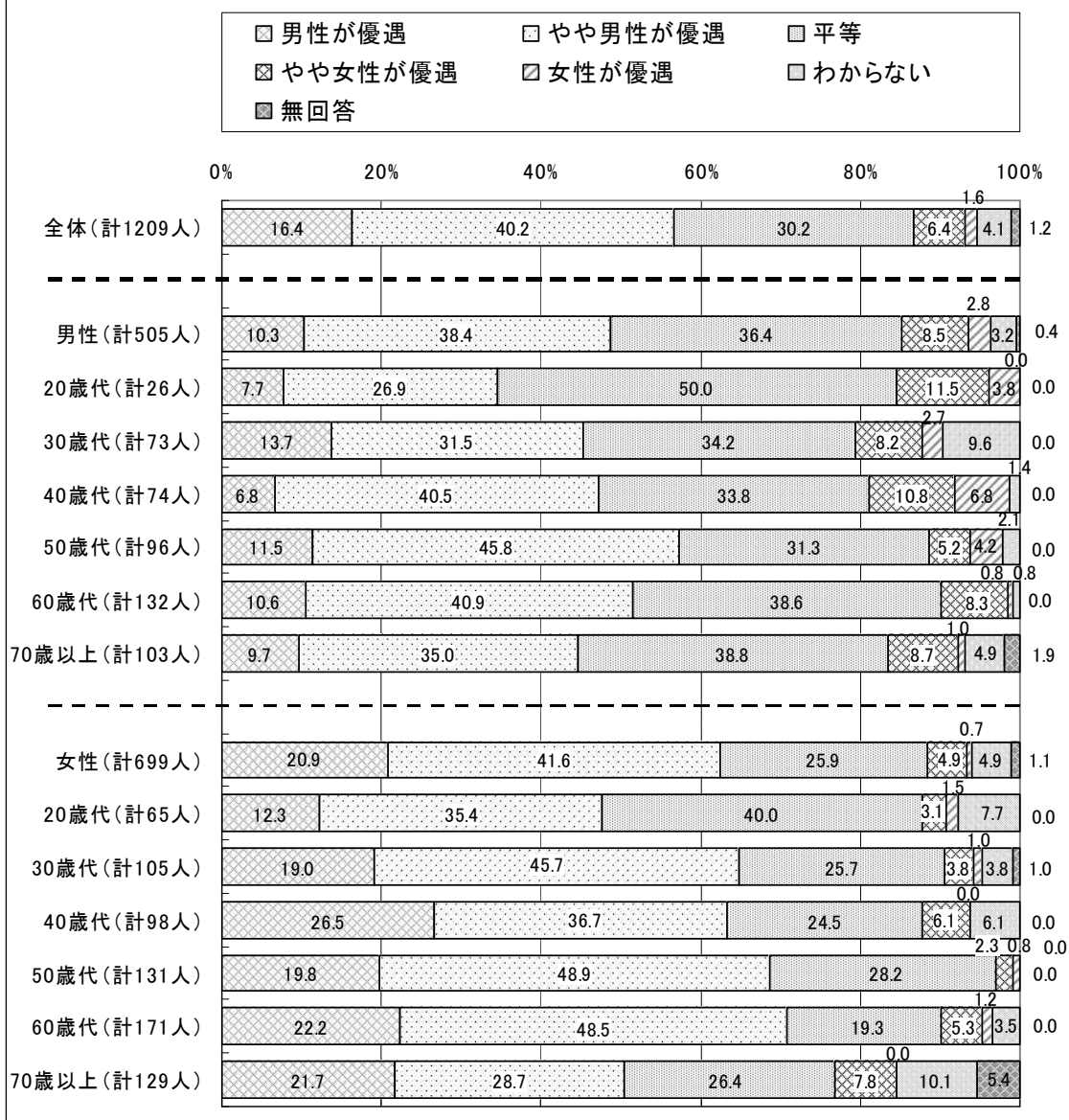
社会の様々な場面での「男女の地位の平等感」については、すべての場面において、男性が優遇されていると感じていることがわかる。特に男性が優遇されていると感じている項目としては、「職場の中で」、「慣習・しきたりの中で」、「政治・政策決定の場で」、「社会全体で」である。「男性が優遇」、「やや男性が優遇」を含めると60%以上を占める。

最も平等感があるのは「学校の中で」となっており、54.8%が「平等」と回答している。次いで「法律や制度の中で」・「地域活動の中で」・「家庭の中で」の順である。

「女性が優遇」との回答は、すべての分野において2.0%以下である。「やや女性が優遇」を含めても「地域活動の中で」の8.6%が最も多い割合となっている。

図 8-ア

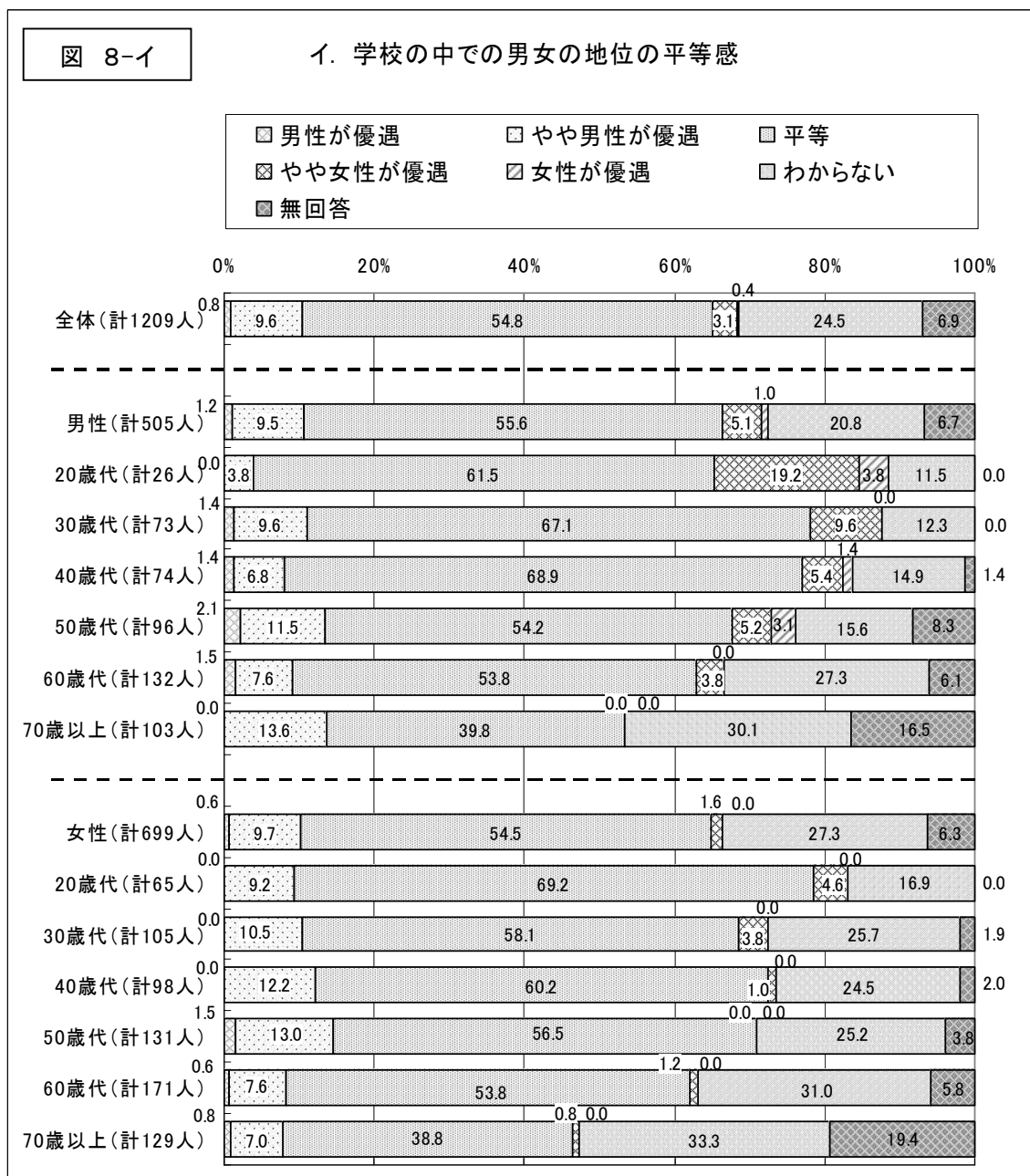
ア. 家庭の中での男女の地位の平等感



「家庭の中での男女の地位の平等感」については、「男性が優遇」は 16.4% (18.7%)、「男性がやや優遇」は 40.2% (39.1%) で「男性が優遇」との回答が多く、「平等」は 30.2% (25.0%) であるが、前回の調査との比較では、少しずつ平等の方向に改善されている。

性別、年代別でみると、男性では 20 歳代の 50.0% が、女性では 40.0% が「平等」であると感じている割合が最も高い。内閣府世論調査と比較した場合、全国では、男性で 30 歳代以上の年代でも 50% 以上が「平等」、と回答している。加古川市では、30 歳以上のすべての年代で 40% 未満である。女性の場合も全国では 20 歳代で 47.2% が、30 歳代で 41.8% が「平等」と回答しているが、加古川市では、20 歳代で 40.0%、30 歳代で 25.7% であり、全国と比べると割合は、低くなっている。

4. 調査結果

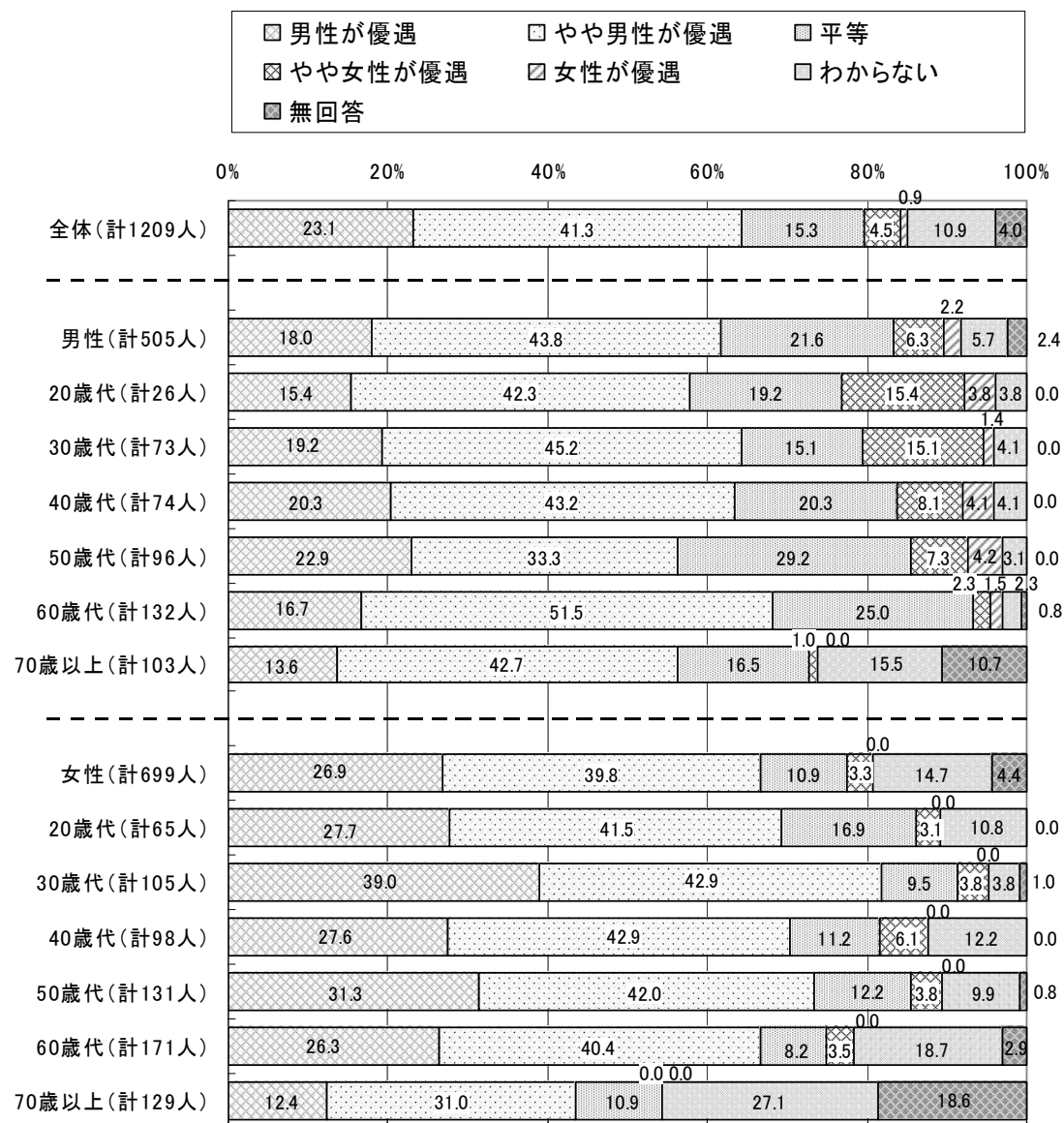


「学校の中での男女の地位の平等感」については、男女とも「平等」との回答は70歳以上を除き、過半数を超える。また男性の20歳代の回答では「やや女性が優遇」、「女性が優遇」が23.0%を占め、「男性が優遇」、「やや男性が優遇」の回答の3.8%を大きく上回っている。なお、年代が高くなるほど「わからない」という回答の割合が増える。

内閣府世論調査でも、すべての年代において「平等」の回答が最も多く、年代が高くなるほど「わからない」と回答する割合が高くなっている。

図 8-ウ

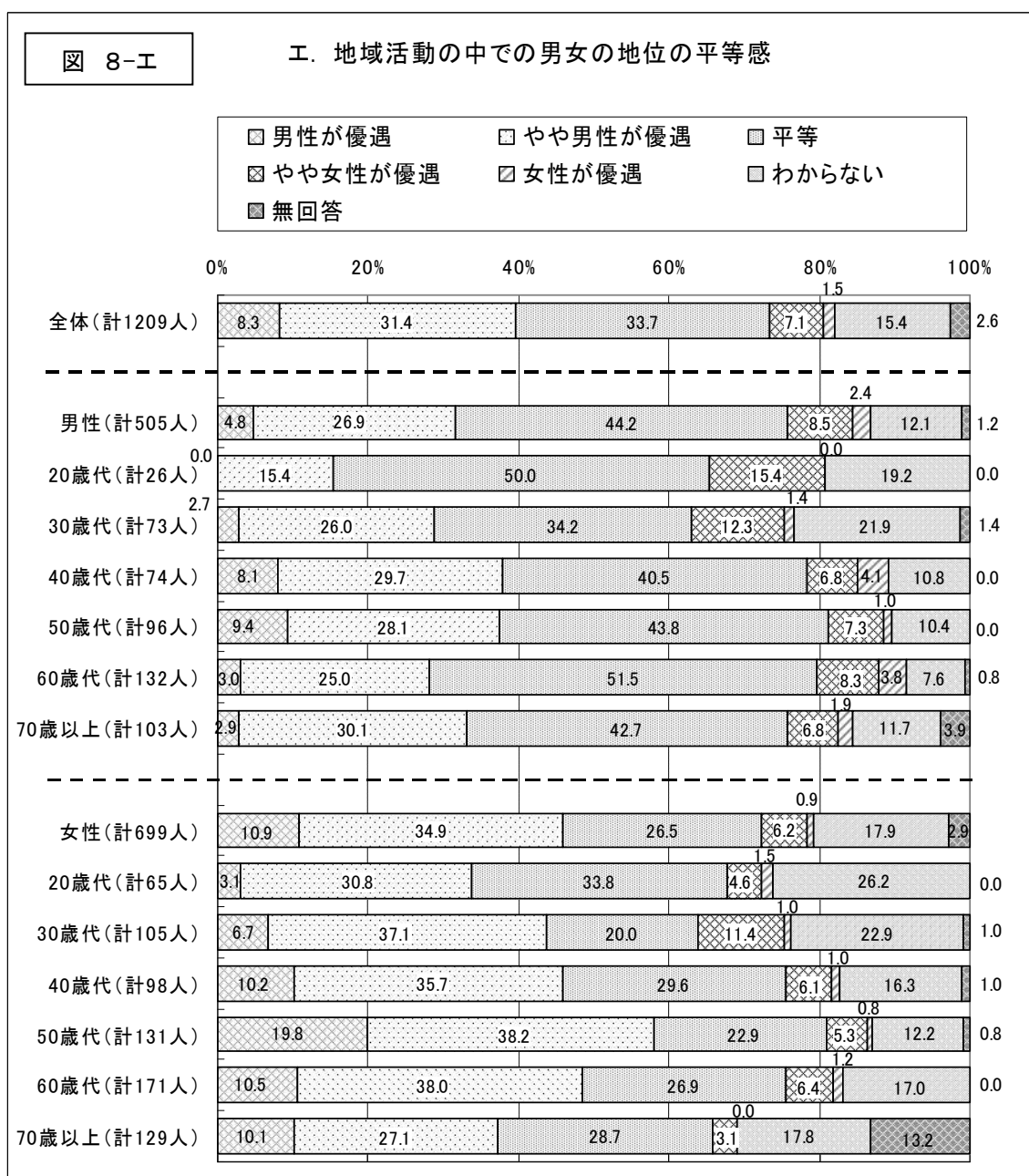
ウ. 職場の中での男女の地位の平等感



「職場の中での男女の地位の平等感」については、どの年代をみても男女ともに「男性が優遇」、「やや男性が優遇」の割合が高い。特に女性の30歳代での割合が81.9%を占め男性が優遇されているとの感が強い。この傾向は、内閣府世論調査とも一致する。

男性では、年代が高くなるほど「やや女性が優遇」、「女性が優遇」の割合が低くなっている。女性では、すべての年代で「女性が優遇」と回答した人はいない。

4. 調査結果

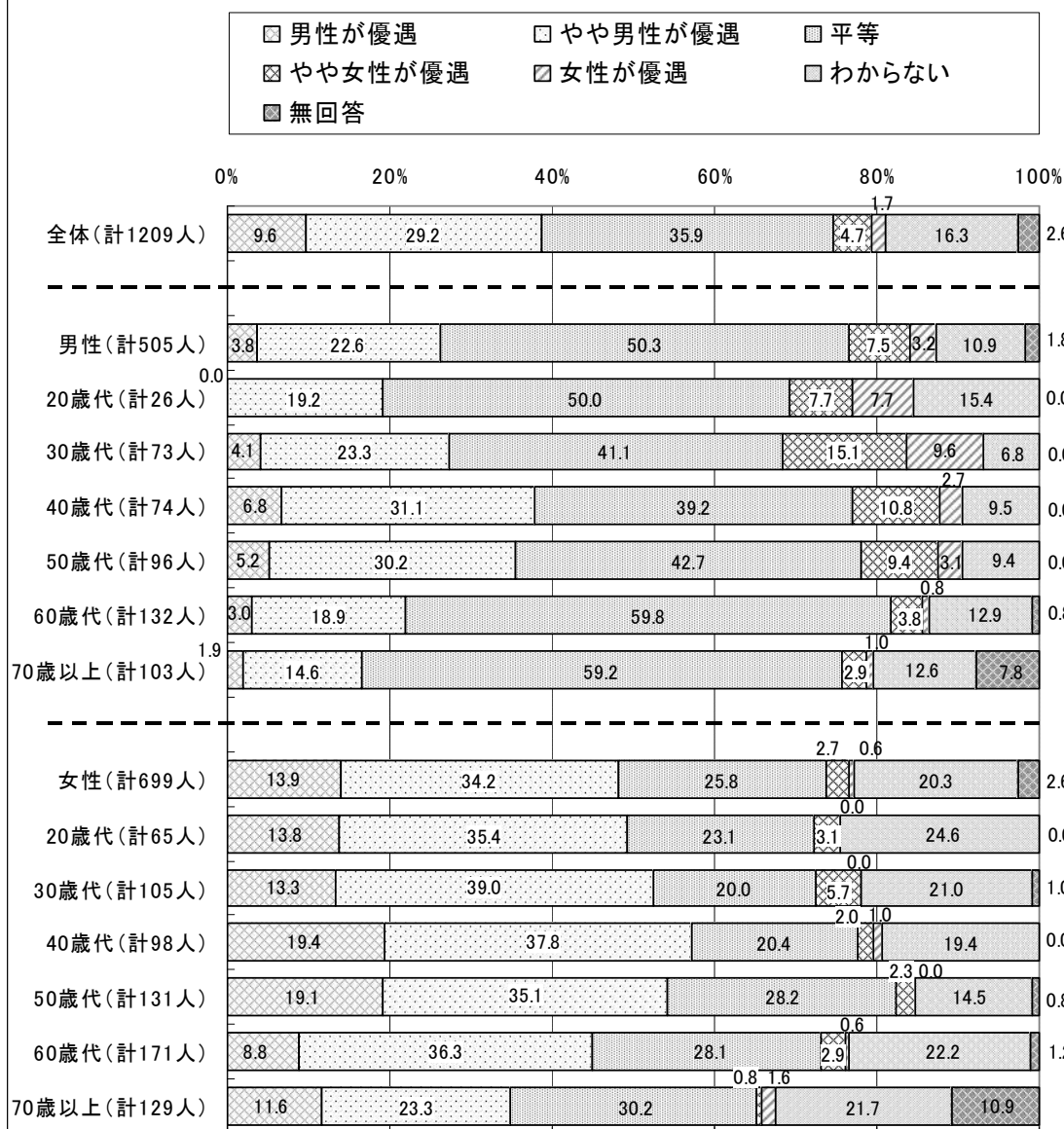


「地域活動の中での男女の地位の平等感」については、男性の「平等」との回答は44.2%であるのに対し、女性では26.5%となっており、男女での認識の差が大きいことがわかる。

年代別では、「男性が優遇」、「やや男性が優遇」の割合が男女とも50歳代まで増加傾向にあり、60歳代で低下する。また、60歳代で「女性が優遇」の割合が高くなる。内閣府世論調査でも、地域活動における男女の優遇の割合の逆転が、60歳代でみられる。

図 8-オ

オ. 法律や制度の中での男女の地位の平等感

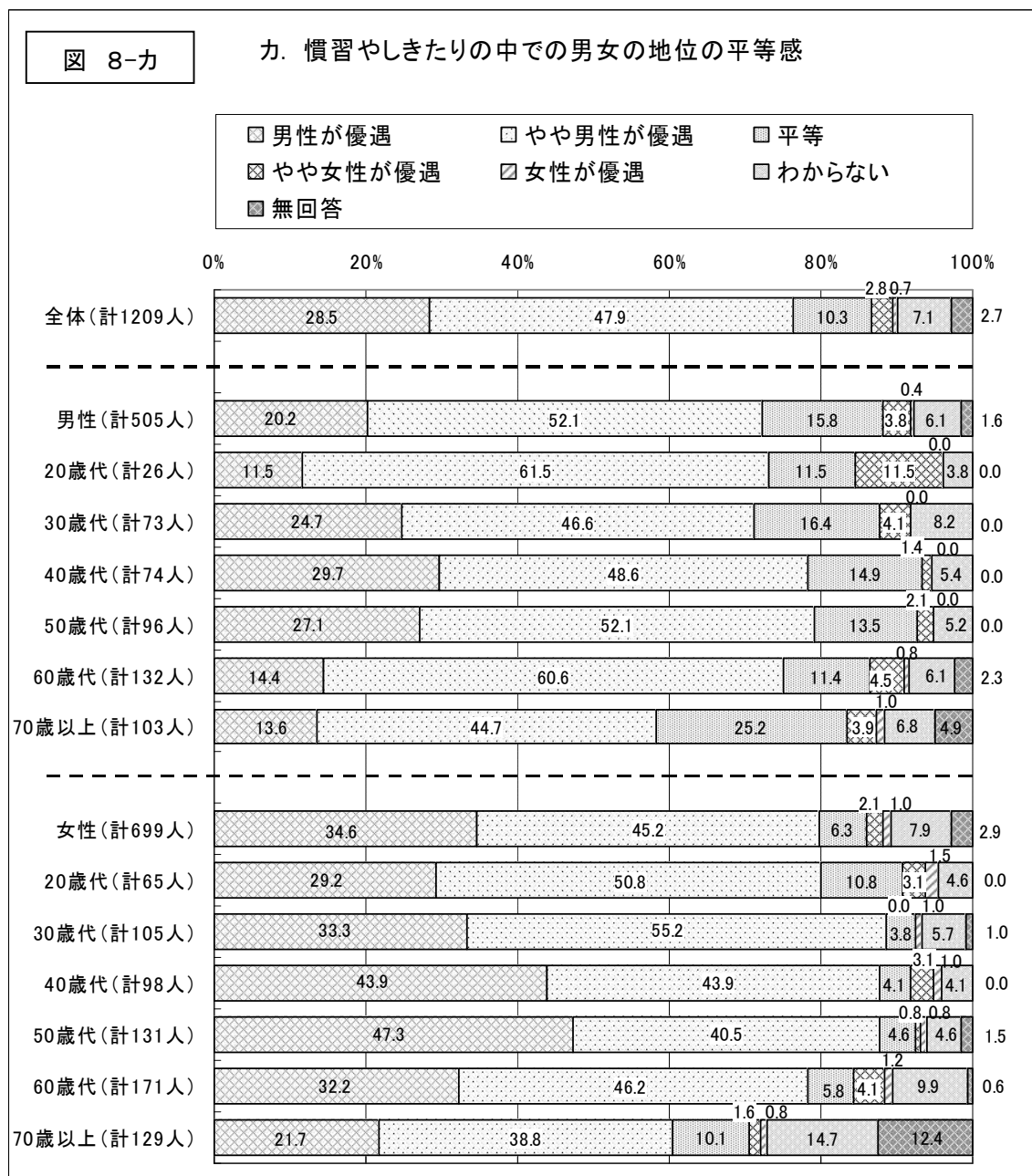


「法律や制度の中での男女の地位の平等感」については、「平等」であるとの回答は、男性で50.3%、女性では25.8%となっており、男女での認識の差が大きいことがわかる。

年代別では、男性の60歳代、70歳以上では、「平等」であるとの回答がほぼ60%を占め「平等」であるとの意識が特に強い。

内閣府世論調査でも、男性はどの年代でも過半数が「平等」と回答するのに対し、女性は「平等」の回答は30%程度であり、「男性の方が優遇されている」との回答がほぼ50%を占めており加古川市の傾向と一致する。

4. 調査結果

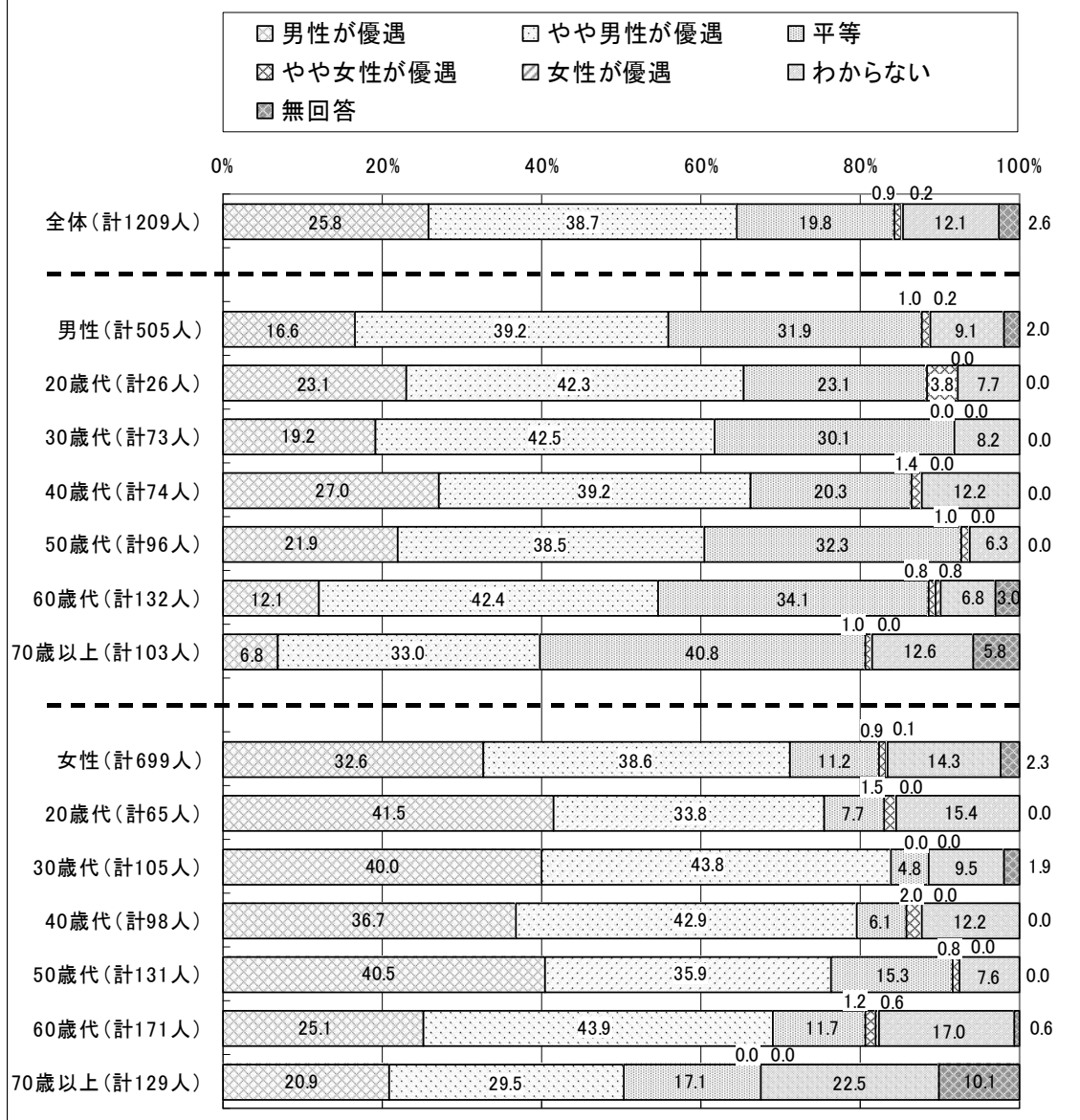


「慣習やしきたりの中での男女の地位の平等感」については、男性では、70歳以上を除き、「男性が優遇」、「やや男性が優遇」を合わせて70%程度が、女性は、70歳以上を除き、「男性が優遇」、「やや男性が優遇」を合わせて75%以上の回答であり、特に30歳代、40歳代、50歳代で、「男性が優遇」、「やや男性が優遇」との回答が90%近くを占めている。

内閣府世論調査でも40歳代、50歳代で「男性の方が優遇されている」との最も高い割合を示し、また女性の方が、「男性の方が優遇されている」との割合が高いことも加古川市の結果と一致する。

図 8-キ

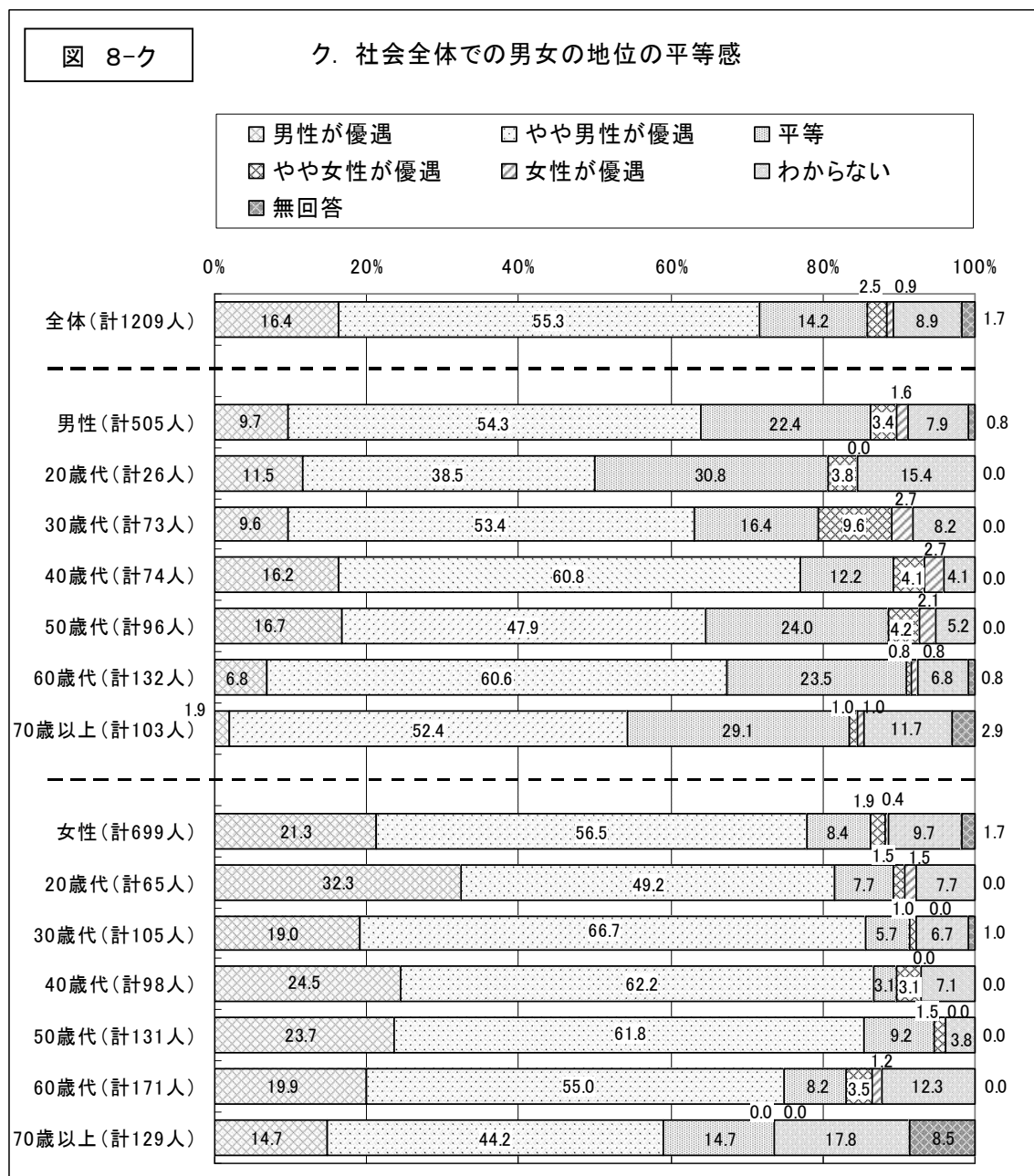
キ. 政治・政策決定の中での男女の地位の平等感



「政治・政策決定の中での男女の地位の平等感」については、「平等」という回答は、全体では19.8%であるが、男性では、31.9%であるのに対して、女性は、11.2%となっており、男女の平等感の認識の差が大きい。「男性が優遇」、「やや男性が優遇」との回答は男性では20歳代で合わせて65.4%、30歳代で61.7%、40歳代で66.2%と3分の2近くを占めるが、より高い年代でその割合は低下する傾向もみられる。女性の場合、同じ割合は20歳代で75.3%、30歳代では83.8%、40歳代で79.6%となり、ほぼ80%が男性が優遇されていると考えている。

内閣府世論調査でも女性の場合は、20歳代から50歳代で、80%以上が「男性の方が優遇されている」と回答している。男性の回答は70%程度であり、加古川市の結果と一致する

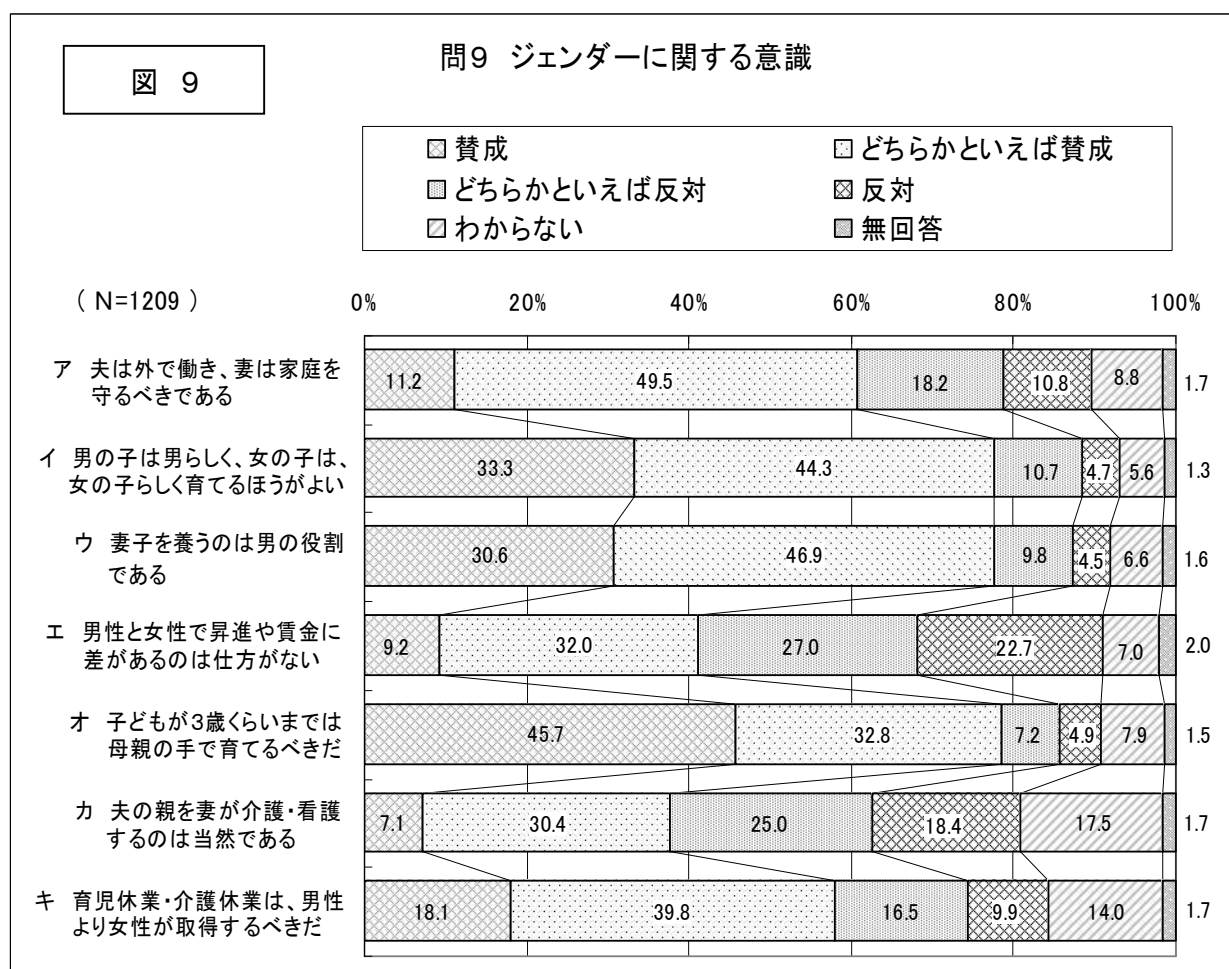
4. 調査結果



「社会全体での男女の地位の平等感」については、男女とも「男性が優遇」、「やや男性が優遇」を合わせた割合が 64.0%、77.8%と高い割合を占めており、男性が優遇されているとの意識が強い。特に男性では、40 歳代で 77.0%と高い割合を占めている。また、女性では、20 歳代から 50 歳代まで、80%以上を占めるなど、女性の方がより男性の方が優遇されているとの意識が強いことがわかる。

内閣府世論調査でも「男性の方が優遇されている」との割合は男性で 65.6%、女性で 77.6%となっており、年代別でも女性の 20 歳代から 50 歳代で高い割合を占めている。

問9 あなたは、次のア～キのような考え方に対してどのようにお考えですか。あてはまる番号に○をつけてください。（単数回答）



「ジェンダーに関する意識」については、「賛成」、「どちらかといえば賛成」という回答が過半数を占めるのは、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」、「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる方がよい」、「妻子を養うのは男の役割である」、「子どもが3歳くらいまでは母親の手で育てるべきだ」、「育児休業・介護休業は、男性より女性が取得すべきだ」という考え方である。一方、「男性と女性で昇進や賃金に差があるのは仕方がない」、「夫の親を妻が介護・看護するのは当然である」については、「反対」、「どちらかというと反対」が「賛成」、「どちらかというと賛成」を上回っている。

4. 調査結果

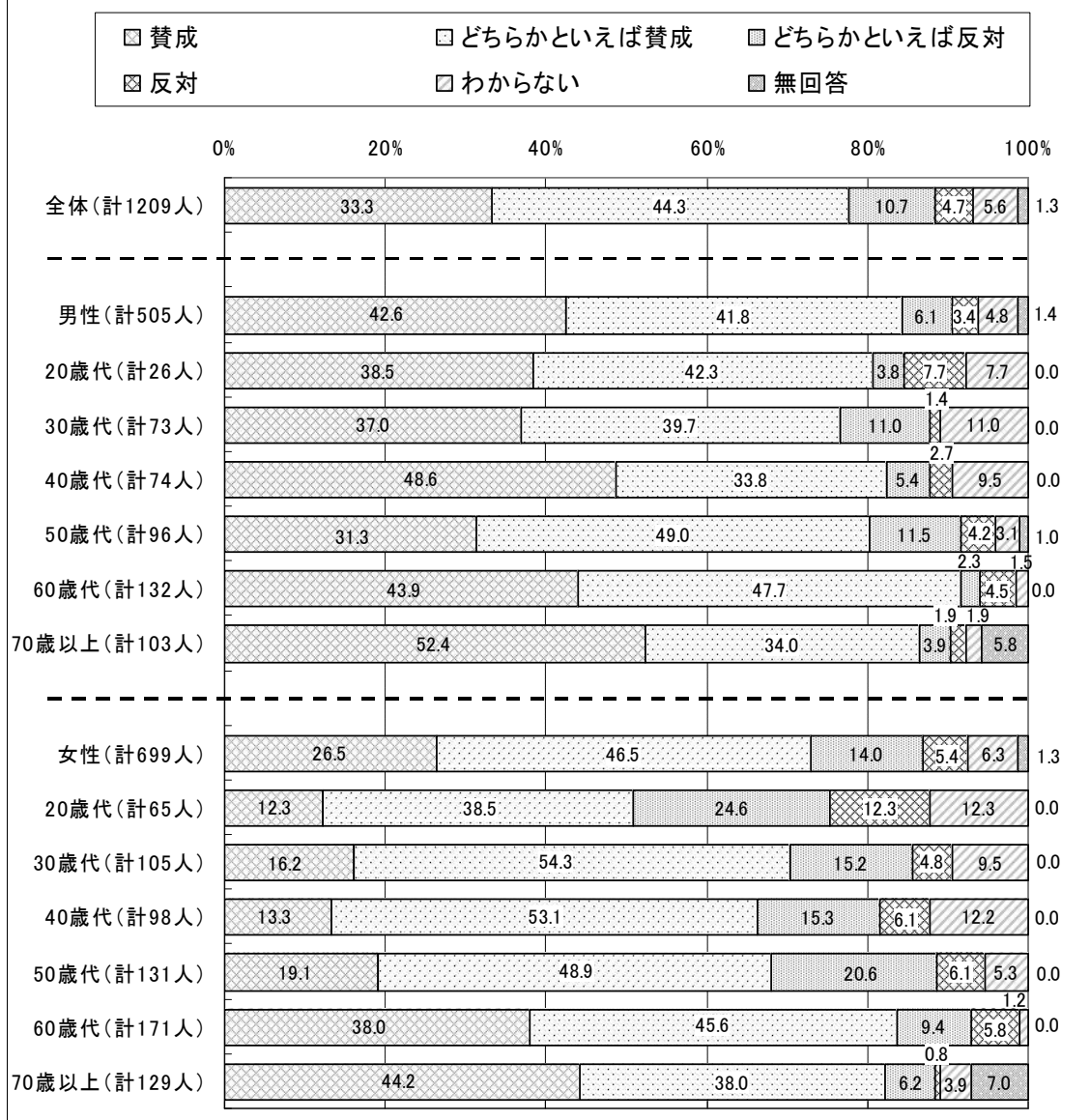


『「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について』は、性別・年代別にみると、女性の20歳代では「賛成」、「どちらかといえば賛成」が30.8%であり「反対」、「どちらかといえば反対」が61.6%を占めており反対の考え方が多い。30歳代では、「賛成」、「どちらかといえば賛成」が53.4%となり、反対の考え方は、35.2%と低下する。40歳代では「賛成」、「どちらかといえば賛成」が46.9%となり、またその割合は、年代が高くなるとともに大きな割合を占めるようになっていく。その一方で、30歳代から50歳代では「わからない」という回答も多い。

これに対し男性では20歳代、30歳代で、「賛成」、「どちらかといえば賛成」が46.1%、54.2%となり、「反対」、「どちらかといえば反対」も30.8%、32.9%となり女性のように20歳代、30歳代のような考え方の差はみられない。しかし、「わからない」との回答が多く20%以上を占める。また40歳代以上で、より「賛成」、「どちらかといえば賛成」の割合が高くなっている。

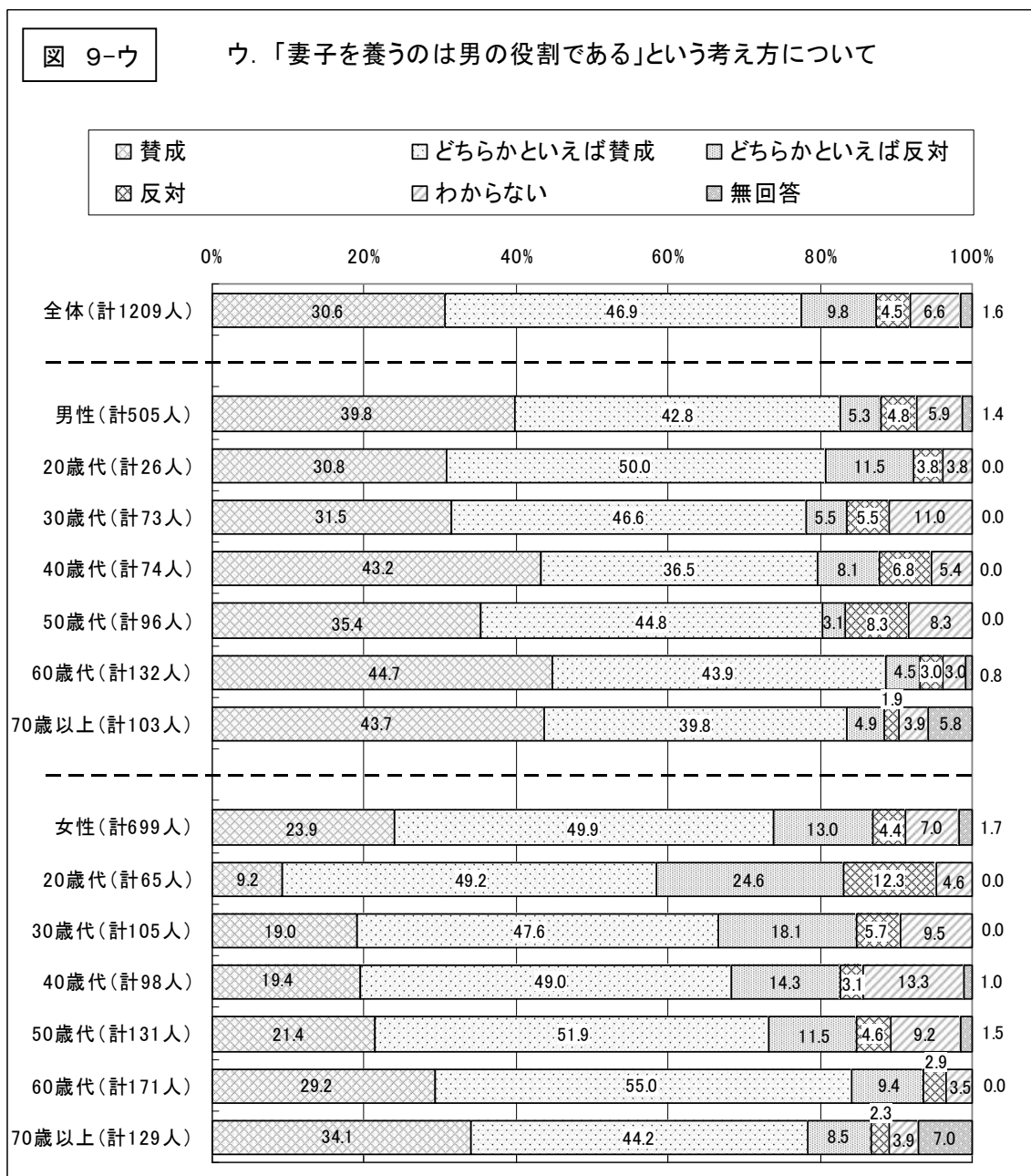
図 9-イ

イ. 「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる方がよい」という考え方について



『「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる方がよい」という考え方について』は、男女とも「賛成」、「どちらかといえば賛成」の割合が高く、男性では、すべての年代において4分の3以上を占めている。しかし、20歳代では、男性の「賛成」、「どちらかといえば賛成」が80.8%であるのに、女性では50.8%となっており、男女で大きく考え方が異なる。他の年代では男女で同じ傾向を示しており、年代が高くなるほど、「賛成」、「どちらかといえば賛成」の割合が高くなる傾向にある。

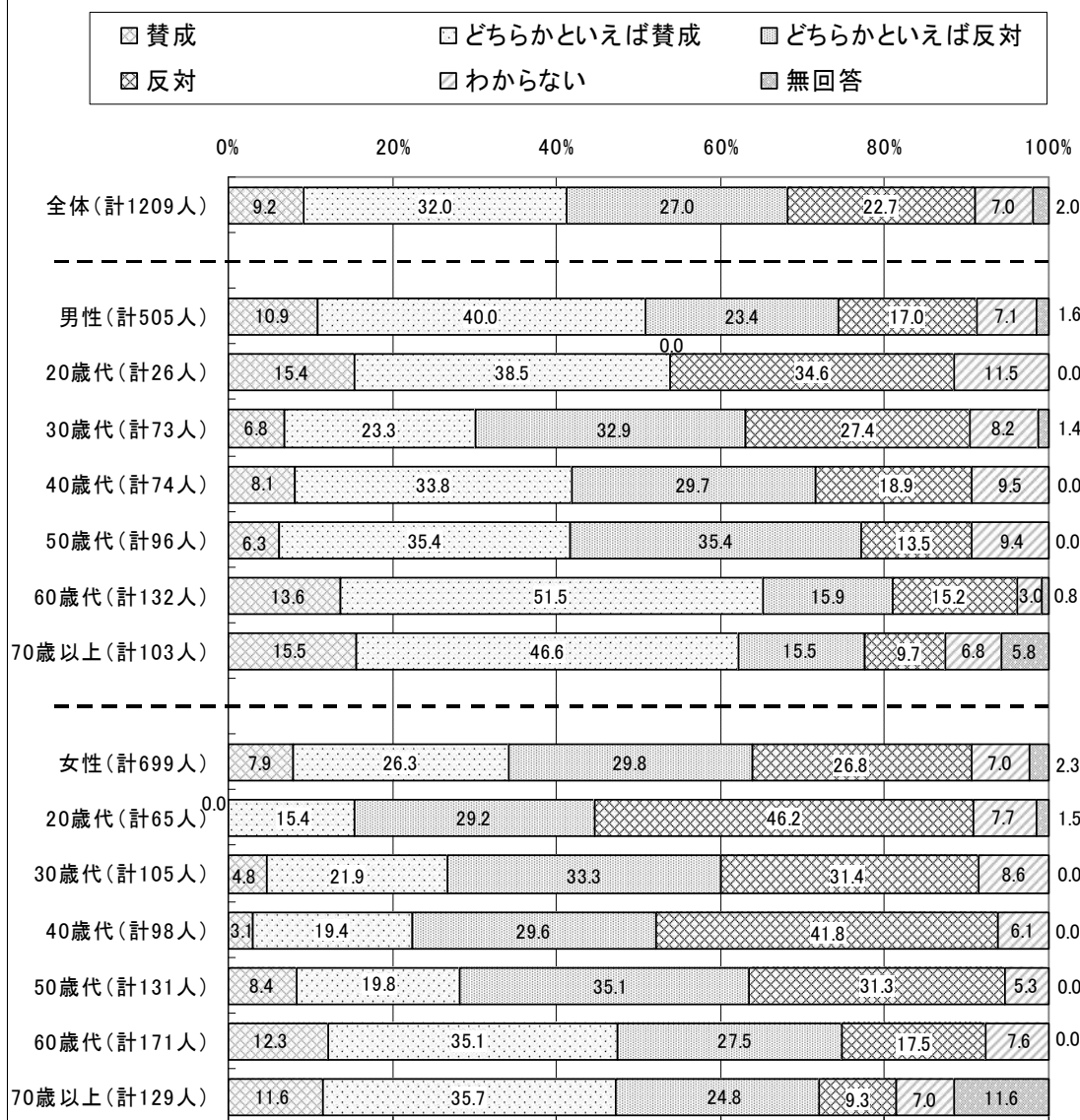
4. 調査結果



『「妻子を養うのは男の役割である」という考え方について』は、性別、年代別でみると、男性では、すべての年代において「賛成」の割合が30%以上で、「どちらかといえば賛成」を含めるとほぼ80%を占める。これに対し女性の場合、20歳代では「賛成」が9.2%、「どちらかといえば賛成」を含めても58.4%と男性に比べ少し低い割合を示しているが、年代が高くなるほど「賛成」、「どちらかといえば賛成」の割合が高くなる。

図 9-エ

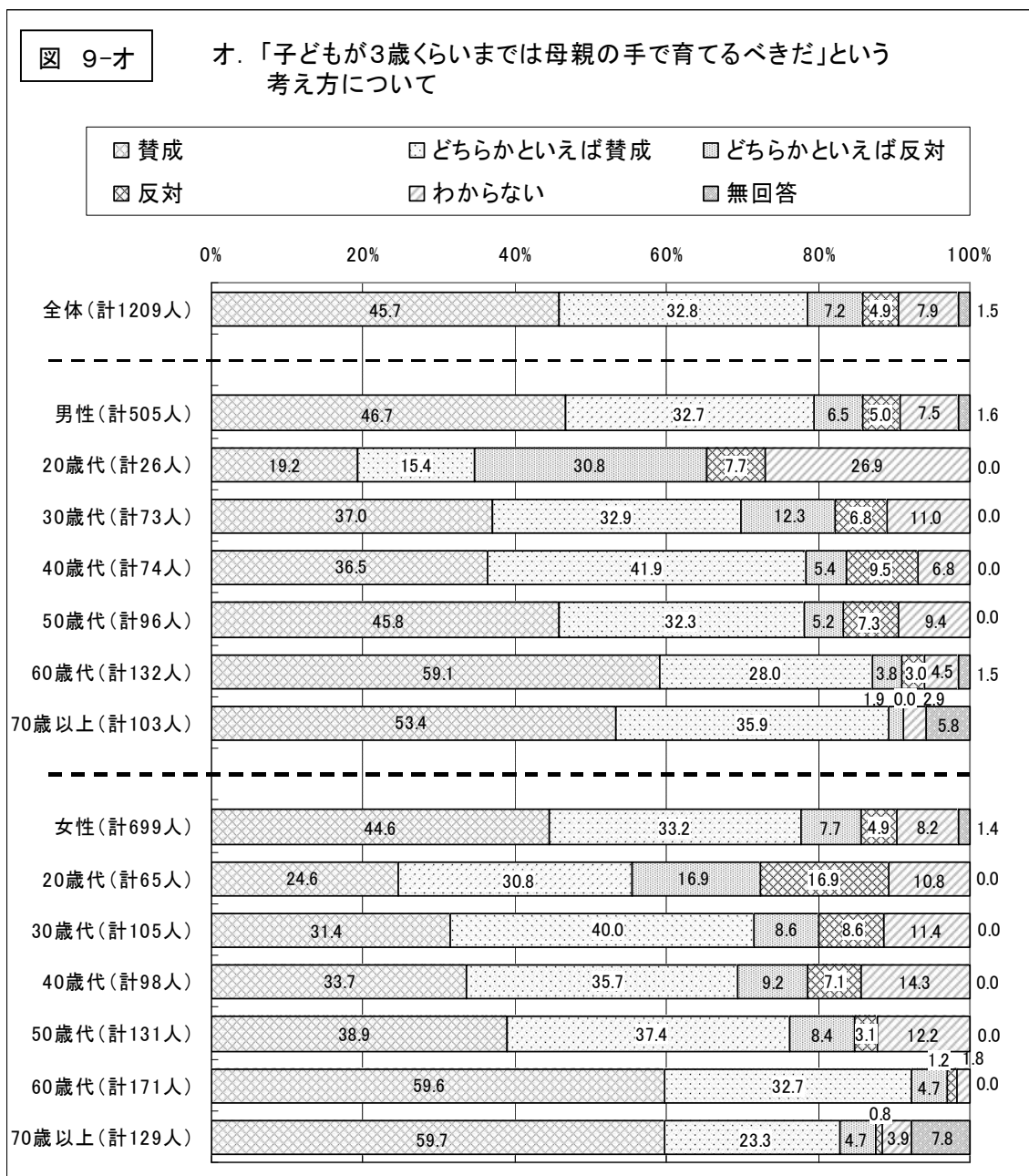
エ. 「男性と女性で昇進や賃金に差があるのは仕方がない」という考え方について



『「男性と女性で昇進や賃金に差があるのは仕方がない」という考え方について』は、女性では20歳代で「反対」、「どちらかといえば反対」が75.4%、30歳代では64.7%、40歳代では71.4%、50歳代で66.4%となっており、20歳代から50歳代で反対の考え方の割合が高い。20歳代では、「賛成」、「どちらかといえば賛成」の割合は、15.4%と低い割合を示す。しかし、60歳代、70歳以上で「賛成」、「どちらかといえば賛成」の割合が47.4%、47.3%となり「賛成」の回答が「反対」の回答を上回っている。

男性では20歳代の「賛成」、「どちらかといえば賛成」の割合が53.9%と女性の20歳代に比べ高い割合を占めている。30歳代から50歳代で「反対」、「どちらかといえば反対」の割合が高い。60歳代、70歳以上で女性同様に賛成の考え方が高くなり、反対の考え方の割合を上回る。

4. 調査結果



『「子どもが3歳くらいまでは母親の手で育てるべきだ」という考え方について』は、男性の20歳代で「賛成」、「どちらかといえば賛成」が34.6%、「どちらかといえば反対」、「反対」が38.5%と、他の年代に比べ賛成の考え方が低い割合を示す。30歳代では69.9%となり、年代が高くなるほど「賛成」、「どちらかといえば賛成」の割合が高くなり70歳以上では89.3%となる。女性では20歳代で55.4%であり年代が高くなるほど「賛成」、「どちらかといえば賛成」の割合が男性と同様に高くなる傾向にある。60歳代では92.3%、70歳以上では83.0%となっている。

図 9-カ

カ. 「夫の親を妻が介護するのは当然である」という
考え方について



『「夫の親を妻が介護するのは当然である」という考え方について』は、男性は「賛成」、「どちらかといえば賛成」の割合が46.3%を占める。女性では30.9%と男性に比べて低い割合となっている。

年代別にみると男性では「賛成」、「どちらかといえば賛成」が20歳代から40歳代で23.1%、26.1%、35.1%と低い割合を示しており、50歳代から70歳以上では過半数を占めるようになり、賛成の回答が反対の回答を上回る。女性では「賛成」、「どちらかといえば賛成」は20歳代で16.9%、30歳代で24.8%、40歳代で16.3%と低い割合を示している。50歳代から年代が高くなるほど「賛成」、「どちらかといえば賛成」の回答が多くなり、70歳以上で過半数を占めるようになる。

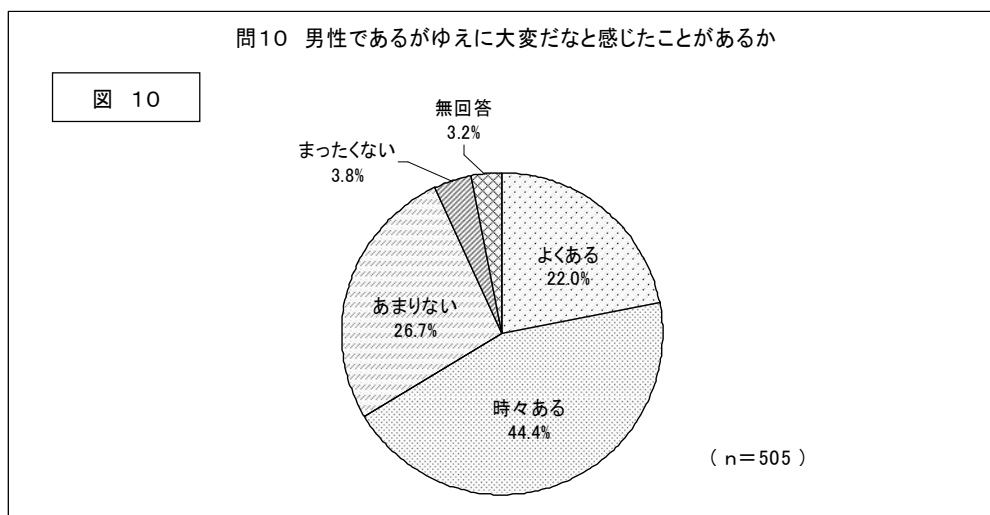
4. 調査結果



『「育児休業は、男性より女性が取得すべきだ」という考え方について』は、男性では「賛成」、「どちらかといえば賛成」が20歳代で30.8%、30歳代で41.1%に対し、女性では、それぞれ52.3%、47.6%となっており女性の方の割合が高く、20歳代、30歳代の男女の相違が目立っている。男性については、「わからない」との割合が高いこともその要因となる。40歳代以上では、男性は過半数が「賛成」、「どちらかといえば賛成」が占めるようになり、年代が高くなるほど賛成の考え方の割合は高くなる。

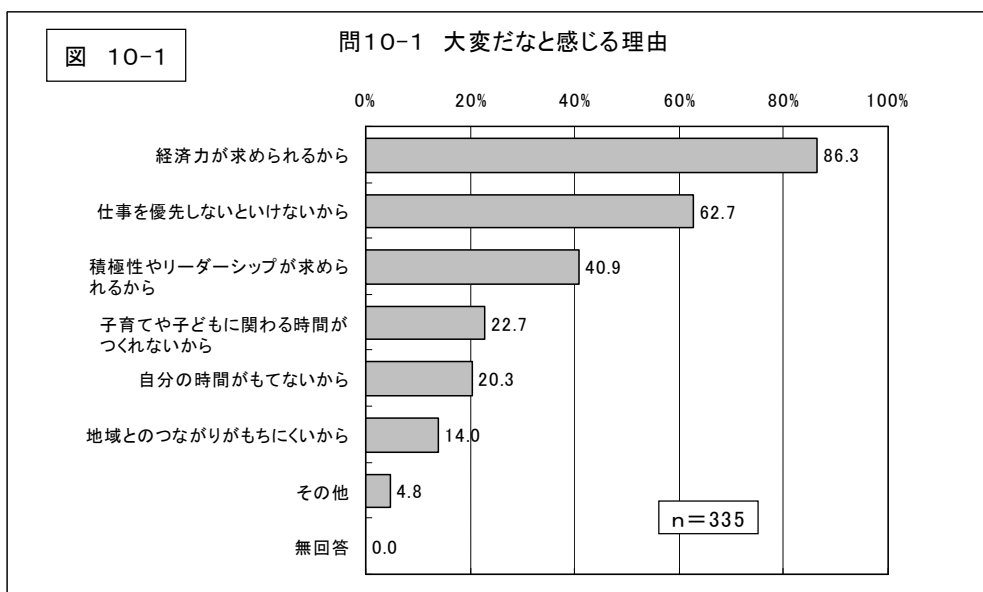
女性では「賛成」、「どちらかといえば賛成」の割合は、20歳代では過半数を占めているが、40歳代まで減少し、50歳代から年代が高くなるほどその割合は高くなり、60歳代以上で60%を超える。

問 10 男性の方におたずねします。あなたは、男性であるがゆえに大変だなと感じたことがありますか。 （単数回答）



「男性であるがゆえに大変だなと感じたことがあるか」については、「よくある」は 22.0% (27.0%)、「時々ある」44.4% (39.8%)、「あまりない」26.7% (24.3%)、「まったくない」3.8% (4.7%) という結果である。前回と比較して「よくある」は減少しており、「あまりない」が増えている。

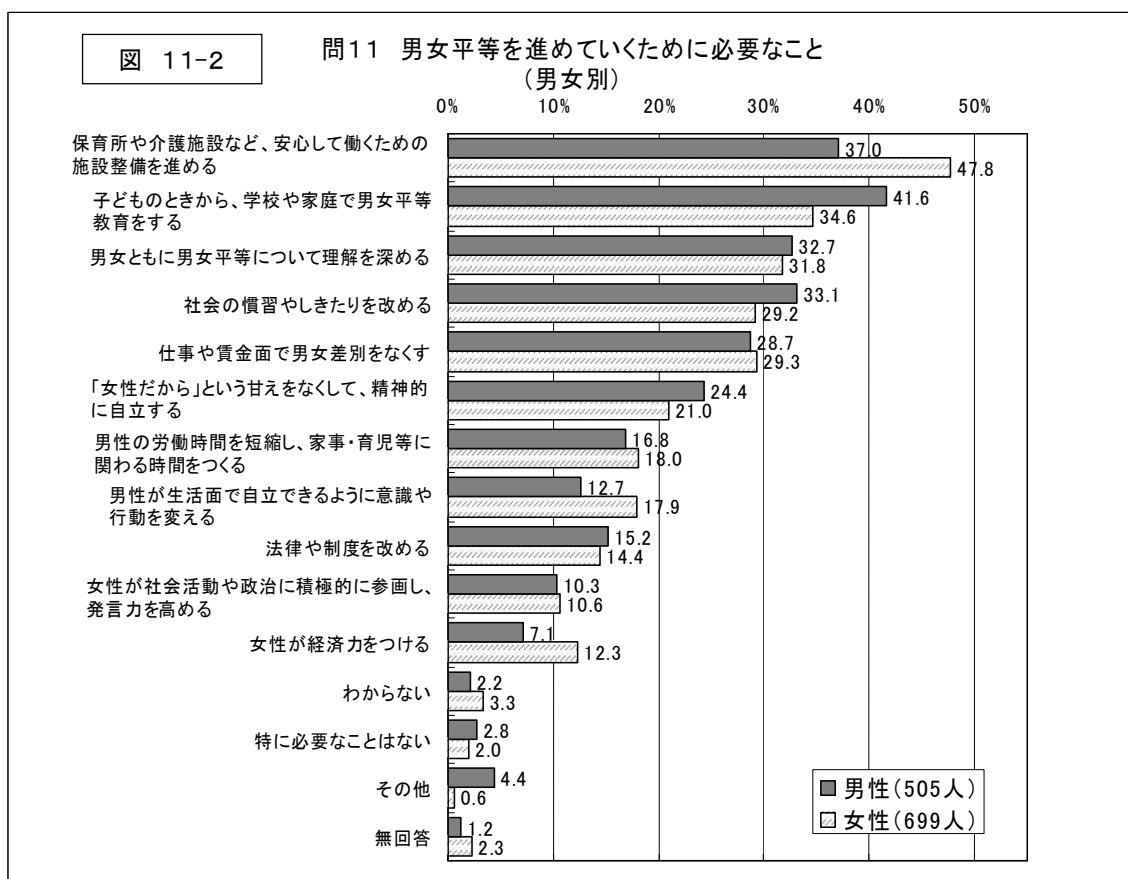
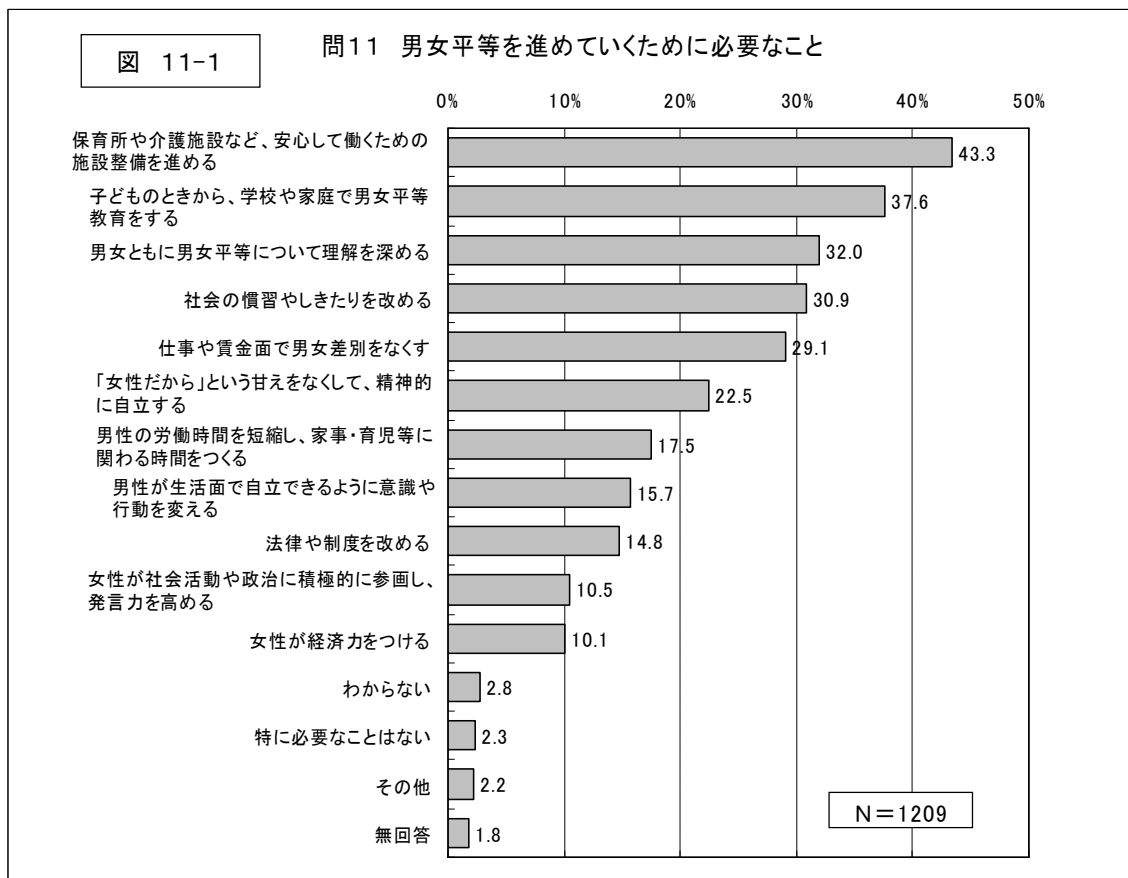
問 10-1 問 10 で「1.よくある」または「2.時々ある」を選ばれた方におたずねします。そう感じた理由は何ですか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。 (複数回答)



「男性であるがゆえに大変だなと感じる理由」については、「経済力が求められるから」86.3% (83.3%) と最も多く、次いで「仕事を優先しなければならないから」62.7% (66.6%)、「積極性やリーダーシップが求められるから」40.9% (38.2%) となっている。「経済力が求められるから」は、前回の調査と比べて高くなっており、「仕事を優先しないといけないから」は、前回よりも低くなっている。

4. 調査結果

問 11 あなたは、今後、男女平等を進めていくためには、特にどのようなことが必要だと思いますか。次の中から3つ以内で選んでください。（複数回答）



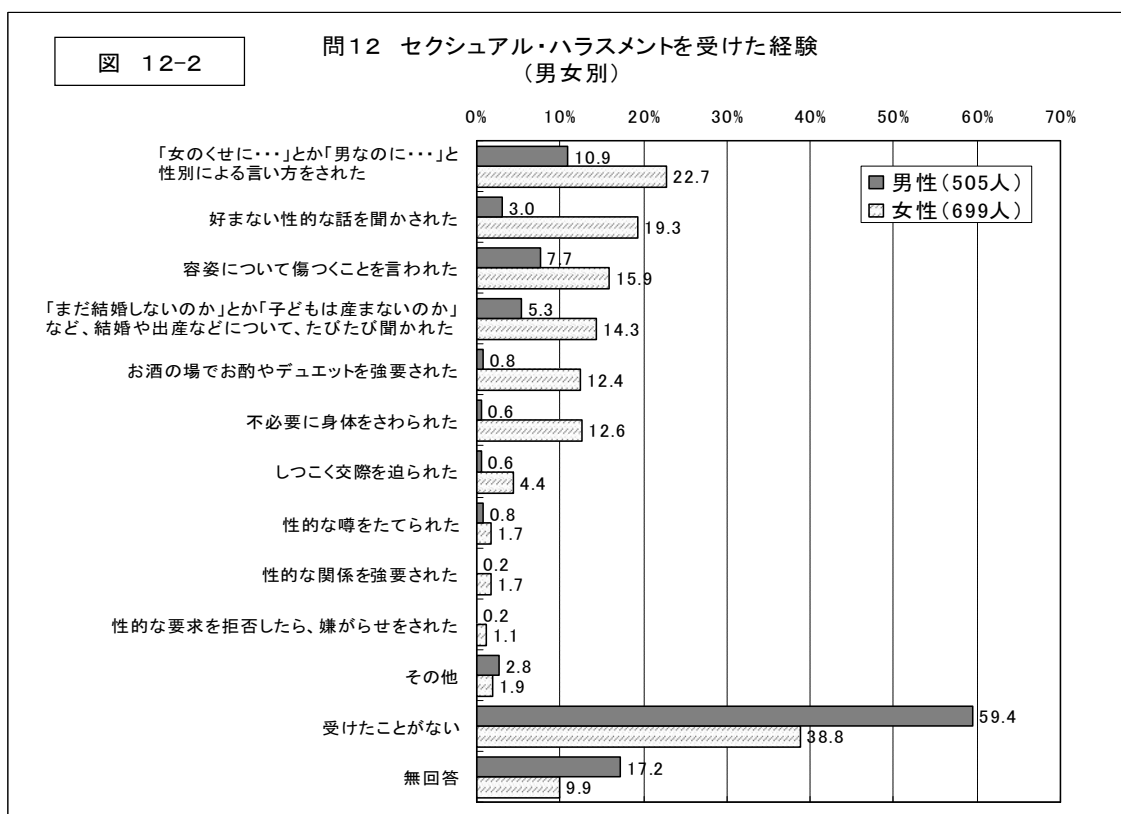
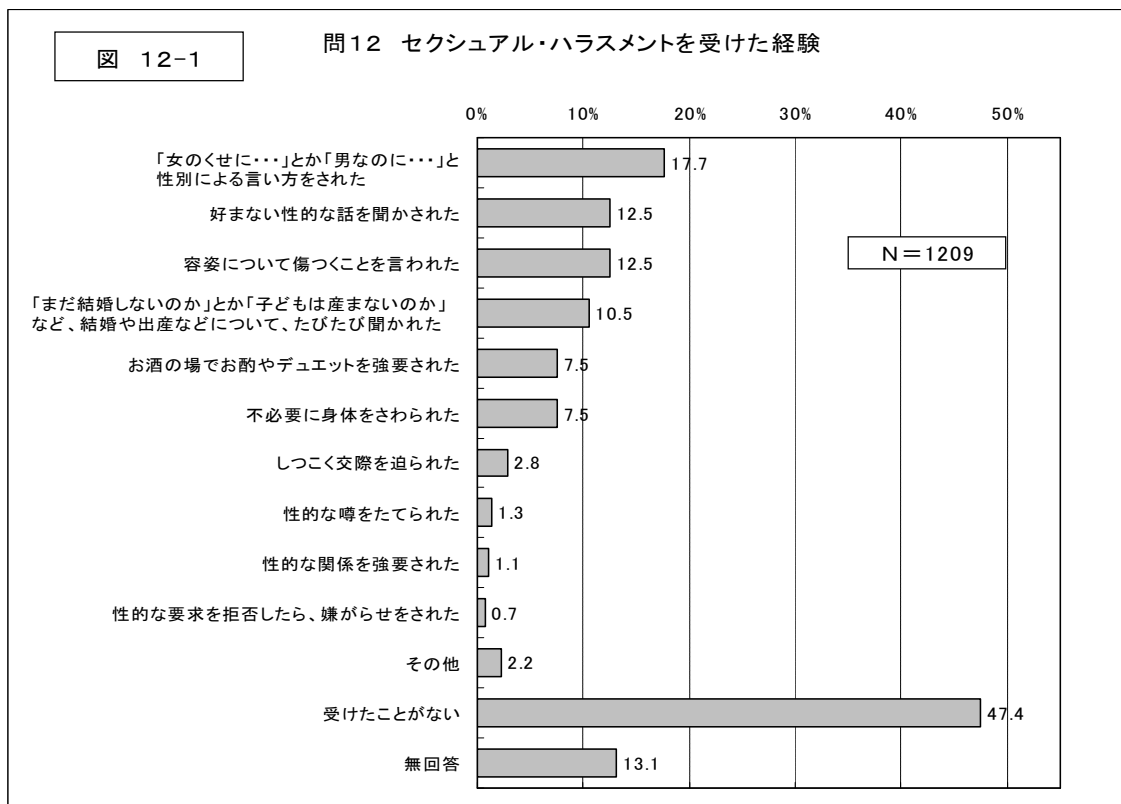
「男女平等を進めていくために必要なこと」については、最も多い回答は、「保育所や介護施設など、安心して働くための施設整備を進める」43.3% (42.8%)、次いで、「子どものときから、学校や家庭で男女平等教育をする」37.6% (35.2%)、「男女ともに男女平等について理解を深める」32.0% (32.1%)、「社会の慣習やしきたりを改める」30.9% (33.2%)、「仕事や賃金面で男女差別をなくす」29.1% (24.5%)となっている。前回の調査と比較すると、「教育について」、「就労について」の項目で前回よりも回答の割合が高くなっている。

性別でみると、男性に比べ女性の割合が高い項目は、「保育所や介護施設など、安心して働くための施設整備を進める」で、男性 37.0%に対し女性 47.8%、「女性が経済力をつける」では男性 7.1%、女性 12.3%、「男性の労働時間を短縮し、家事・育児等に関わる時間をつくる」では男性が 16.8%、女性 18.0%、「男性が生活面で自立できるように意識や行動を変える」が 12.7%、17.9%などである。男性の割合の高い項目は、「子どものときから、学校や家庭で男女平等教育をする」で男性 41.6%、女性 34.6%、「社会の慣習やしきたりを改める」男性 33.1%、女性 29.2%、「男女ともに男女平等について理解を深める」男性 32.7%、女性 31.8%などである。

4. 調査結果

(2) 人権について

問 12 あなたは、職場、地域、学校などで、次のようなセクシュアル・ハラスメント（性的嫌がらせ）を受けたことがありますか。受けたことがあるものをすべて選んでください。
（複数回答）



「セクシュアル・ハラスメントを受けた経験」については、「受けたことがない」との回答は男性で 59.4%、女性で 38.8%である。前回の調査ではそれぞれ 58.4%、35.3%であり、わずかではあるがセクシュアル・ハラスメントでの被害の割合が減少している。

回答より一人当たりの被害件数を算出すると、男性は平均 1.3 件、女性は平均 2.1 件の被害があったことになる。

被害の実態であるが、女性については最も多い被害は『「女のくせに・・・」とか「男なのに・・・」と性別による言い方をされた』が 22.7% (21.3%) である。次いで、「好まない性的な話を聞かされた」が 19.3% (21.3%)、『「まだ結婚しないのか」、「子どもは産まないのか」など、結婚や出産などについて、たびたび聞かれた』が 14.3% (13.0%) となっている。いずれも言葉によるものである。次いで、「不必要に身体をさわられた」 12.6% (12.6%)、「お酒の場でお酌やデュエットを強要された」 12.4% (13.5%) などである。前回の調査と比較すると、言葉によるセクシュアル・ハラスメントは、増加傾向にある。

4. 調査結果

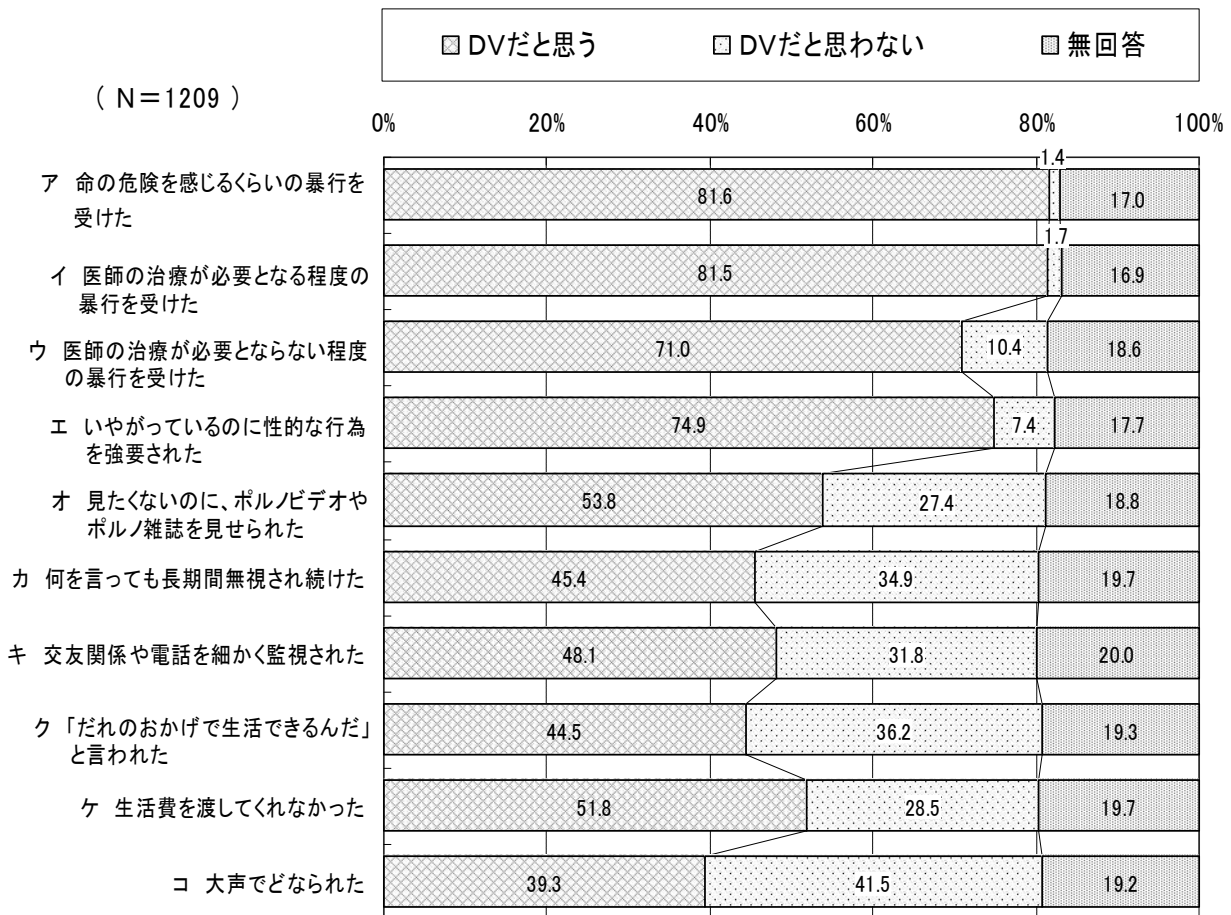
問 13 配偶者や恋人などパートナーから暴力（ドメスティック・バイオレンス＝DV）が社会問題になっています。そこで、（A）と（B）2つの質問にお答えください。

問 13-(A) あなたは、ア～コのような行為がドメスティック・バイオレンス（DV）にあたると思いますか。（単数回答）

図 13-(A)

問13-(A) ドメスティック・バイオレンス(DV)の認識度

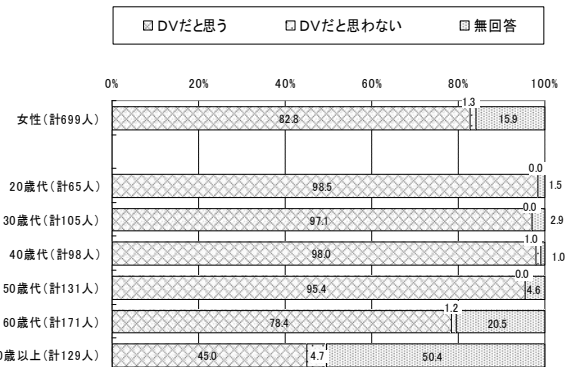
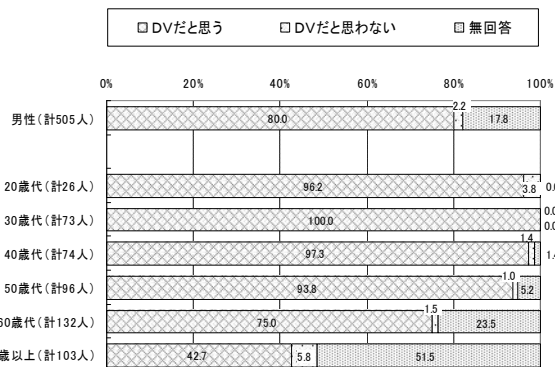
(N=1209)



ア. 命の危険を感じるくらいの暴行をうけた（男性）

図 13(A)-ア

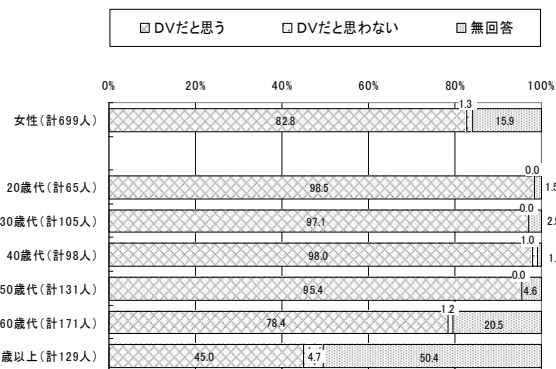
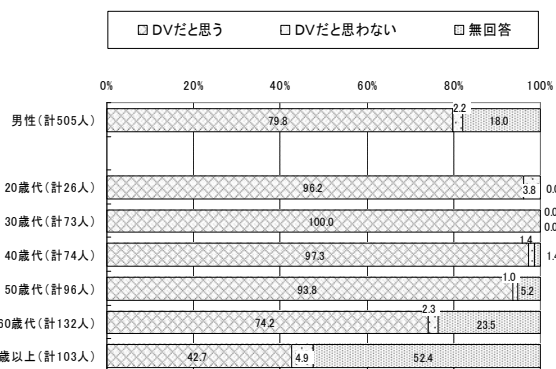
ア. 命の危険を感じるくらいの暴行を受けた（女性）



イ. 医師の治療が必要となる程度の暴行を受けた (男性)

図 13(A)-イ

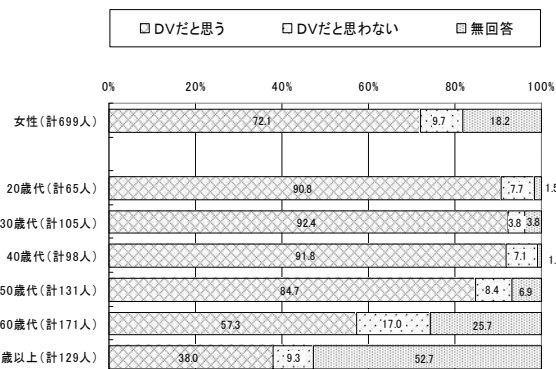
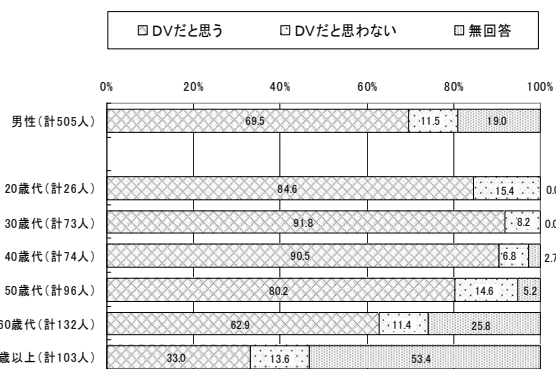
イ. 医師の治療が必要となる程度の暴行を受けた (女性)



ウ. 医師の治療が必要とされない程度の暴行を受けた (男性)

図 13(A)-ウ

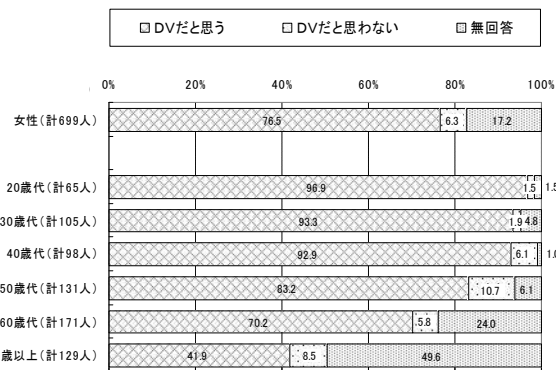
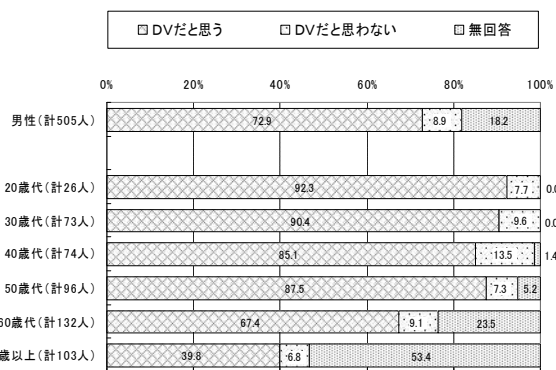
ウ. 医師の治療が必要とされない程度の暴行を受けた (女性)



エ. いやがっているのに性的な行為を強要された (男性)

図 13(A)-エ

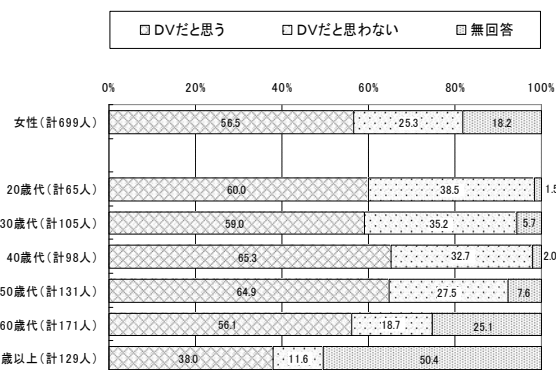
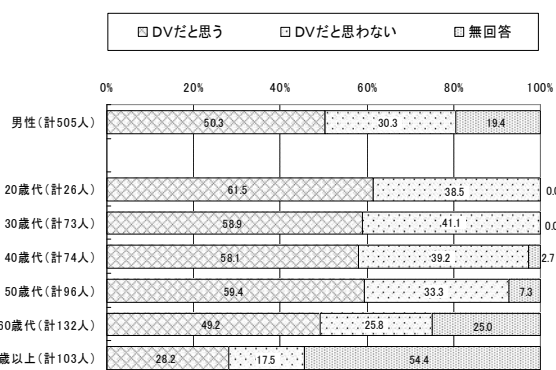
エ. いやがっているのに性的な行為を強要された (女性)



オ. 見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せられた (男性)

図 13(A)-オ

オ. 見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せられた (女性)

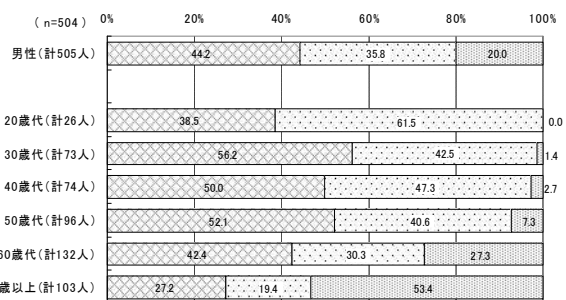


4. 調査結果

カ. 何を言っても長期間無視され続けた (男性)

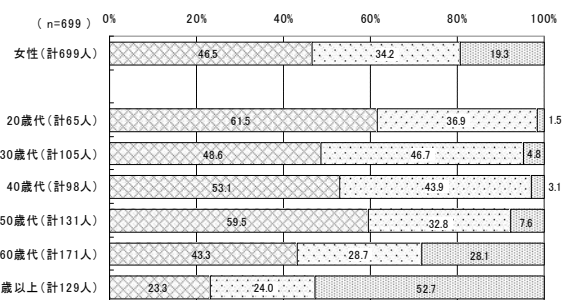
図 13(A)-カ

☐ DVだと思う ☐ DVだと思わない ☐ 無回答



カ. 何を言っても長期間無視され続けた (女性)

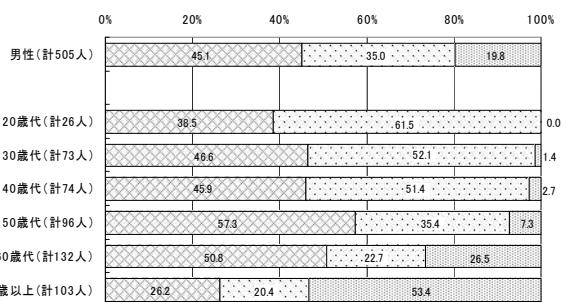
☐ DVだと思う ☐ DVだと思わない ☐ 無回答



キ. 交友関係や電話を細かく監視された (男性)

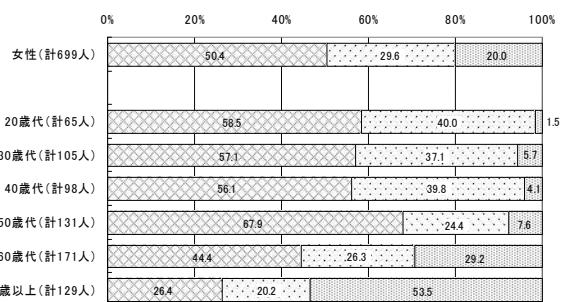
図 13(A)-キ

☐ DVだと思う ☐ DVだと思わない ☐ 無回答



キ. 交友関係や電話を細かく監視された (女性)

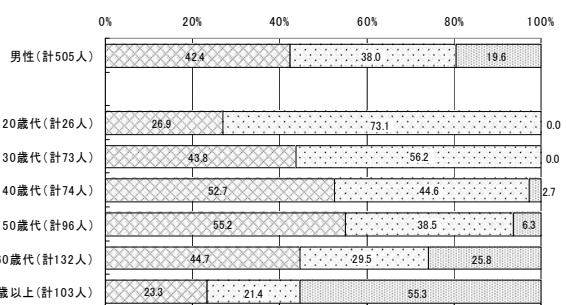
☐ DVだと思う ☐ DVだと思わない ☐ 無回答



ク. 「だれのおかげで生活できてるんだ」と言われた (男性)

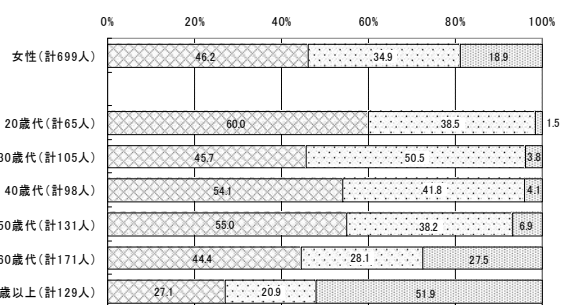
図 13(A)-ク

☐ DVだと思う ☐ DVだと思わない ☐ 無回答



ク. 「だれのおかげで生活できてるんだ」と言われた (女性)

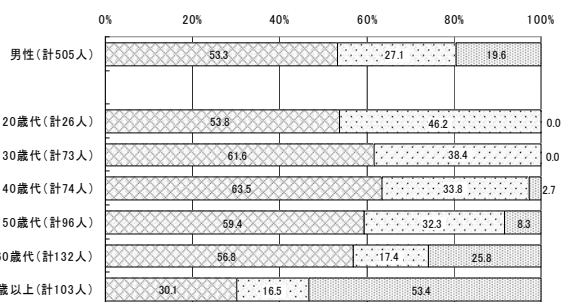
☐ DVだと思う ☐ DVだと思わない ☐ 無回答



ケ. 生活費を渡してくれなかった (男性)

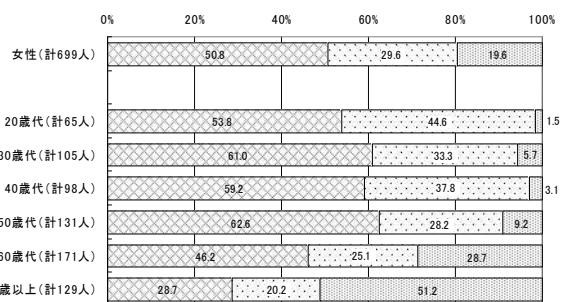
図 13(A)-ケ

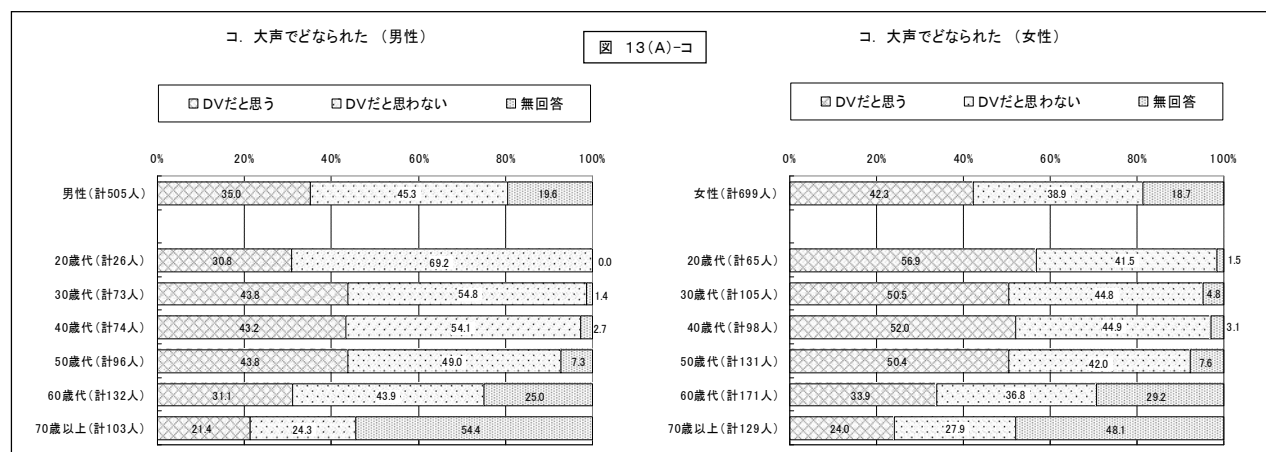
☐ DVだと思う ☐ DVだと思わない ☐ 無回答



ケ. 生活費を渡してくれなかった (女性)

☐ DVだと思う ☐ DVだと思わない ☐ 無回答





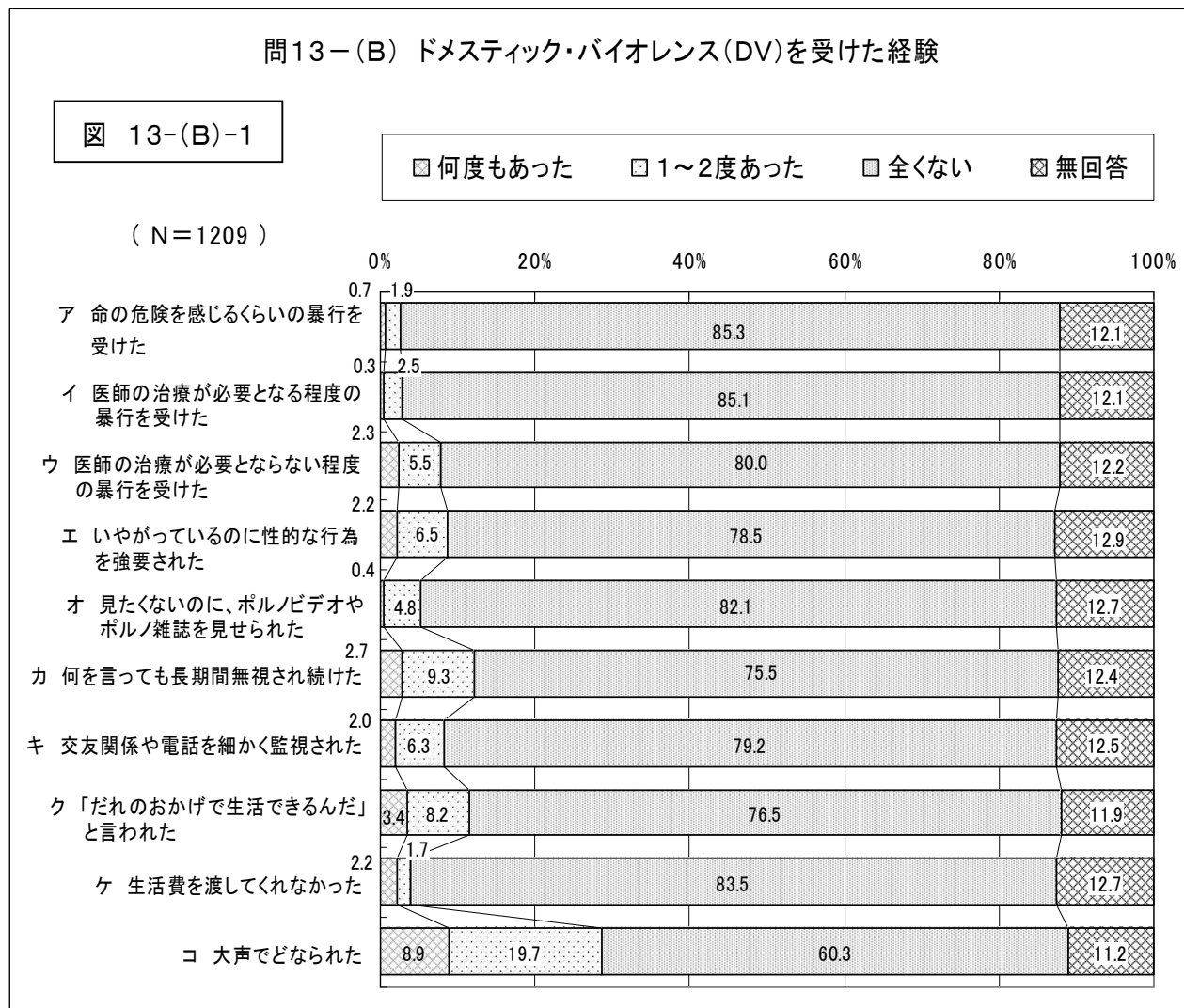
「ドメスティック・バイオレンス（以下、DV）の認識度」については、「命の危険を感じるくらいの暴行を受けた」、「医師の治療が必要となる程度の暴行を受けた」は、無回答を除いたほぼ全員が、DVと認識しており、同様に「医師の治療が必要とならない程度の暴行を受けた」は90%になる。

性的暴力にあたる「いやがっているのに性的な行為を強要された」は74.9%（70.7%）、「見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せられた」は53.8%（46.8%）となっている。また「生活費を渡してくれなかった」51.8%（46.5%）、「何を言っても長期間無視され続けた」45.4%（46.3%）、「交友関係や電話を細かく監視された」48.1%（44.3%）、『「だれのおかげで生活できるんだ」と言われた』44.5%（36.9%）、「大声でどなられた」39.3%（30.1%）など経済的、精神的暴力をDVと認識しているのは、30%から50%程度である。なお、認識度においては、性別での違いよりも、年代別での違いが大きく、20歳代では認識度が低く、また60歳代、70歳以上では無回答との割合が高い。

前回の調査との比較では、身体的暴力、性的暴力、経済的暴力、精神的暴力のすべてにおいてDVと捉えるような認識も高まっている。

4. 調査結果

問 13-(B) あなたは配偶者や恋人などから、ア～コのような行為を受けたことがありますか。
(単数回答)



「ドメスティック・バイオレンス(DV)を受けた経験」については、身体的暴力である「命の危険を感じるくらいの暴行を受けた」経験が「何度もあった」、「1～2度あった」の回答は、2.6% (2.0%)、「医師の治療が必要となる程度の暴行を受けた」は2.8% (2.1%)、「医師の治療が必要とまらない程度の暴行を受けた」が7.8% (7.1%)である。各項目において少数ではあるが、複数回にわたり同様の被害を受けているケースもあり、また前回の調査よりいずれも増加している。精神的暴力では、「大声でどなられた」が28.6% (29.2%)と比較的多くなっている。次いで、「何を言っても長期間無視され続けた」が12.0% (11.4%)、「交友関係や電話を細かく監視された」8.3% (7.7%)となっている。一方、性的暴力では「いやがっているのに性的な行為を強要された」は8.7% (10.1%)、「見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せられた」は5.2% (3.9%)となっている。

問13-(B) ドメスティック・バイオレンス(DV)を受けた経験
(男性)

図 13-(B)-2

(n=505)

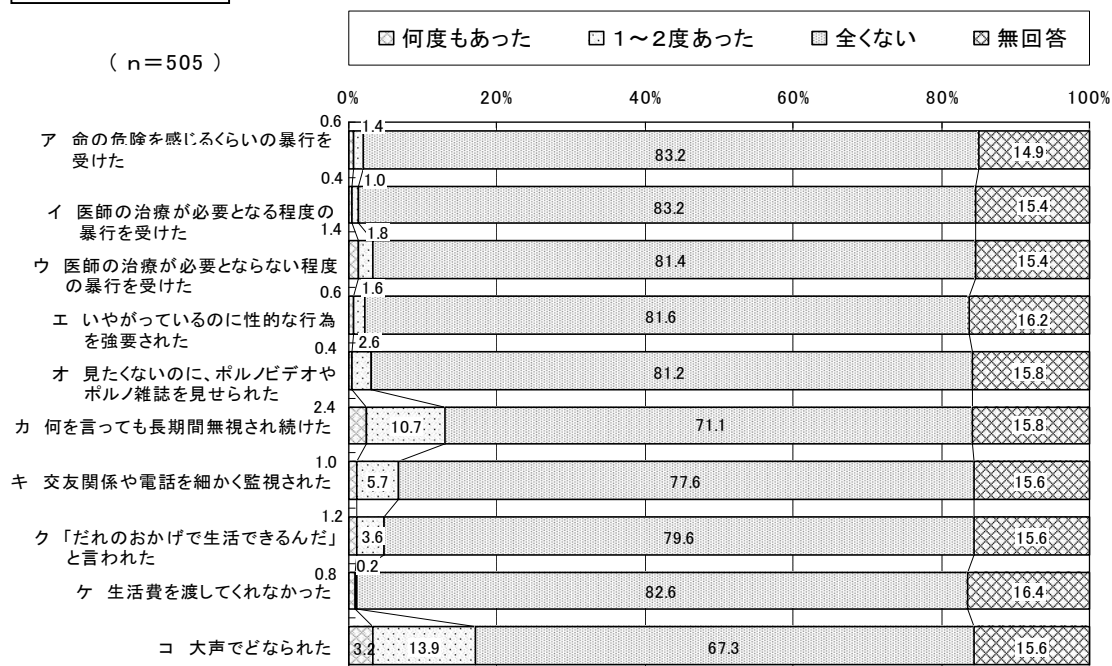
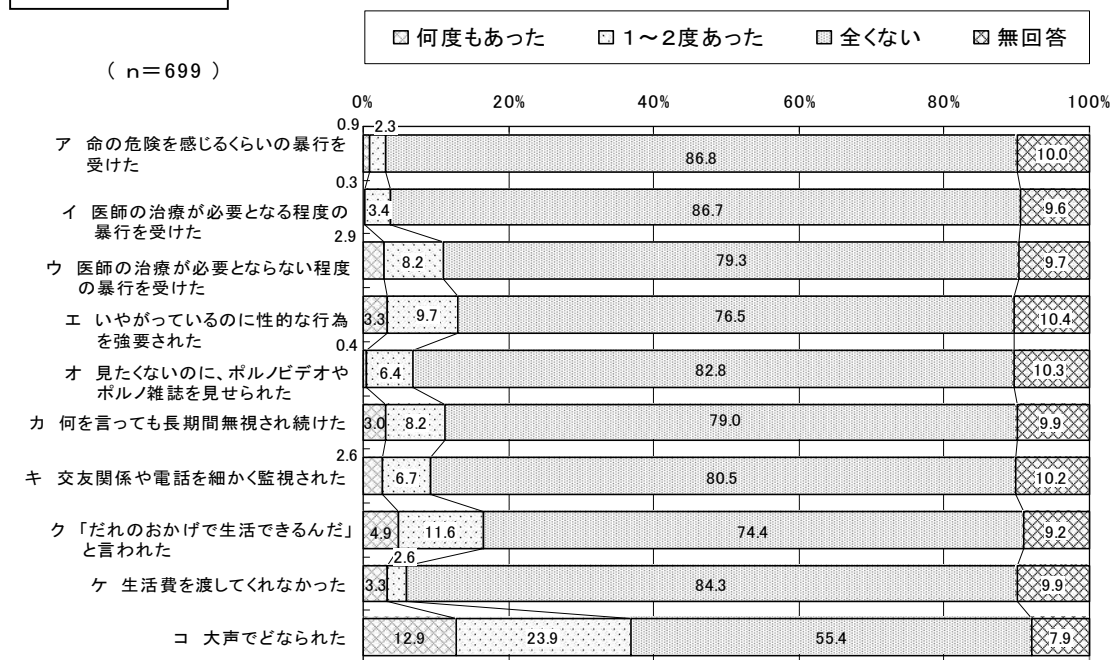
問13-(B) ドメスティック・バイオレンス(DV)を受けた経験
(女性)

図 13-(B)-3

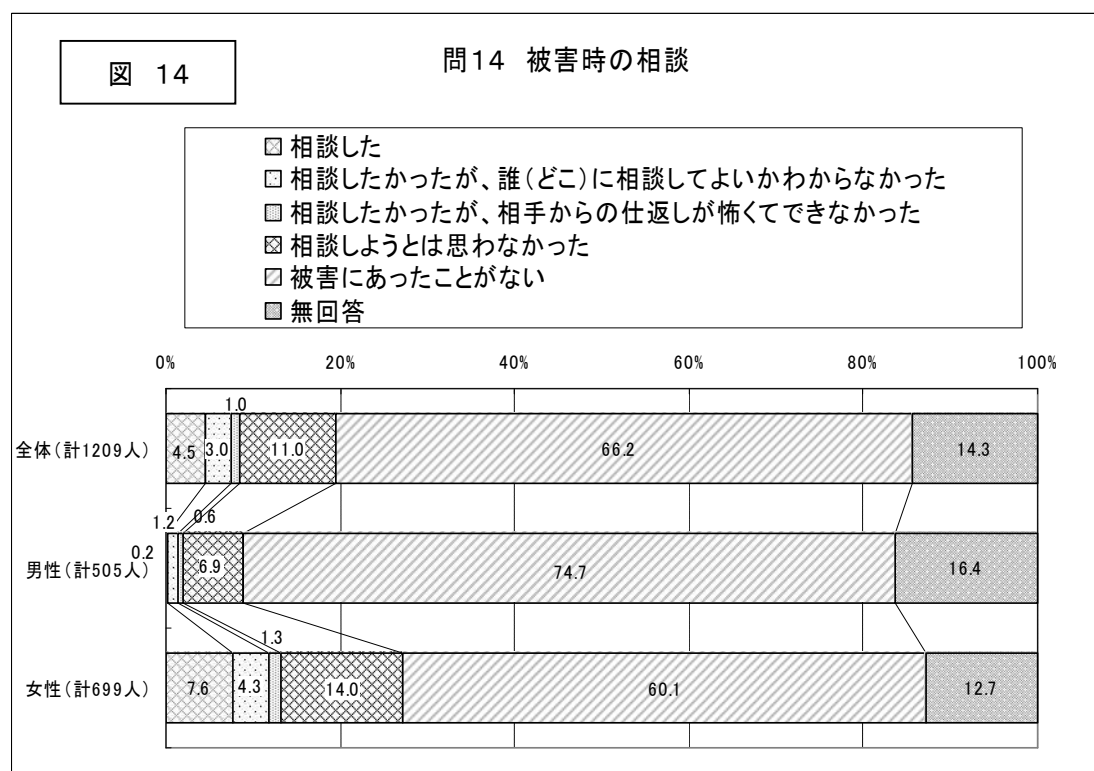
(n=699)



性別でみると、「何を言っても長期間無視され続けた」を除き、いずれも女性の方が被害にあった割合が高い。女性の被害をみると、「医師の治療が必要とならない程度の暴行を受けた」は、女性で11.1%あり、また「いやがっているのに性的な行為を強要された」も13.0%であり、表面化しにくい暴力を受けている女性が10%程度あることがわかる。この他、『「だれのおかげで生活できるんだ」と言われた』16.5% (19.1%)、「大声でどなられた」36.8% (36.5%)の割合が高くなっている。

4. 調査結果

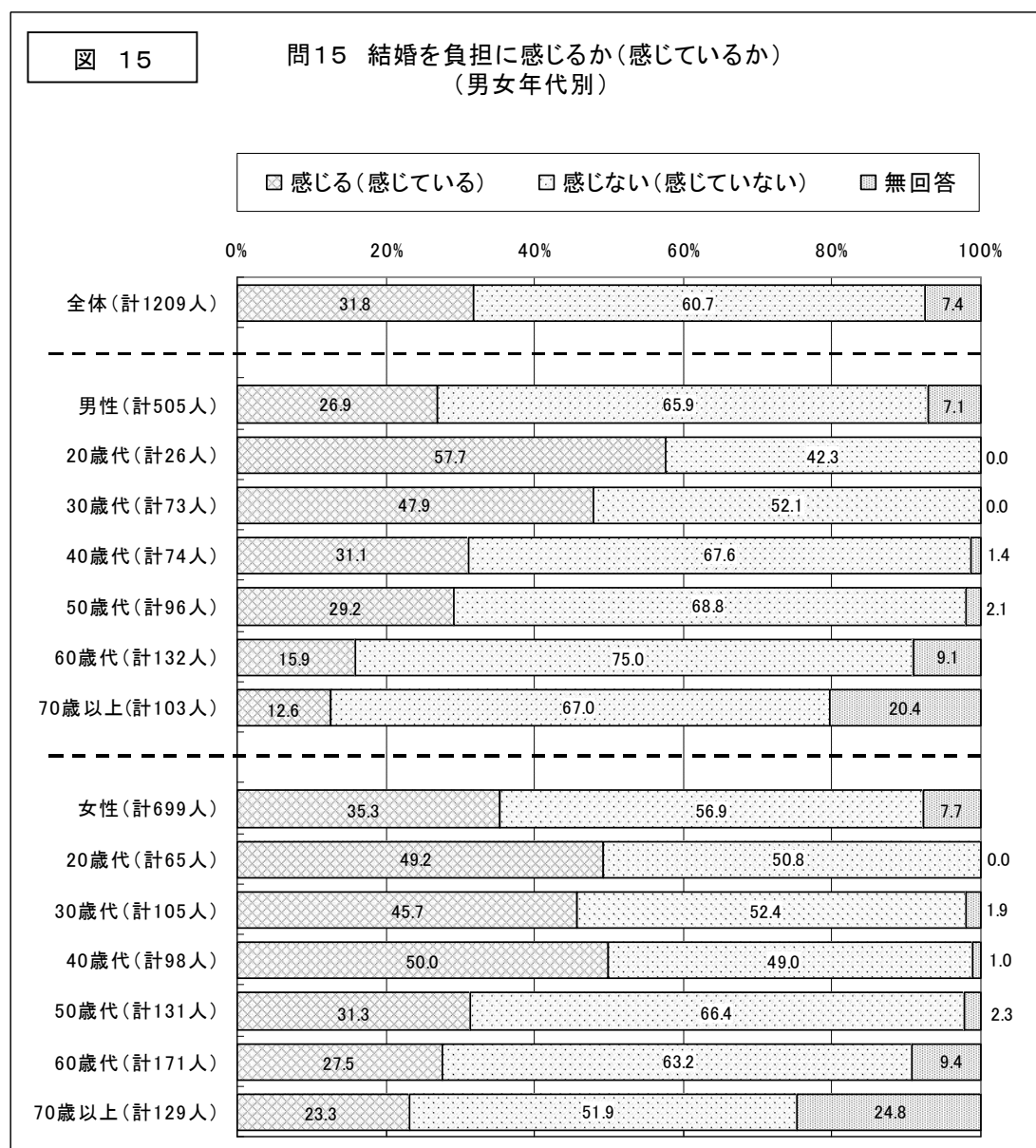
問 14 あなたがドメスティック・バイオレンス(DV)やセクシュアル・ハラスメントの被害にあったとき、誰(どこ)かに相談しましたか。次の中から1つ選んでください。(単数回答)



DV やセクシュアル・ハラスメントの被害時の相談であるが、「相談をした」は全体で 4.5%であり、これは前回の調査と変わらない。「相談したかったが、誰(どこ)に相談してよいかわからなかった」は 3.0%で、前回の調査よりも 0.4%減少した。相談することの重要性は徐々に認識されているようである。

(3) 結婚観や家庭生活について

問 15 あなたの結婚観についておたずねします。あなたは、結婚を負担に感じますか（感じていますか）。独身の方もお答えください。（単数回答）



「結婚を負担に感じるか(感じているか)」については、男性で 26.9% (25.2%)、女性で 35.3% (33.9%) が「負担を感じる (感じている)」と回答しており、女性が負担に感じる割合が高い。また、前回の調査と比べてその割合が増えている。これを年代別でみると、男性では 20 歳代で 57.7% (33.3%) が「負担を感じる (感じている)」と回答しており、大幅に上昇している。30 歳代では 47.9% (49.2%) に対し、40 歳代では 31.1% (45.8%) であるため、20 歳代での「負担を感じる (感じている)」との割合の高さが目立っている。女性では 20 歳代、30 歳代、40 歳代ではおよそ 50% が「負担を感じる (感じている)」との回答であるが、50 歳代以上では低下する。

20 歳代など、若年の年代で「負担を感じる (感じている)」割合が高いが、これは婚姻状況とも関連

4. 調査結果

がある。

「婚姻状況別・結婚を負担に感じるか（感じているか）」（表 15）をみると、既婚者では「感じている」が 28.9%であるのに対し、未婚者では 54.0%と過半数に及んでいる。未婚者が結婚に負担を感じている様子がわかる。

表 15 婚姻状況別・結婚を負担に感じるか（感じているか）

	既婚	離別・死別	未婚	総計
感じる（感じている）	28.9%	29.7%	54.0%	31.8%
感じない（感じていない）	66.2%	50.0%	44.6%	60.7%
無回答	4.9%	20.3%	1.4%	7.4%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
対象者数	875	158	139	1209

問 15-1 問 15 で「1. 感じる（感じている）」を選ばれた方におたずねします。

負担に感じるのはどのようなことがらですか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。（複数回答）

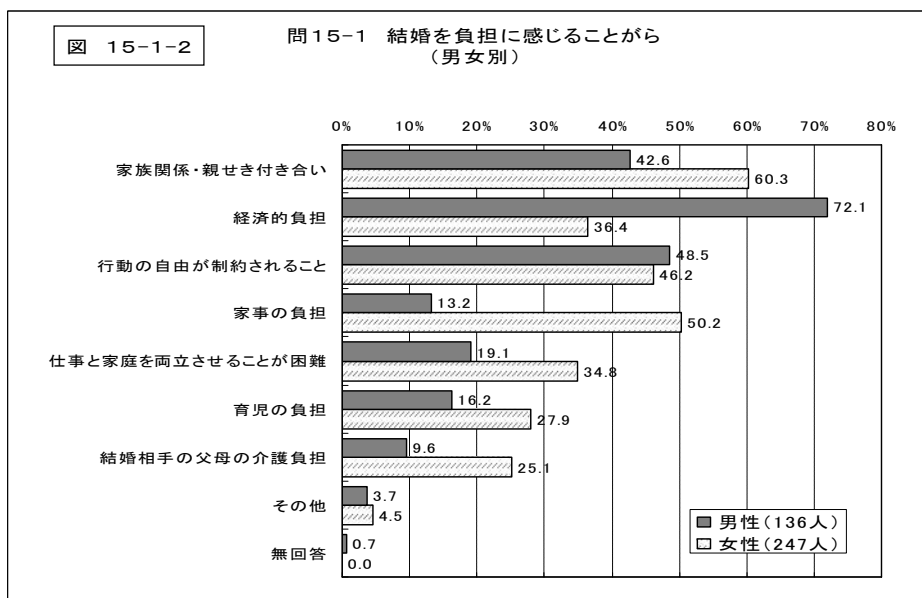
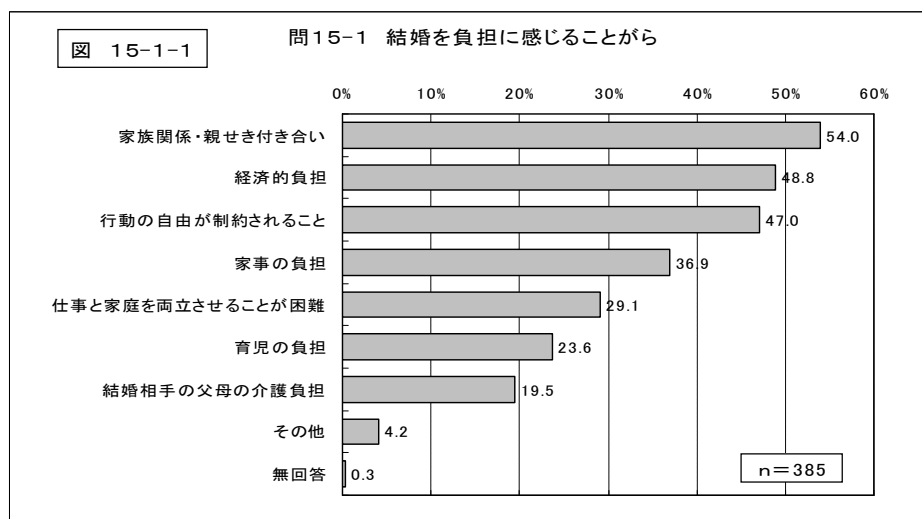


表 15-1

結婚を負担に感じることから

単位(%)

			家事の負担	仕事と家庭が両立させることが困難	経済的負担	行動の自由が制約されること	育児の負担	結婚相手の父母の介護負担	家族関係・親せき付き合い	その他	無回答
性・年代別	女性	20歳代	53.1	59.4	40.6	43.8	34.4	18.8	56.3	3.1	0.0
		30歳代	54.2	37.5	41.7	41.7	33.3	20.8	56.3	4.2	0.0
		40歳代	57.1	32.7	38.8	38.8	30.6	28.6	57.1	2.0	0.0
		50歳代	41.5	24.4	22.0	56.1	29.3	24.4	68.3	9.8	0.0
		60歳代	48.9	29.3	31.9	53.2	12.8	21.3	53.2	4.3	0.0
		70歳以上	43.3	30.0	46.7	43.3	30.0	40.0	76.7	3.3	0.0
	男性	20歳代	0.0	20.0	80.0	46.7	20.0	26.7	46.7	0.0	6.7
		30歳代	22.9	17.1	80.0	48.6	31.4	5.7	22.9	5.7	0.0
		40歳代	17.4	17.4	65.2	60.9	17.4	4.3	52.2	4.3	0.0
		50歳代	7.1	21.4	64.3	39.3	3.6	10.7	39.3	3.6	0.0
		60歳代	4.8	19.0	76.2	47.6	4.8	0.0	47.6	0.0	0.0
		70歳以上	15.4	23.1	61.5	46.2	7.7	15.4	69.2	7.7	0.0

「結婚を負担に感じることから」については、最も多いのは「家族関係・親せき付き合い」である。この回答は男性 42.6% (42.9%)、女性で 60.3% (50.7%) を占めており、特に女性はこの年代でも負担と感じる割合が 50%を超えており、負担と感じる割合が上昇している。「経済的負担」は男性が 72.1% を占めており、前回の調査での結果を上回っている。これは男性の 4 人に 3 人が経済的負担を感じていることになる。年代別では 20 歳代、30 歳代で 80%を占め、40 歳代、50 歳代はやや低下するが、それでも 65%を占めている。

「行動の自由が制約されること」は男性で 48.5% (62.5%)、女性では 46.2% (46.7%) となり、男女とも割合はほぼ同じである。年代別では、女性において 50 歳代以上でその割合がやや高くなっている。

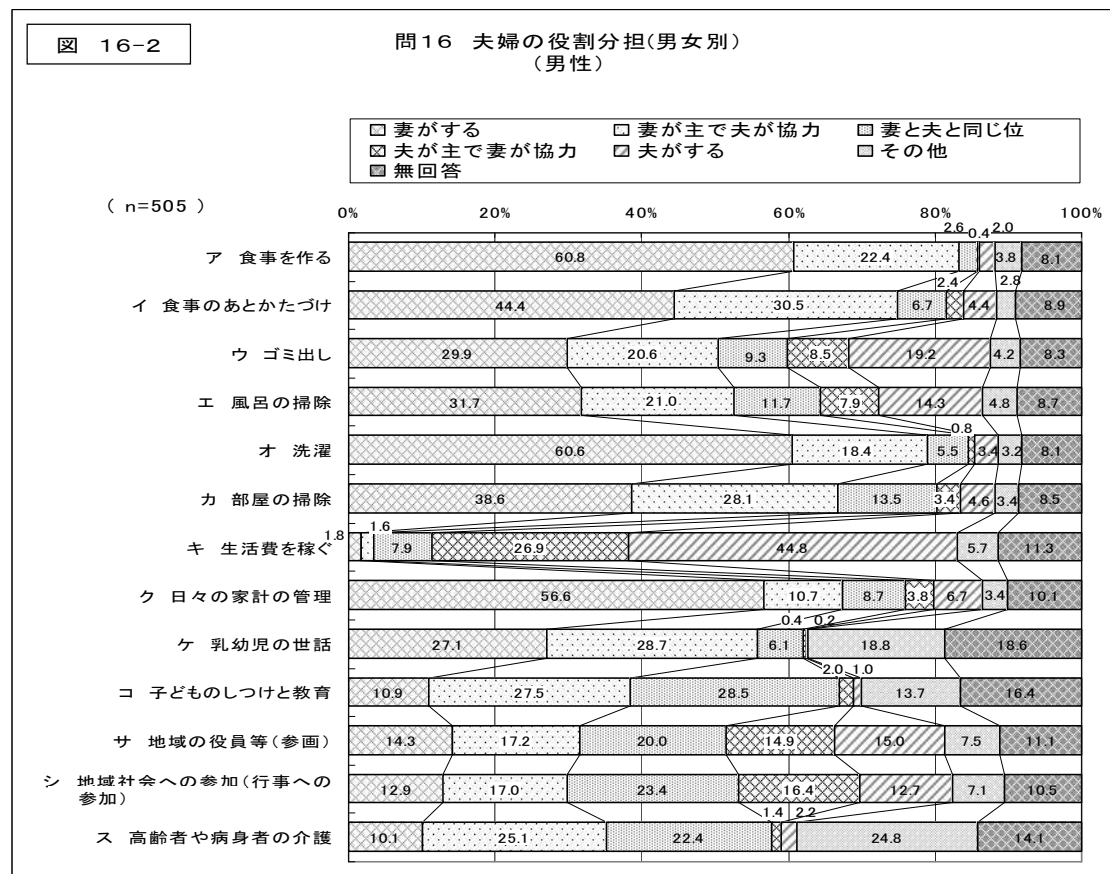
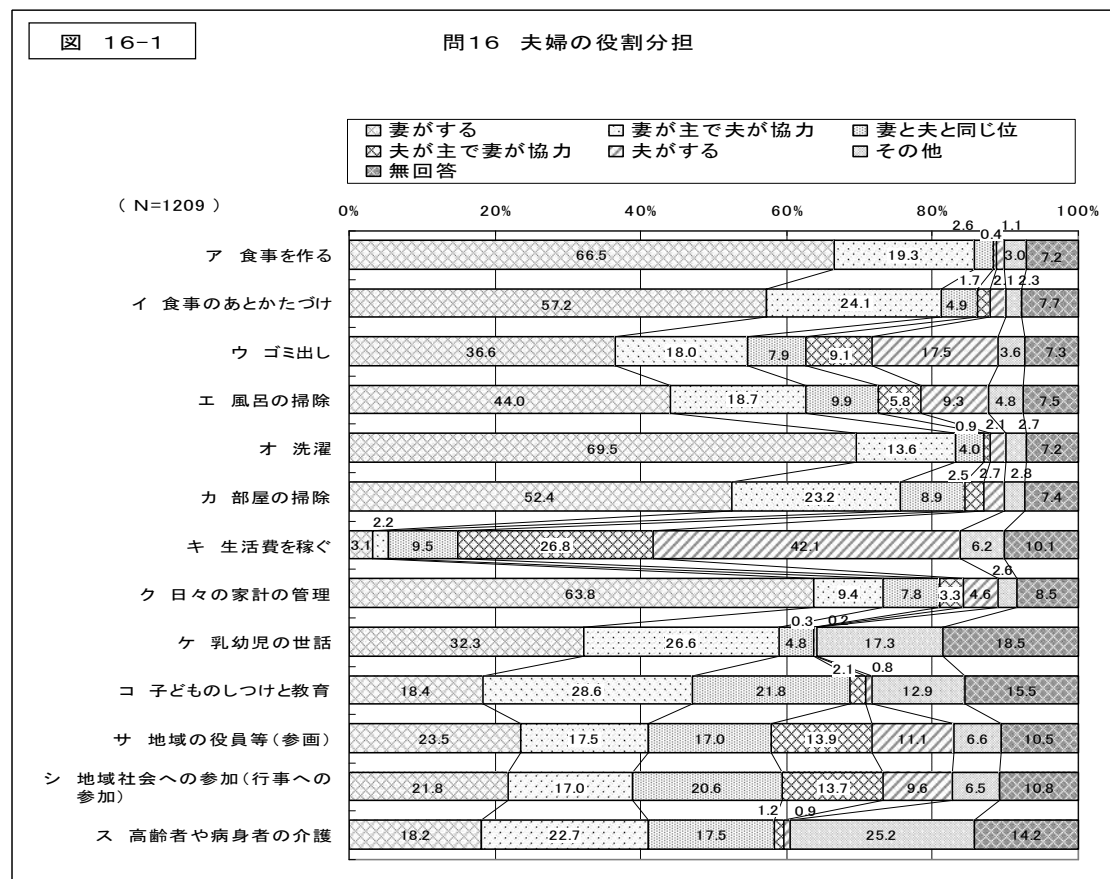
「家事の負担」については女性で 50.2%を占める。女性の年代別では、20 歳代から 40 歳代までは過半数を占め、男性では 30 歳代、40 歳代で割合がやや高くなっている。「仕事と家庭を両立させることが困難」は女性で 34.8%を占め、年代別では 20 歳代で 59.4%と高い割合を占める。

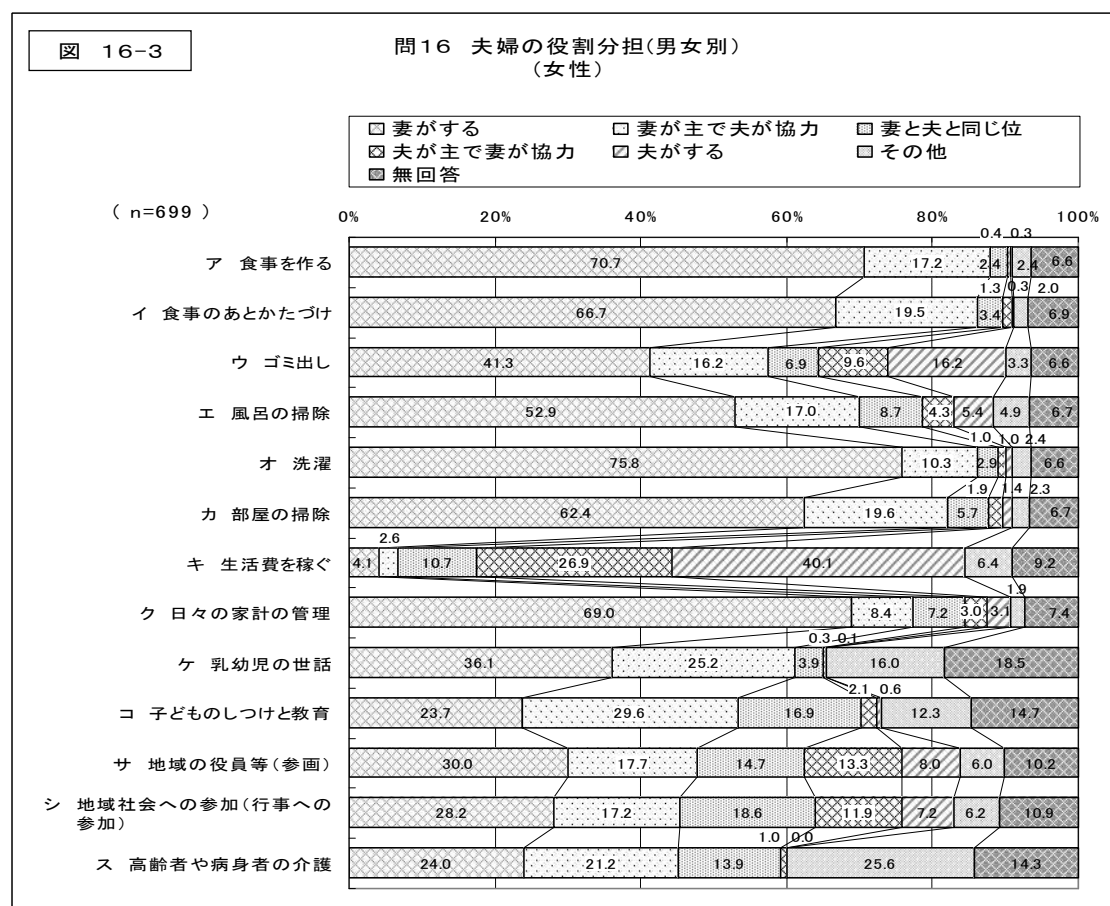
「育児の負担」は女性で 27.9%、男性で 16.2%である。女性の場合 50 歳代までおよそ 3 分の 1 を占めている。男性の場合は 30 歳代で 31.4%と高いものの、他の年代では低い割合を示す。

「結婚相手の父母の介護負担」は女性で 25.1%を占める一方で男性は 9.6%と少なく、女性の場合、20 歳代では 18.8%であるが、年代が高くなるほどその割合が増えている。

4. 調査結果

問 16 あなたのご家庭では、夫婦の役割分担はどのようになっていますか。次のア～スの項目についてそれぞれ1つずつ選んでください。（単数回答）





「夫婦の役割分担」については、「生活費を稼ぐ」のみが、夫が主体であるほかは、ほぼすべての家事を妻が主として担っていることがわかる。前回の調査と比較すると、「食事を作る」については、「妻がする」66.5% (74.4%)、「妻が主で夫が協力」19.3% (11.1%)、「食事のあとかたづけ」については、「妻がする」が57.2% (65.5%)、「妻が主で夫が協力」については、24.1% (16.5%) など、ほぼ全ての項目で、男性も家庭における役割を担うようになってきている。「生活費を稼ぐ」については、「夫がする」が前回の調査の45.2%から42.1%と低下、「妻と夫と同じ位」が7.6%から9.5%に増加している。

性別でみると、「食事を作る」については男性では、「妻がする」60.8%、「妻が主で夫が協力」22.4%となっている。一方、女性では、「妻がする」70.7%、「妻が主で夫が協力」17.2%である。また「食事のあとかたづけ」については、男性では、「妻が主で夫が協力」30.5%あるが、女性では「妻が主で夫が協力」19.5%となっている。こうした家事を巡る男女での分担の認識の差は、「部屋の掃除」の項目にもあてはまる。同様に「子どものしつけと教育」についても、男性では、「妻がする」10.9%に対し「妻と夫と同じ位」28.5%、女性では、それぞれ23.7%、16.9%であり、男女の認識の差が見られる。

「地域への役員等(参画)」については、「夫がする」と「夫が主で妻が協力」の合計で25.0% (一)、「妻がする」、「妻が主で夫が協力」41.0% (一)であり、また「地域社会への参加(行事への参加)」では、それぞれ23.3% (15.3%)、38.8% (43.8%)となっており前回の調査と比べて、男性がその役割を担うことが多くなっている。

4. 調査結果

(4) 教育について

問 17 あなたは、子どもがどのように育ってほしいと思いますか。「男の子」と「女の子」の場合について、それぞれ2つ以内で選んでください。お子さんがいない方は「もし、いたとしたら」と仮定してお答えください。（複数回答）

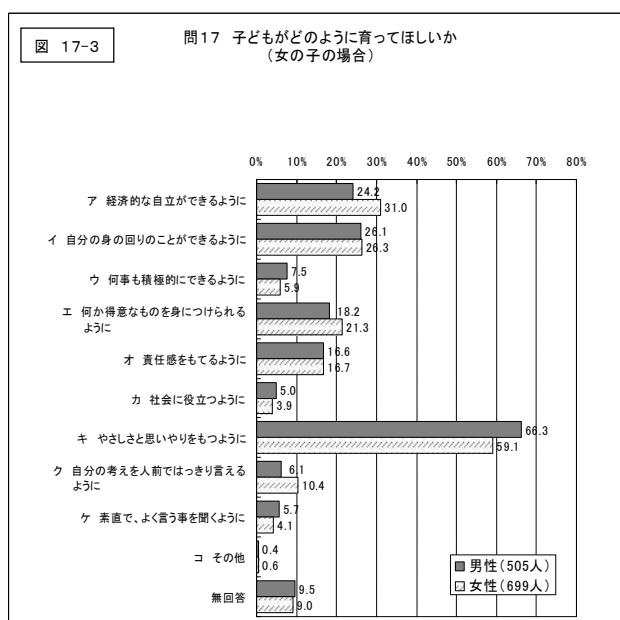
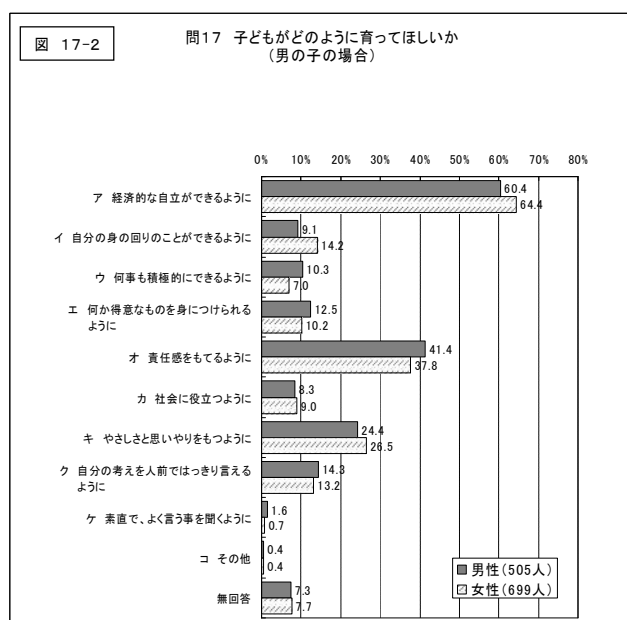
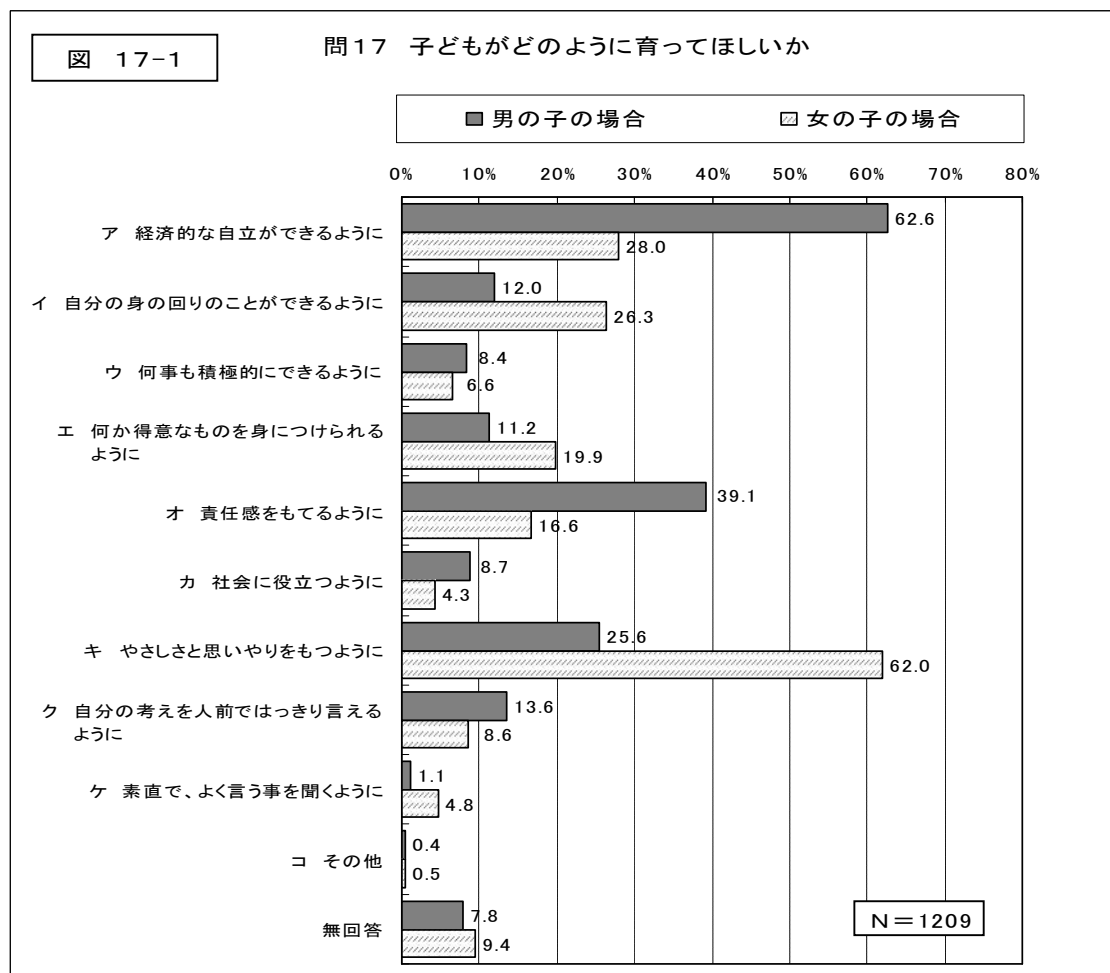


表 17-1 子どもがどのように育ってほしいか（男の子の場合） 単位(%)

			ア よ う に	イ が で き る よ う に	ウ よ う に	エ つ け ら れ る よ う に	オ 責 任 感 を も て る よ う に	カ 社 会 に 役 立 つ よ う に	キ も や さ し さ と 思 い や り を	ク は つ き り 言 え る よ う に	ケ を 聞 く よ う に	コ そ の 他	無 回 答
性・年代別	女性	20歳代	50.8	21.5	7.7	15.4	36.9	3.1	36.9	18.5	3.1	0.0	1.5
		30歳代	53.3	21.9	12.4	12.4	26.7	3.8	41.0	16.2	1.0	1.0	4.8
		40歳代	65.3	15.3	6.1	11.2	30.6	9.2	27.6	11.2	0.0	1.0	10.2
		50歳代	76.3	15.3	2.3	12.2	37.4	11.5	25.2	12.2	0.0	0.8	3.1
		60歳代	71.3	7.0	7.0	5.3	46.2	11.1	21.1	11.1	0.6	0.0	9.4
		70歳以上	58.1	11.6	7.8	9.3	41.9	10.9	17.1	13.2	0.8	0.0	14.0
	男性	20歳代	26.9	11.5	11.5	26.9	50.0	0.0	50.0	19.2	3.8	0.0	0.0
		30歳代	45.2	11.0	13.7	16.4	34.2	5.5	37.0	16.4	5.5	1.4	4.1
		40歳代	52.7	12.2	9.5	17.6	36.5	14.9	28.4	12.2	1.4	0.0	6.8
		50歳代	72.9	4.2	11.5	12.5	37.5	5.2	29.2	17.7	1.0	1.0	2.1
		60歳代	73.5	7.6	6.1	6.8	48.5	8.3	15.9	15.9	0.0	0.0	6.8
		70歳以上	56.3	11.7	12.6	9.7	41.7	10.7	12.6	7.8	1.0	0.0	17.5

表 17-2 子どもがどのように育ってほしいか（女の子の場合） 単位(%)

			ア よ う に	イ が で き る よ う に	ウ よ う に	エ つ け ら れ る よ う に	オ 責 任 感 を も て る よ う に	カ 社 会 に 役 立 つ よ う に	キ も や さ し さ と 思 い や り を	ク は つ き り 言 え る よ う に	ケ を 聞 く よ う に	コ そ の 他	無 回 答
性・年代別	女性	20歳代	21.5	35.4	7.7	20.0	12.3	1.5	70.8	16.9	6.2	0.0	1.5
		30歳代	24.8	32.4	8.6	20.0	16.2	1.0	61.9	12.4	7.6	1.0	5.7
		40歳代	43.9	15.3	2.0	21.4	16.3	9.2	58.2	8.2	2.0	1.0	10.2
		50歳代	39.7	29.0	2.3	19.8	17.6	6.9	62.6	7.6	3.1	0.8	3.8
		60歳代	29.8	23.4	6.4	22.2	21.1	2.3	56.7	10.5	3.5	0.0	10.5
		70歳以上	24.0	26.4	8.5	23.3	13.2	2.3	51.2	10.1	3.9	0.8	17.8
	男性	20歳代	11.5	34.6	11.5	15.4	23.1	0.0	65.4	3.8	11.5	0.0	7.7
		30歳代	20.5	38.4	5.5	19.2	2.7	2.7	75.3	8.2	8.2	1.4	4.1
		40歳代	21.6	28.4	10.8	17.6	21.6	10.8	67.6	4.1	2.7	0.0	6.8
		50歳代	36.5	18.8	8.3	15.6	21.9	8.3	66.7	5.2	6.3	1.0	4.2
		60歳代	25.8	28.0	6.1	18.2	15.9	2.3	69.7	7.6	6.1	0.0	6.8
		70歳以上	18.4	18.4	6.8	21.4	17.5	3.9	54.4	5.8	2.9	0.0	24.3

4. 調査結果

「子どもがどのように育ってほしいか」については、「経済的な自立ができるように」は男の子の場合で 62.6% (58.8%)、女の子の場合で 28.0% (23.8%) となっており、男の子には、経済的期待が大きい。前回の調査と比較すると、男女を問わず経済的に自立してほしいとの期待が高くなっている。

「自分の身の回りのことができるように」については、男の子の場合で 12.0% (11.3%)、女の子の場合で 26.3% (22.8%) となっている。前回の調査と比較すると、女の子の場合でその割合が高くなっている。特に 20 歳代、30 歳代で、男性、34.6%、38.4%、女性、35.4%、32.4% など若い年代でその割合が高い。

「何か得意なものを身に付けられるように」については、男の子の場合で 11.2% (13.2%) 女の子の場合で 19.9% (23.5%) となり、前回の調査よりどちらも低下している。

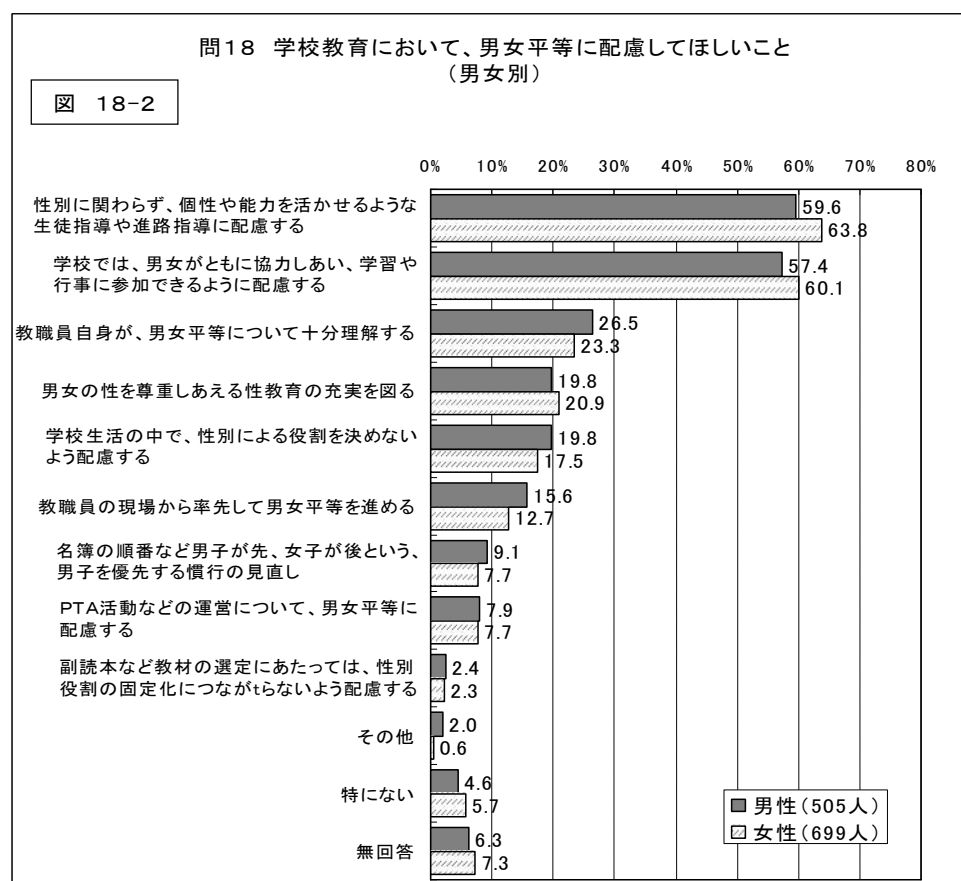
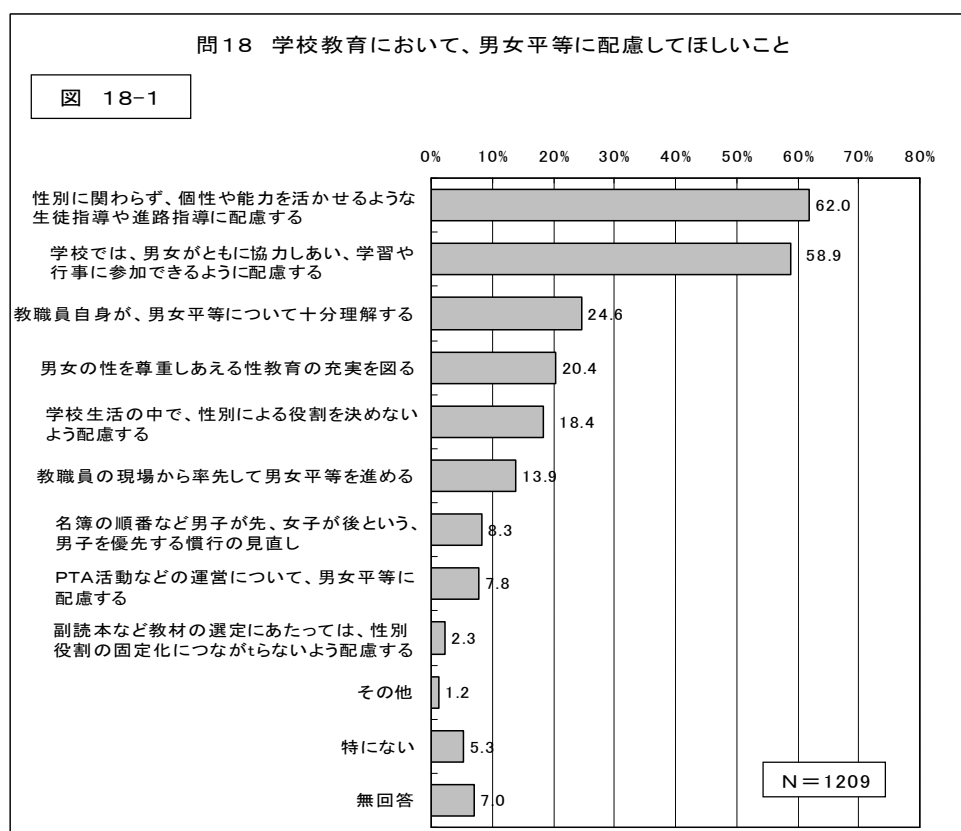
「責任感を持てるように」については、男の子の場合で 39.1% (40.9%)、女の子の場合で 16.6% であり、男の子への期待が大きい。同じく、「社会に役立つように」についての回答も男の子の場合が多い。

「何事も積極的にできるように」については、男の子の場合で 8.4% (9.6%)、女の子の場合で 6.6% (7.7%) である。「自分の考えを人前ではっきり言えるように」については、男の子の場合で 13.6% (18.5%)、女の子の場合で 8.6% (11.5%) である。こうした責任感、社会性、積極性など外へ出る力が男の子に求められている。

「やさしさと思いやりを持つように」については、女の子の場合で 62.0% (66.5%)、男の子の場合で 25.6% (28.1%) であり、女の子にはやさしさを求める傾向がある。前回の調査と比較すると割合は低下している。年代別では、女の子の場合、いずれの年代でも 60% を超えている。男の子の場合、若い年代ほど、男の子にやさしさを求める割合が高い。また「素直で、よく言うことを聞くように」についても、女の子の場合で 4.8% (8.4%) と男の子の場合 1.1% (2.8%) よりも高い。

男の子は経済的に自立し、責任感をもって社会に出ることを、女の子はやさしさと思いやりを持ち、経済的に自立してほしいとの思いが見られる。

問18 学校（園）教育において、男女平等に配慮してほしいことや、力を入れてほしいと思うことはどのようなことですか。次の中から3つ以内で選んでください。（複数回答）



4. 調査結果

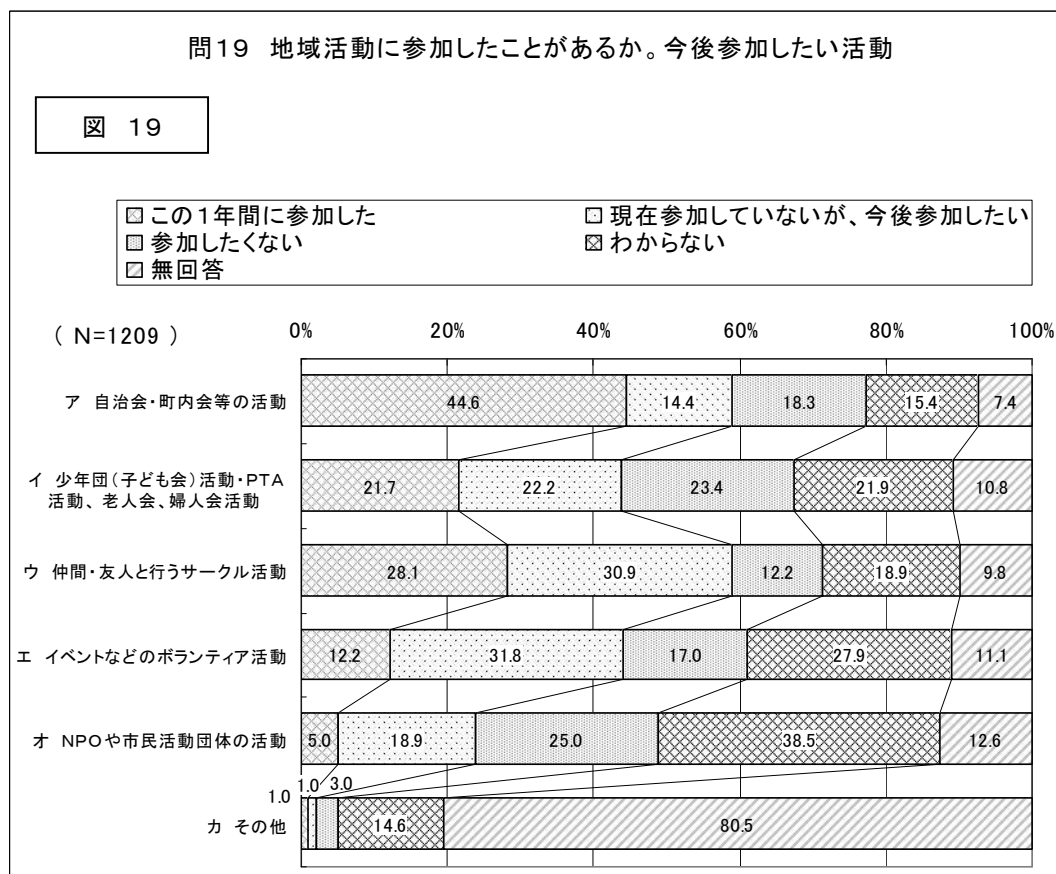
「学校教育において、男女平等に配慮してほしいこと」については、「性別に関わらず、個性や能力を活かせるような生徒指導や進路指導に配慮する」が 62.0% (60.1%) で最も多く、次いで、「学校では、男女がともに協力しあい、学習や行事に参加できるように配慮する」が 58.9% (57.6%) である。いずれも前回の調査よりも割合が高くなっている。これらについて、性別にみると、女性の回答の割合がやや高くなっている。

また、教職員に対する意見としては「教職員自身が、男女平等について十分理解する」24.6% (30.7%)、「教職員の現場から率先して男女平等を進める」13.9% (14.9%) となっている。

より具体的な内容での男女平等に配慮を求める回答では、「男女の性を尊重しあえる性教育の充実を図る」20.4% (20.4%) の割合が高い。「名簿の順番など男子が先、女子が後という、男子を優先する慣行の見直し」が 8.3% (－) となっている。

(5) 地域活動について

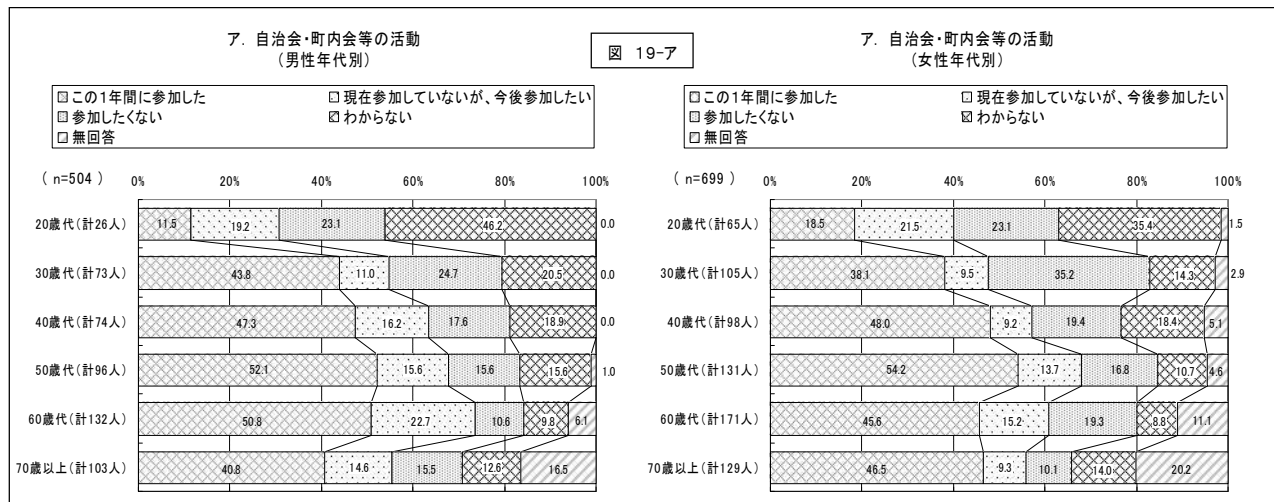
問 19 あなたは、この1年間に何か地域活動に参加したことがありますか。また、今後参加したい活動はありますか。次のア～カの項目について、それぞれ1つずつ選んでください。
(単数回答)



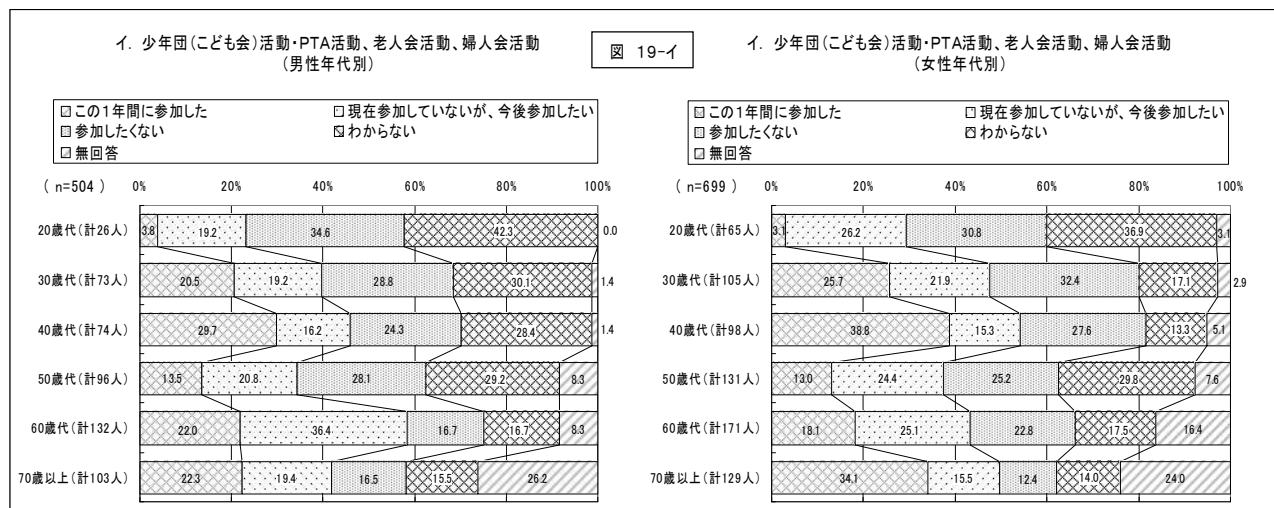
「地域活動別に参加したことがあるか。今後参加したい活動」については、「自治会・町内会等の活動」で44.6%、「仲間・友人と行うサークル活動」28.1%、「少年団(子ども会)活動・PTA活動、老人会、婦人会活動」21.7%、「イベントなどのボランティア活動」12.2%となっている。「自治会・町内会等の活動」が地域活動の中心となっている。

参加してみたい活動では、「イベントなどのボランティア」が最も多く31.8%、次いで「仲間・友人と行うサークル活動」30.9%となっている。ボランティアなど新しい市民活動や仲間内の活動に関心がある一方で、「少年団(子ども会)活動・PTA活動、老人会、婦人会活動」には23.4%が、「自治会・町内会等の活動」には18.3%が「参加したくない」と回答している。

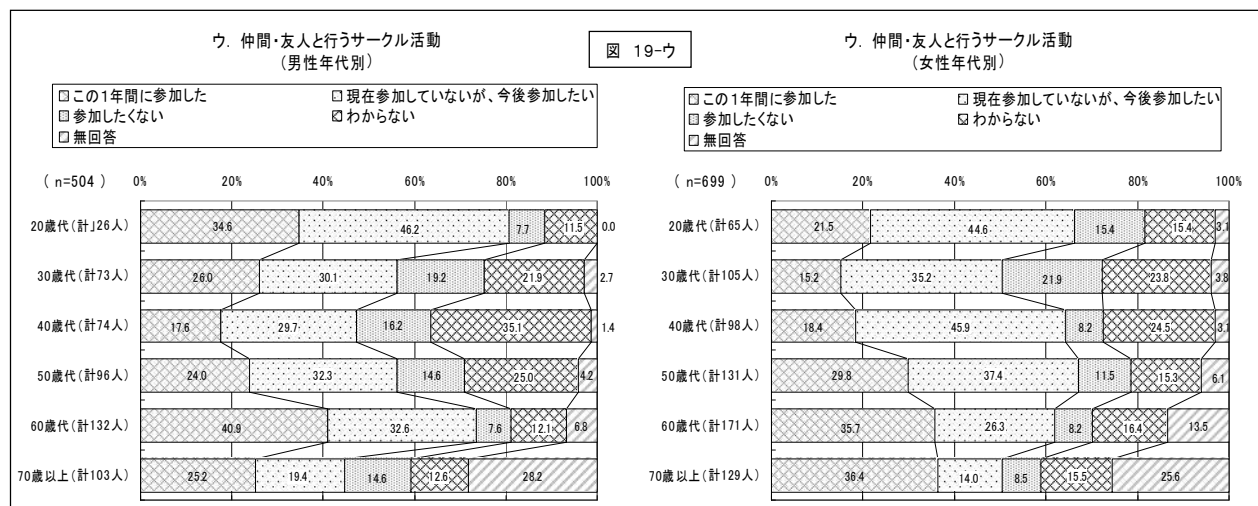
4. 調査結果



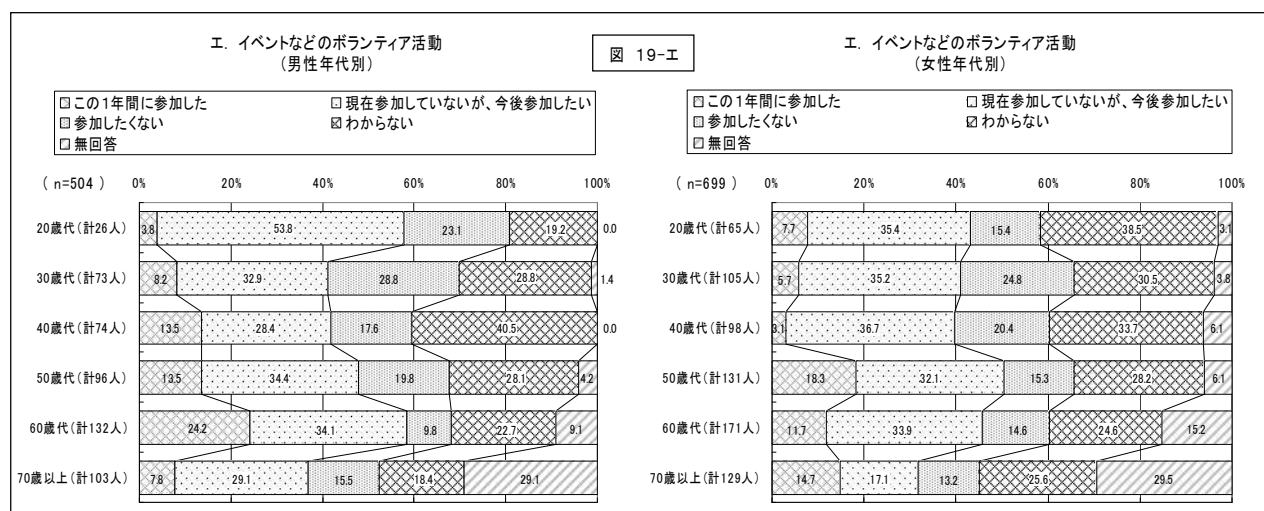
「自治会・町内会等の活動」については、男性が活動に参加している割合が、他の地域活動よりも高い。参加状況は男女とも20歳代は低く30歳代から50歳代まで上昇、その後やや低下する。「参加したくない」との回答は男女とも、年代が高いほど低下している。また、「現在参加していないが、今後参加したい」は、いずれの年代でも男性が女性を上回る。これに対し、「参加したくない」は、女性が男性をどの年代でも上回っている。



「少年団等(こども会)活動・PTA活動、老人会活動、婦人会活動」については、参加した人の割合は女性が多い。参加の割合が高いのは40歳代で、男性で29.7%、女性で38.8%である。子どもに関わる活動は女性を中心である。その一方で「参加したくない」という回答も女性の方が高い。50歳代では参加する割合が男女とも低下するが、60歳代、70歳以上では増加する。

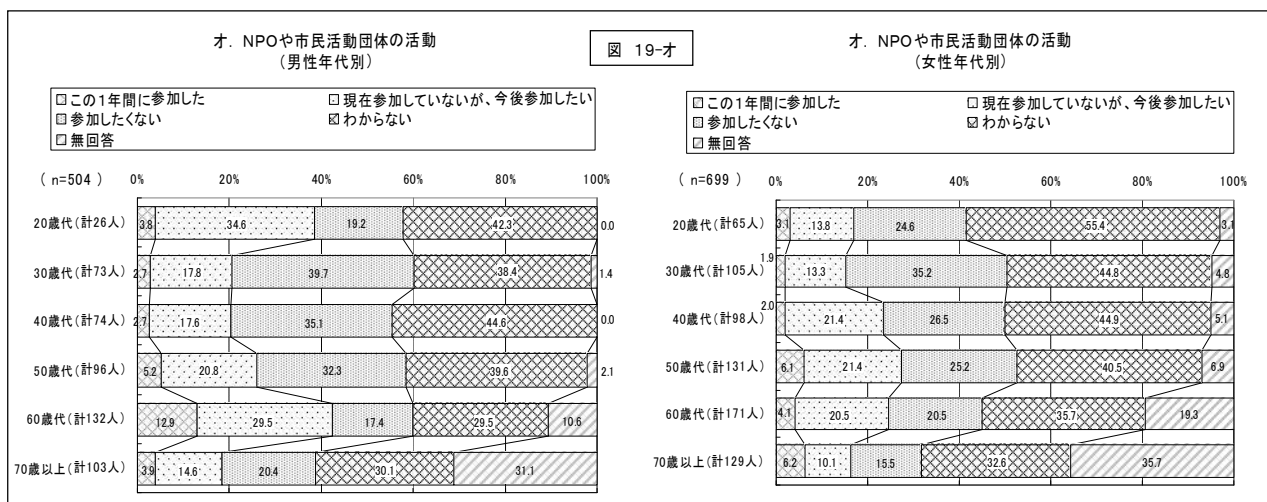


「仲間・友人と行うサークル活動」については、20歳代では「参加している」が男性で34.6%、女性で21.5%を占めており、また「参加したい」との回答もそれぞれ46.2%、44.6%と高く、仲間での活動に若年層は積極的である。しかし女性では30歳代、男性では40歳代では参加している割合が低くなる。性別では、男性の30歳代以上の年代で3分の1が「現在参加していないが、今後参加したい」との回答している。



「イベントなどのボランティア活動」については、男性では年代が高いほど「この1年間に参加した」割合が高くなり、60歳代では24.2%を占めている。女性も50歳代で18.3%となるが、40歳代までは10%未満である。男性では、「現在は参加していないが、今後参加したい」との回答が20歳代で53.8%、また、30歳代以上で約3分の1の回答がある。

4. 調査結果



「NPOや市民活動団体の活動」については、男性の20歳代で42.3%、女性の20歳代で55.4%と、他の地域活動よりも「わからない」との回答が多く、実際に活動している人は男性では60歳代で12.9%など高い年代に多い。「参加したくない」との回答は、男性の30歳代から50歳代で30%を上回り、女性でも70歳以上を除き20%を超える。

表 19

男女共同参画社会の認知度と各種地域活動の状況

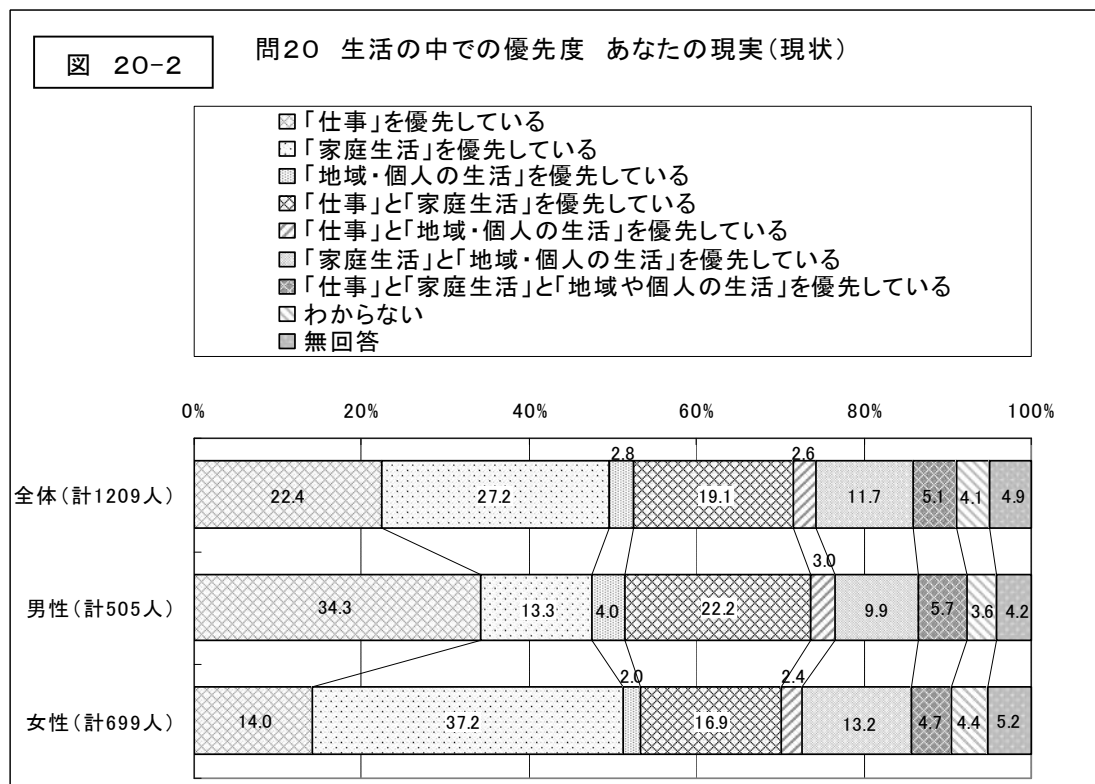
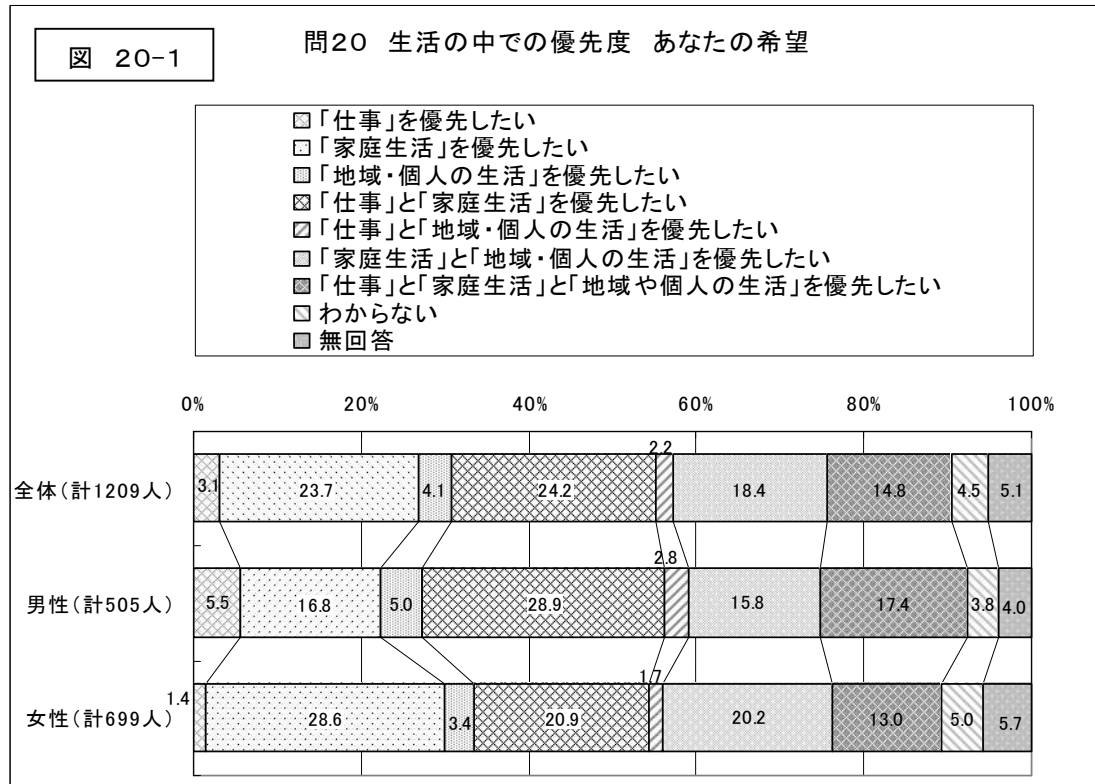
活動内容	活動状況	男女共同参画社会の認知度					
		よく知っている		聞いたことがある		知らない	
		件数	割合%	件数	割合%	件数	割合%
自治会・町内会等の活動	この1年間に参加した	161	59.9	224	48.4	143	39.2
	現在参加していないが、今後参加したい	46	17.1	75	16.2	51	14.0
	参加したくない	35	13.0	88	19.0	93	25.5
	わからない	27	10.0	76	16.4	78	21.4
	合計	269	100.0	463	100.0	365	100.0
少年団活動・PTA活動、老人会、婦人会活動	この1年間に参加した	84	32.3	100	22.5	73	20.5
	現在参加していないが、今後参加したい	71	27.3	123	27.7	71	19.9
	参加したくない	52	20.0	108	24.3	121	34.0
	わからない	53	20.4	113	25.5	91	25.6
	合計	260	100.0	444	100.0	356	100.0
仲間・友人と行うサークル活動	この1年間に参加した	121	46	133	29.4	78	22.1
	現在参加していないが、今後参加したい	86	32.7	167	36.9	114	32.3
	参加したくない	24	9.1	58	12.8	66	18.7
	わからない	32	12.2	95	21.0	95	26.9
	合計	263	100.0	453	100.0	353	100.0
イベントなどのボランティア活動	この1年間に参加した	68	26.0	54	12.2	23	6.5
	現在参加していないが、今後参加したい	105	40.1	176	39.8	99	28.1
	参加したくない	27	10.3	84	19.0	92	26.1
	わからない	62	23.7	128	29.0	138	39.2
	合計	262	100.0	442	100.0	352	100.0
NPOや市民活動団体の活動	この1年間に参加した	23	8.9	28	6.4	9	2.6
	現在参加していないが、今後参加したい	85	33.1	92	21.1	49	14
	参加したくない	55	21.4	122	28.0	122	35.0
	わからない	94	36.6	193	44.4	169	48.4
	合計	257	100.0	435	100.0	349	100.0

「男女共同参画社会の認知度と各種地域活動の状況」（表19）については、「自治会・町内会等の活動」でみると、「男女共同参画社会の認知度」について「よく知っている」と回答し、「この1年間に参加した」人の割合は59.9%であり、「参加したくない」との回答は13.0%である。これに対し、「知らない」と回答し、「この1年間に参加した」人の割合は39.2%であり、「参加したくない」人の割合は25.5%である。「男女共同参画社会の認知度」が高いほど、「自治会・町内会等の活動」に参加する傾向がある。「少年団活動・PTA活動、老人会、婦人会活動」についても同様の結果になっている。

4. 調査結果

(6) 仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)について

問 20 生活の中での「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の優先度についてお伺いします。
あなたの「希望」に最も近いものと、「現実」に最も近いものを、それぞれ1つ教えてください。
(単数回答)



「生活の中での優先度 あなたの希望」については、男性で最も多い回答が『「仕事」と「家庭生活」を優先したい』で、28.9%を占めている。次いで『「仕事」と「家庭生活」と「地域や個人の生活」を優先したい』が17.4%、『「家庭生活」を優先したい』が16.8%、『「家庭生活」と「地域・個人の生活」を優先したい』が15.8%で、ほぼ横並びである。家庭生活を中心に、仕事や地域でバランスよく活動したいとの気持ちが表れている。家庭生活を含まない『「仕事」を優先したい』は5.5%、『「地域・個人の生活」を優先したい』は5.0%と少ない。女性の場合、希望では28.6%が『「家庭生活」を優先したい』と回答しており、次いで『「仕事」と「家庭生活」を優先したい』が20.9%、『「家庭生活」と「地域・個人の生活」を優先したい』が20.2%でほぼ同じ割合となっている。

内閣府世論調査で最も多い回答は、『「仕事」と「家庭生活」を優先』で33.0%を占めており、加古川市の結果を上回る。次いで、『「家庭生活」を優先』22.5%、『「仕事」と「家庭生活」と「地域や個人の生活」を優先』16.7%、『「仕事」を優先』13.3%である。加古川市と比べ、仕事の優先順位が高く、地域や個人の生活の順位は低い。女性の場合、『「家庭生活」を優先したい』34.1%、『「仕事」と「家庭生活」を優先したい』29.7%となっている。その順位は同じであり、傾向は類似する。

「生活の中での優先度 あなたの現実（現状）」については、男性で、『「仕事」を優先している』が最も多く34.3%となっている。次いで『「仕事」と「家庭生活」を優先している』の22.2%である。『「仕事」を優先したい』との希望は少ないため、希望と現実には大きな差があることがわかる。

内閣府世論調査で最も多い回答は、『「仕事」を優先』で37.8%、次いで『「仕事」と「家庭生活」を優先』21.1%で、ほぼ傾向が一致する。女性では、『「家庭生活」を優先している』が37.2%である。希望よりもその割合は多くなっており、内閣府世論調査でも『「家庭生活」を優先』が44.2%であり、希望での割合を上回っている。

表 20-1

希望と現実のクロス集計（男性）

単位(%)

希望 \ 現実	「仕事」を優先したい	「家庭生活」を優先したい	「地域・個人の生活」を優先したい	「仕事」と「家庭生活」を優先したい	「仕事」と「地域・個人の生活」を優先したい	「家庭生活」と「地域・個人の生活」を優先したい	「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」を優先したい	わからない	合計
「仕事」を優先している	82.1	33.3	12.0	47.3	42.9	20.0	27.6	21.1	35.8
「家庭生活」を優先している	7.1	40.5	32.0	3.4	0.0	17.5	3.4	5.3	13.9
「地域・個人の生活」を優先している	0.0	2.4	36.0	0.7	7.1	6.3	1.1	5.3	4.1
「仕事」と「家庭生活」を優先している	10.7	17.9	8.0	39.7	21.4	10.0	25.3	5.3	23.2
「仕事」と「地域・個人の生活」を優先している	0.0	1.2	0.0	2.1	14.3	5.0	5.7	0.0	3.1
「家庭生活」と「地域・個人の生活」を優先している	0.0	3.6	4.0	2.1	14.3	35.0	12.6	5.3	10.1
「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」を優先している	0.0	0.0	8.0	0.7	0.0	6.3	23.0	5.3	6.0
わからない	0.0	1.2	0.0	4.1	0.0	0.0	1.1	52.6	3.7
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

4. 調査結果

「希望と現実のクロス集計」（表 20-1）をみると、男性の場合『「仕事」と「家庭生活」を優先したい』と希望している人で、それを実現しているのは 39.7%である。47.3%は「仕事」を優先している。

『「仕事」と「家庭生活」と「地域や個人の生活」を優先したい』との希望を持っても、現実にはその 27.6%は「仕事」を優先しており、また 25.3%は『「仕事」と「家庭生活」を優先している』との回答である。『「家庭生活」を優先したい』と希望している人で実現できているのは、40.5%であり、33.3%は『「仕事」を優先している』と回答している。『「仕事」を優先したい』と希望している人で、現実にも『「仕事」を優先している』は 82.1%と高い割合となっている。

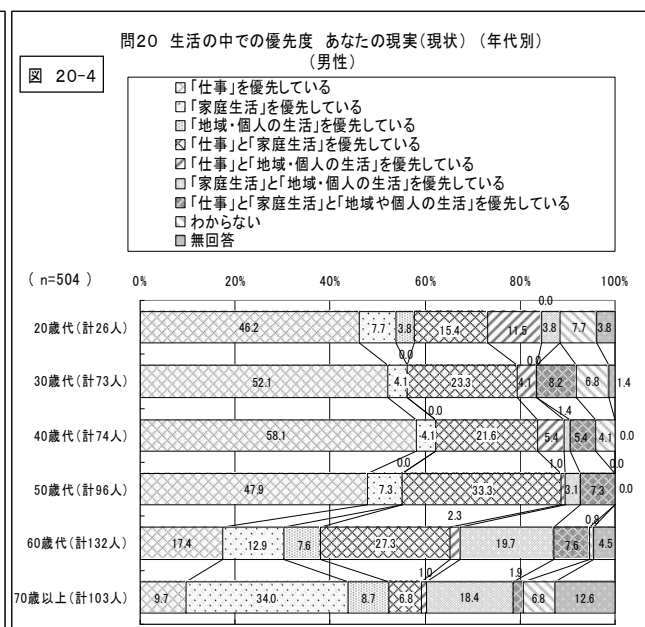
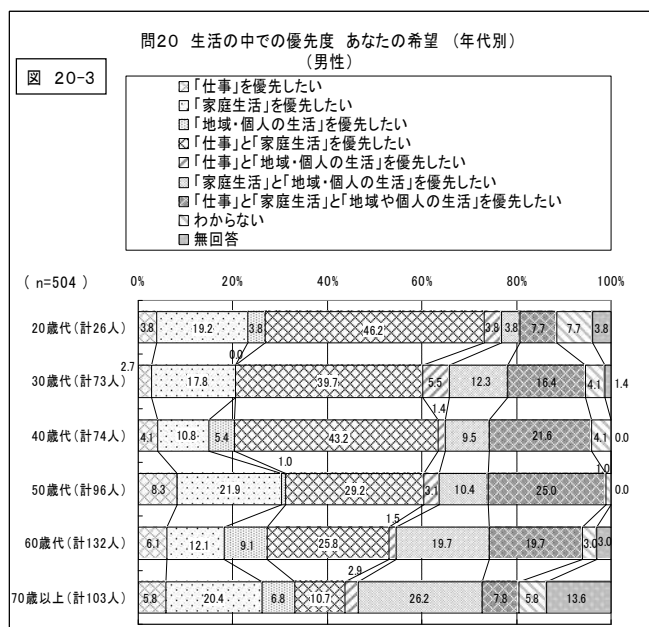
表 20-2

希望と現実のクロス集計（女性）

単位(%)

希望 現実	「仕事」を優先したい	「家庭生活」を優先したい	「地域・個人の生活」を優先したい	「仕事」と「家庭生活」を優先したい	「仕事」と「地域・個人の生活」を優先したい	「家庭生活」と「地域・個人の生活」を優先したい	「仕事」と「地域・個人の生活」を優先したい	わからない	合計
「仕事」を優先している	60.0	10.5	16.7	29.9	25.0	6.5	10.0	9.1	15.0
「家庭生活」を優先している	10.0	68.5	33.3	23.6	8.3	31.7	21.1	36.4	39.3
「地域・個人の生活」を優先している	0.0	1.5	16.7	0.0	0.0	2.9	1.1	3.0	2.0
「仕事」と「家庭生活」を優先している	20.0	9.5	8.3	36.1	25.0	5.0	36.7	0.0	18.1
「仕事」と「地域・個人の生活」を優先している	0.0	2.0	0.0	1.4	16.7	2.2	5.6	0.0	2.5
「家庭生活」と「地域・個人の生活」を優先している	10.0	4.5	20.8	0.7	0.0	46.0	6.7	6.1	13.5
「仕事」と「家庭生活」と「地域や個人の生活」を優先している	0.0	0.5	0.0	5.6	8.3	3.6	18.9	3.0	5.1
わからない	0.0	3.0	4.2	2.8	16.7	2.2	0.0	42.4	4.6
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

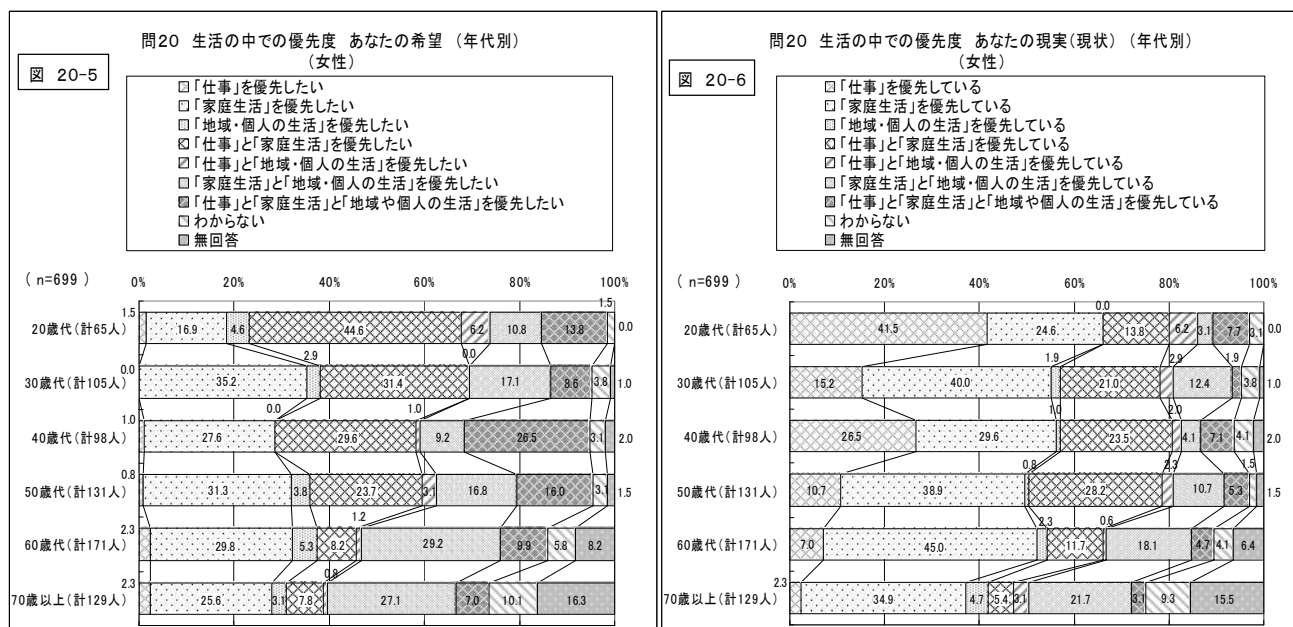
女性の場合は、『「家庭生活」を優先したい』と希望している人で、それを実現できているのは、68.5%である。『「仕事」と「家庭生活」を優先したい』と希望している人で、実現できているのは、36.1%であり、23.6%が家庭生活を、29.9%が「仕事」を優先している。『「家庭生活」と「地域や個人の生活」を優先したい』と希望している人で、実現できているのは、46.0%であり、31.7%が「家庭生活」を優先している。『「仕事」を優先したい』と希望している人で『「仕事」を優先している』のは 60.0%であり、20.0%は「仕事」と「家庭生活」を、10.0%は「家庭生活」を優先している。



年代別にみると、男性の場合、『「仕事」と「家庭生活」を優先したい』という希望は、20歳代では46.2%であるが、30歳代で39.7%、40歳代で43.2%と年代が高いほどその割合が低下する。いずれの年代も『「仕事」を優先したい』との希望は10%以下である。また『「家庭生活」と「地域・個人の生活」を優先したい』との希望は、年代が高いほどその割合が高くなり、60歳代で19.7%、70歳以上で26.2%である。

次に、現実については、50歳代までのおよそ半数が、『「仕事」を優先している』との回答である。特に、希望との差が大きいのは20歳代、30歳代、40歳代で『「仕事」を優先したい』はそれぞれ3.8%、2.7%、4.1%に対し、現実には46.2%、52.1%、58.1%が『「仕事」を優先』している。

4. 調査結果



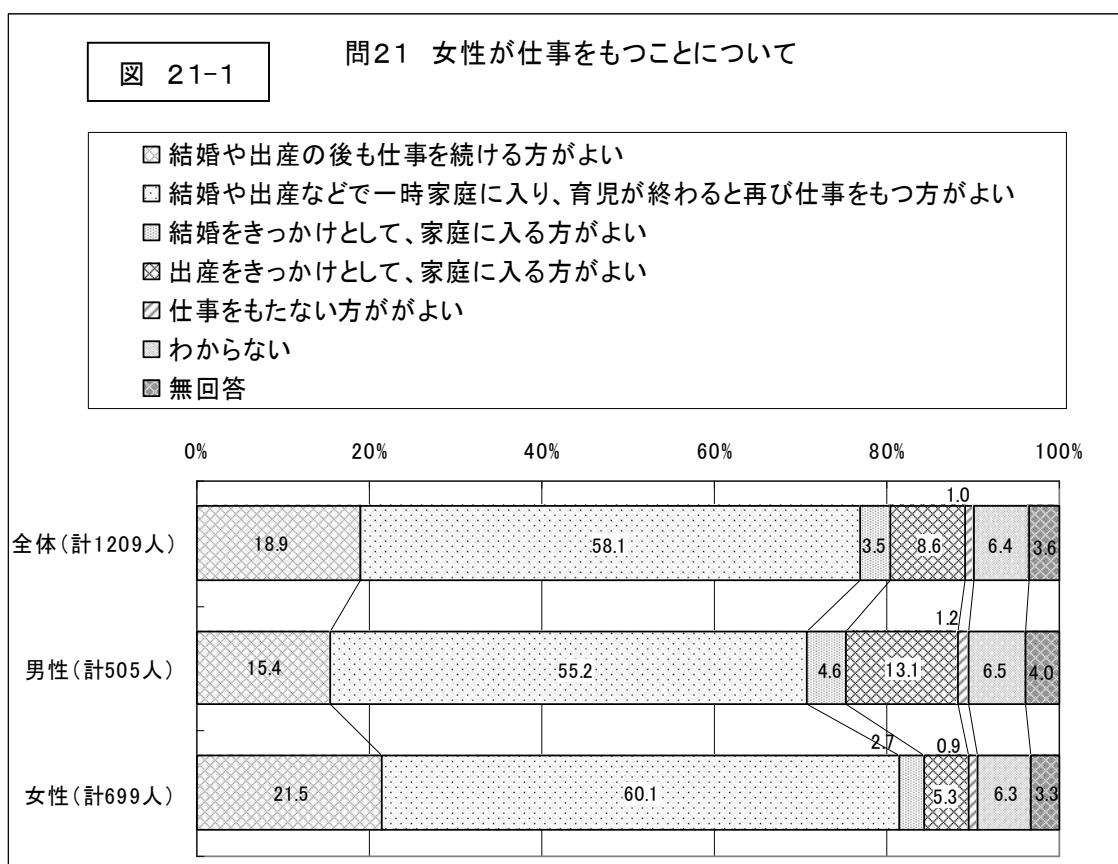
女性の場合、『「仕事」と「家庭生活」を優先したい』という希望は、20歳代で44.6%を占め、両立を希望する人が多い。30歳代では31.4%、40歳代では29.6%、50歳代では23.7%と年代が高いほど減少している。一方、『「家庭生活」を優先したい』はそれぞれ35.2%、27.6%、31.3%を占め、すべての年代において、『「家庭生活」を優先したい』『「仕事」と「家庭生活」を優先したい』との回答の割合が高くなっている。また50歳代以上で『「家庭生活」と「地域・個人の生活」を優先したい』との希望が比較的大きな割合を占める。

現実については、『「仕事」を優先している』が20歳代で41.5%であるが、30歳代では15.2%、40歳代で26.5%、50歳代で10.7%となり、男性と異なり、年代により大きな変化がみられる。

50歳代以上では、年代が高いほど『「仕事」を優先している』割合は低くなり、『「家庭生活」と「地域・個人の生活」を優先している』割合が高くなっている。

(7) 就労について

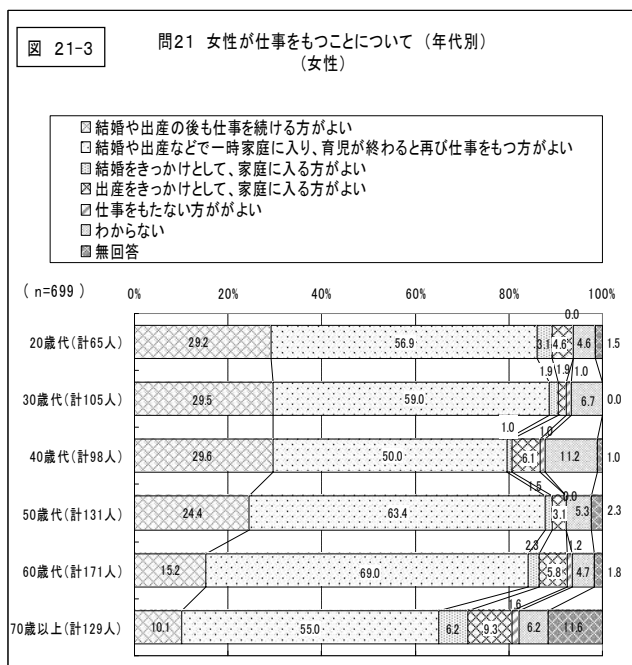
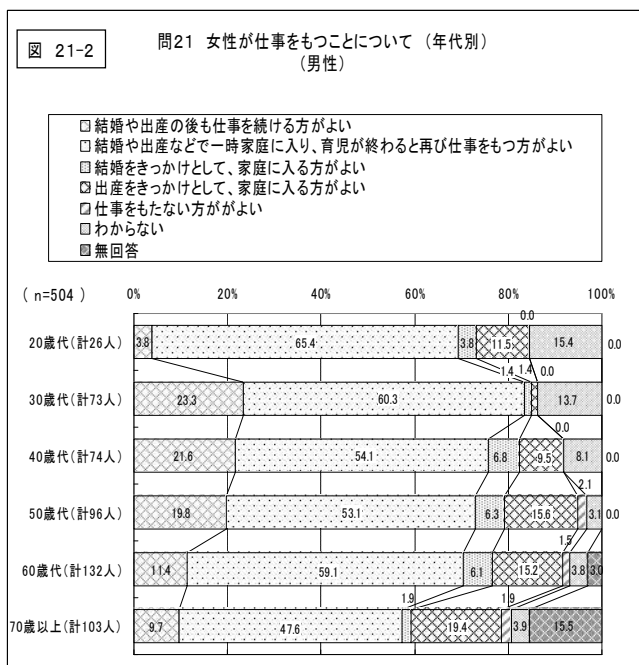
問 21 一般的に、女性が仕事をもつことについて、あなたのお考えに最も近いものはどれですか。
次の中から1つ選んでください。（単数回答）



「女性が仕事をもつことについて」は、男性では55.2%（51.2%）が、女性では60.1%（59.7%）が「結婚や出産などで一時家庭に入り、育児が終わると再び仕事をもつ方がよい」と回答している。また男性の場合「出産をきっかけとして、家庭に入る方がよい」との回答が13.1%（13.7%）、「結婚をきっかけとして、家庭に入る方がよい」との回答が4.6%（5.8%）あり、合計で17.7%を占める。女性では8.0%（9.8%）と少なく、男女の意識の差がみられる。

「結婚や出産の後も仕事を続ける方がよい」という考えは、女性で21.5%（19.6%）、男性で15.4%（17.1%）となっている。また前回の調査との比較では、男性で「結婚や出産などで一時家庭に入り、育児が終わると再び仕事をもつ方がよい」とする割合が増え「結婚・出産をきっかけとして、家庭に入る方がよい」とする回答は男女とも減少している。

4. 調査結果



年代別にみると、男性の場合、20歳代で「結婚や出産の後も仕事を続ける方がよい」、「結婚や出産などで一時家庭に入り、育児が終わると再び仕事をもつ方がよい」がそれぞれ3.8%、65.4%、30歳代では23.3%、60.3%、40歳代では21.6%、54.1%となり、30歳代以上で年代が高いほど、その割合は低下している。「結婚や出産などで一時家庭に入り、育児が終わると再び仕事をもつ方がよい」は、30歳代では60.3%、40歳代では54.1%と年代が高いほど割合が低下する。「結婚・出産をきっかけとして、家庭に入る方がよい」が30歳代で2.8%、40歳代で16.3%、50歳代で21.9%と増加する傾向にある。

女性の場合、20歳代から40歳代までは、「結婚や出産の後も仕事を続ける方がよい」は30%を占めているが、50歳代以上の年代では徐々に低下する。「結婚や出産などで一時家庭に入り、育児が終わると再び仕事をもつ方がよい」は、20歳代で56.9%、30歳代で59.0%、40歳代で50.0%となっている。

問 22 女性の方におたずねします。あなたは、今までに仕事を辞めた経験がありますか。
(単数回答)

図 22-1

問22 仕事を辞めた経験の有無 (女性のみ)

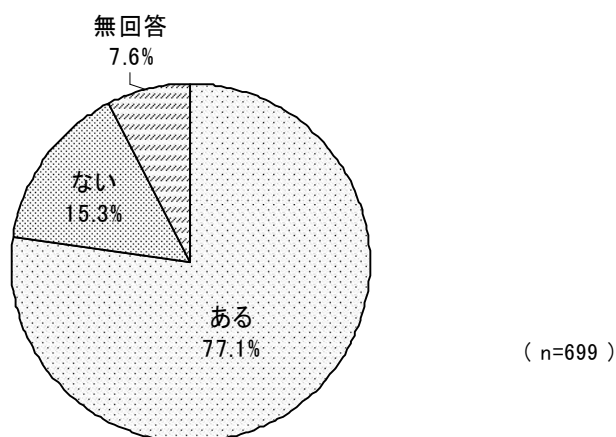


図 22-2

問22 仕事を辞めた経験の有無 (女性のみ)

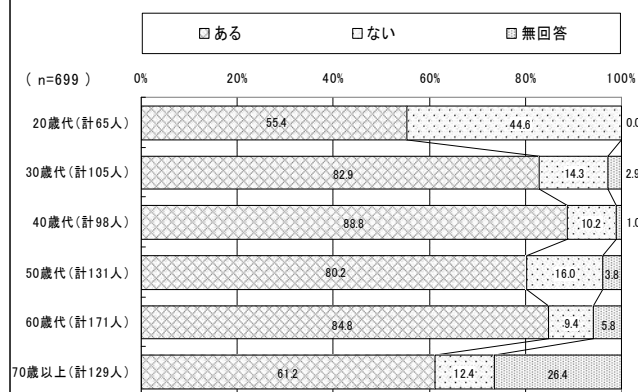
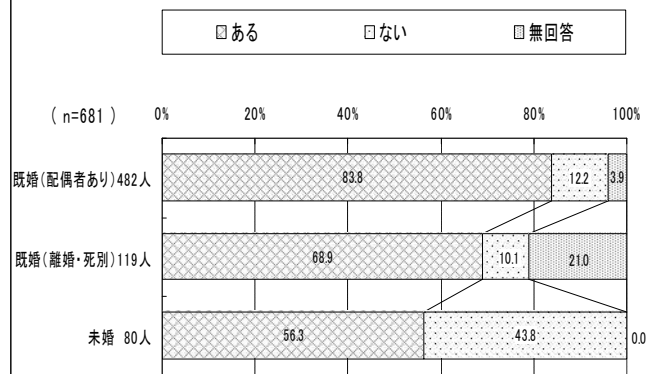


図 22-3

問22 仕事を辞めた経験の有無 (女性のみ)
(婚姻状況別)

「仕事を辞めた経験の有無 (女性のみ)」については、「ある」は 77.1%を占める。前回の調査は 78.7%であったため、この割合はやや低下している。

これを年代別でみると、辞めた経験があるのは、30 歳代以上で多くなり、40 歳代で最もその割合が高い。

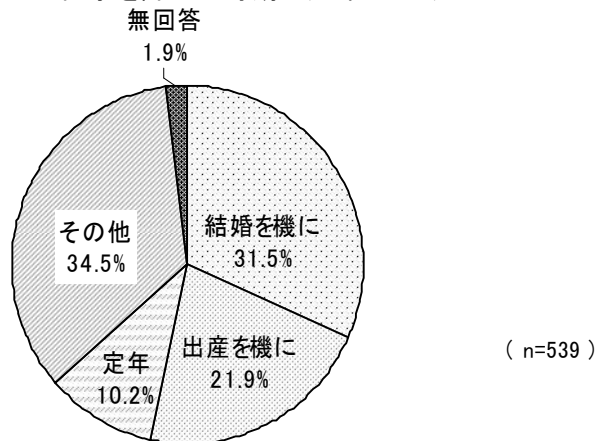
婚姻状況との関係では既婚では 8 割以上が辞めた経験があり、結婚、出産を機に辞めた女性が多いことを示す。

4. 調査結果

問 22-1 問 22 で「1. ある」を選ばれた方におたずねします。一番最近仕事を辞めた時期と主な理由は何ですか。（単数回答）

図 22-4

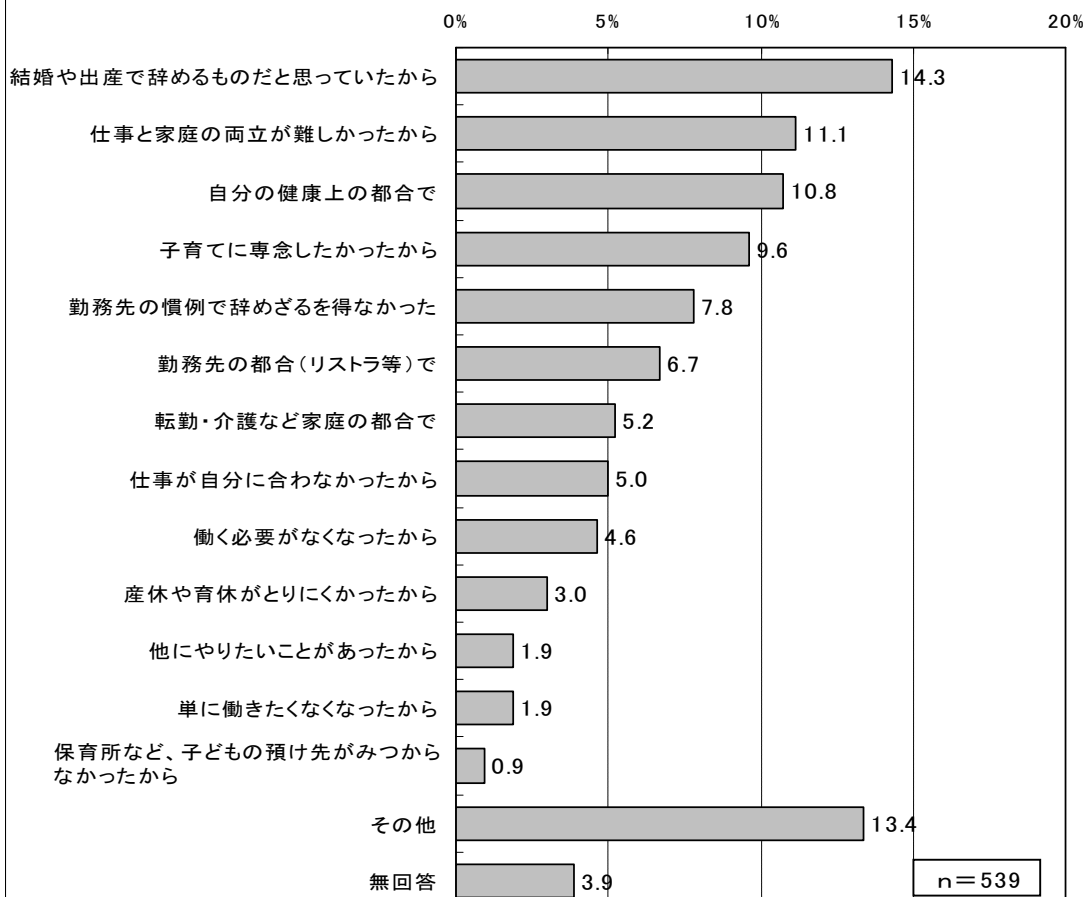
問22-1 仕事を辞めた時期（女性のみ）



「仕事を辞めた時期（女性のみ）」については、最も多いのは「結婚を機に」31.5%（33.1%）、次いで「出産を機に」21.9%（26.6%）となり、いずれも前回の調査よりも低下している。「定年」は10.2%（7.0%）であり、前回よりも増加している。

図 22-5

問22-1(2) 仕事を辞めた理由（女性のみ）



「仕事を辞めた理由（女性のみ）」については、最も多いのは、「結婚や出産で辞めるものだと思っていたから」で14.3%、「子育てに専念したかったから」9.6%と意識や価値観を理由とする人が23.9%を占める。一方、「仕事との両立が難しかったから」11.1%、「勤務先の慣例で辞めざるを得なかった」7.8%「産休や育休がとりにくかったから」3.0%、「保育所など、子どもの預け先が見つからなかったから」0.9%となり、職場の環境や条件を理由とする人が22.8%を占めている。

表 2 2 仕事を辞めた時期とその理由

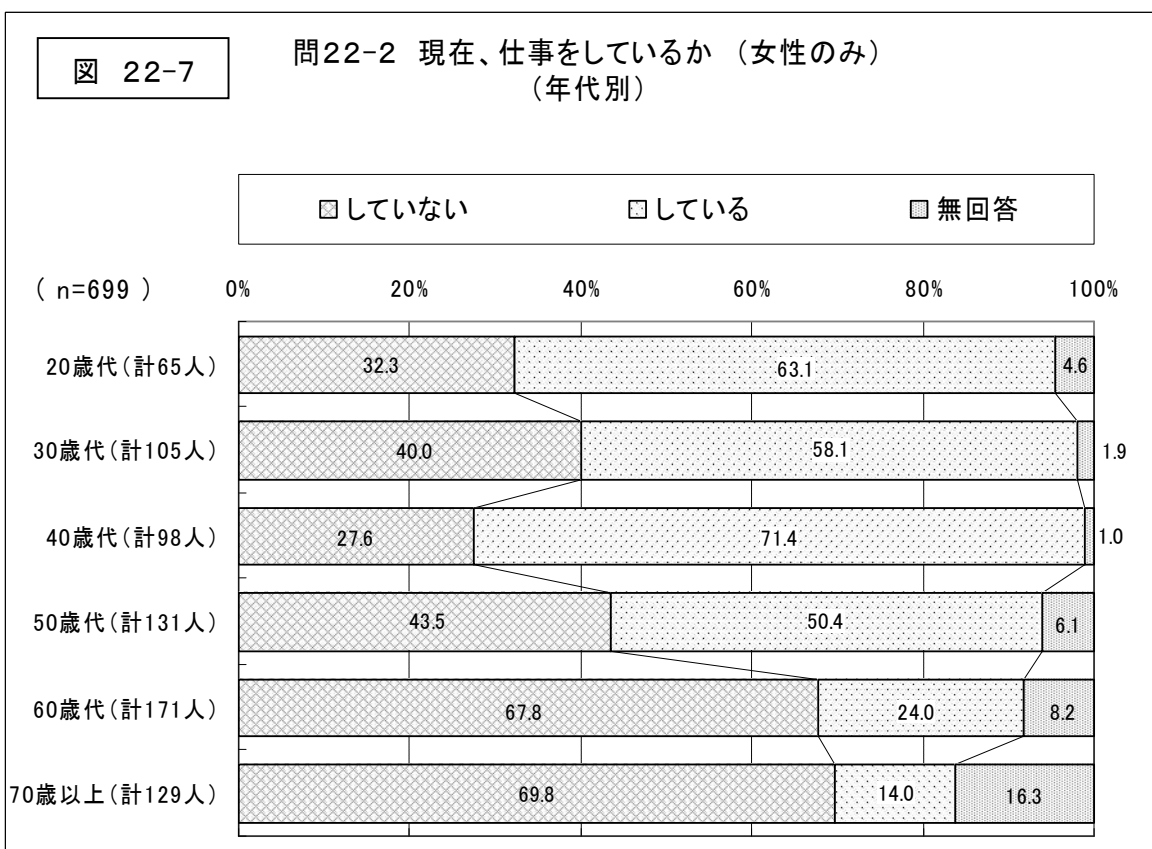
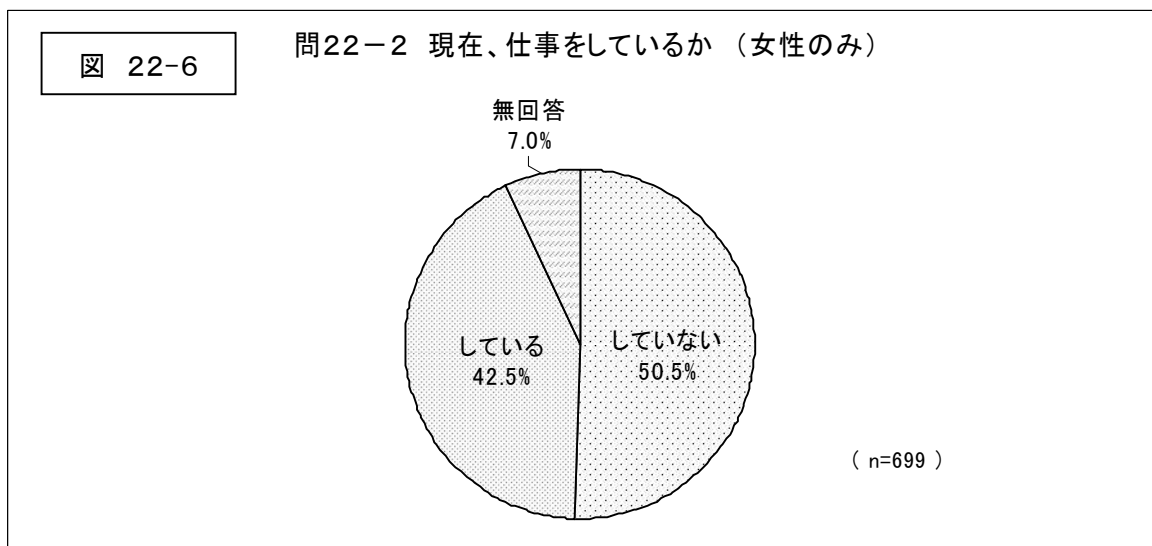
仕事を辞めた理由	仕事を辞めた時期			
	結婚を機に	出産を機に	定年	その他
勤務先の慣例で辞めざるを得なかった	6.1%	7.0%	40.8%	4.1%
結婚や出産で辞めるものだと思っていたから	35.2%	18.6%	0.0%	0.0%
産休や育休がとりにくかったから	1.7%	10.1%	0.0%	0.0%
勤務先の都合（リストラ等）で	1.7%	1.6%	4.1%	14.7%
自分の健康上の都合で	0.0%	6.2%	16.3%	22.3%
仕事が自分に合わなかったから	1.1%	0.0%	2.0%	12.7%
子育てに専念したかったから	6.7%	32.6%	0.0%	0.5%
転勤・介護など家庭の都合で	3.9%	1.6%	2.0%	9.6%
保育所など、子どもの預け先が見つからなかったから	0.6%	3.1%	0.0%	0.0%
仕事と家庭の両立が難しかったから	17.3%	18.6%	0.0%	5.1%
他にやりたいことがあったから	0.0%	0.0%	0.0%	5.6%
働く必要がなくなったから	9.5%	0.0%	12.2%	3.6%
単に働きたくなくなったから	2.8%	0.8%	2.0%	1.5%
その他	14.0%	2.3%	20.4%	20.3%

「仕事を辞めた時期とその理由」については、結婚を機に辞めた人では、35.2%が「結婚や出産でやめるものだと思っていたから」が最も多く、「子育てに専念したかったから」の6.7%と合わせると、意識や価値観を理由とする割合は41.9%を占める。また「仕事と家庭の両立が難しかったから」17.3%、「勤務先の慣例で辞めざるを得なかった」6.1%、「産休や育休がとりにくかったから」1.7%、「勤務先の都合（リストラ等）で」1.7%、「保育所など、子どもの預け先が見つからなかったから」0.6%を合わせると、職場の環境や条件を理由とする割合は27.4%を占める。

出産を機に辞めた人では、「子育てに専念したかったから」32.6%、「結婚や出産で辞めるものだと思っていたから」18.6%と意識や価値観を理由とする割合が51.2%と半数以上を占める。一方で、職場の環境や条件を理由とする割合は40.4%となる。

4. 調査結果

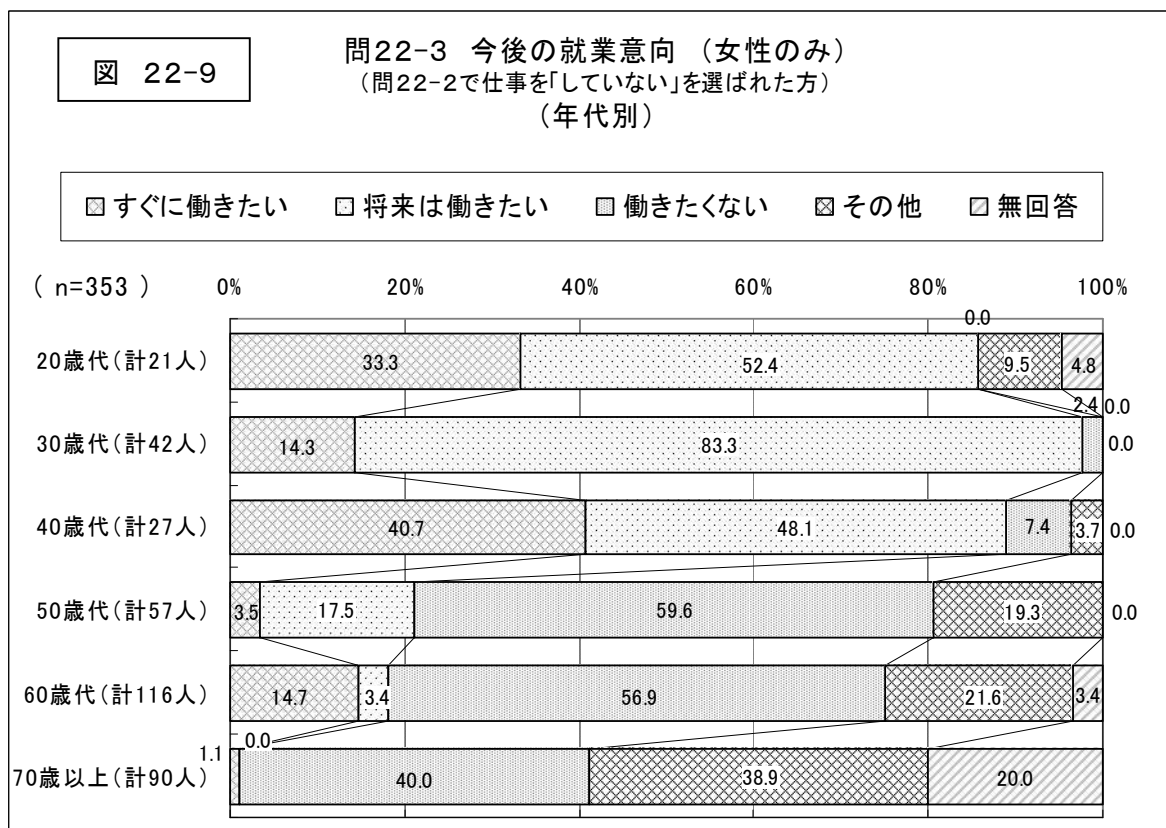
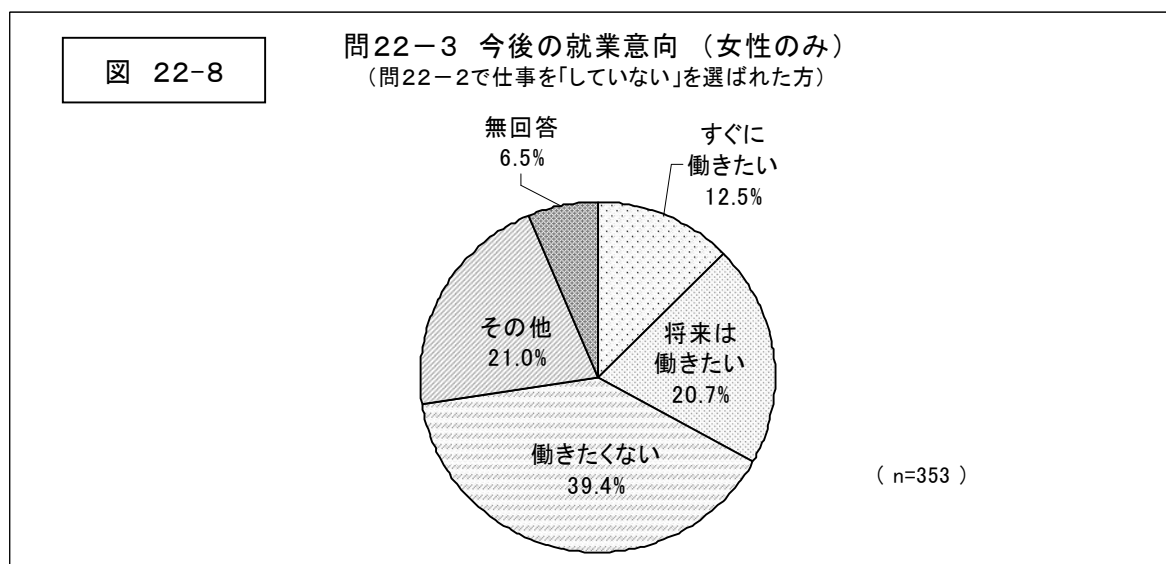
問 22-2 あなたは、現在、仕事をしていますか。（単数回答）



「現在、仕事をしているか（女性のみ）」については、「している」との回答が 42.5%、「していない」が 50.5%となっている。

年代別では、20 歳代から 50 歳代で仕事を「している」が 50%以上の割合を占める。

問 22-3 問 22-2 で「1. していない」を選ばれた方におたずねします。今後、適当な仕事があれば働きたいと思いますか。 （単数回答）

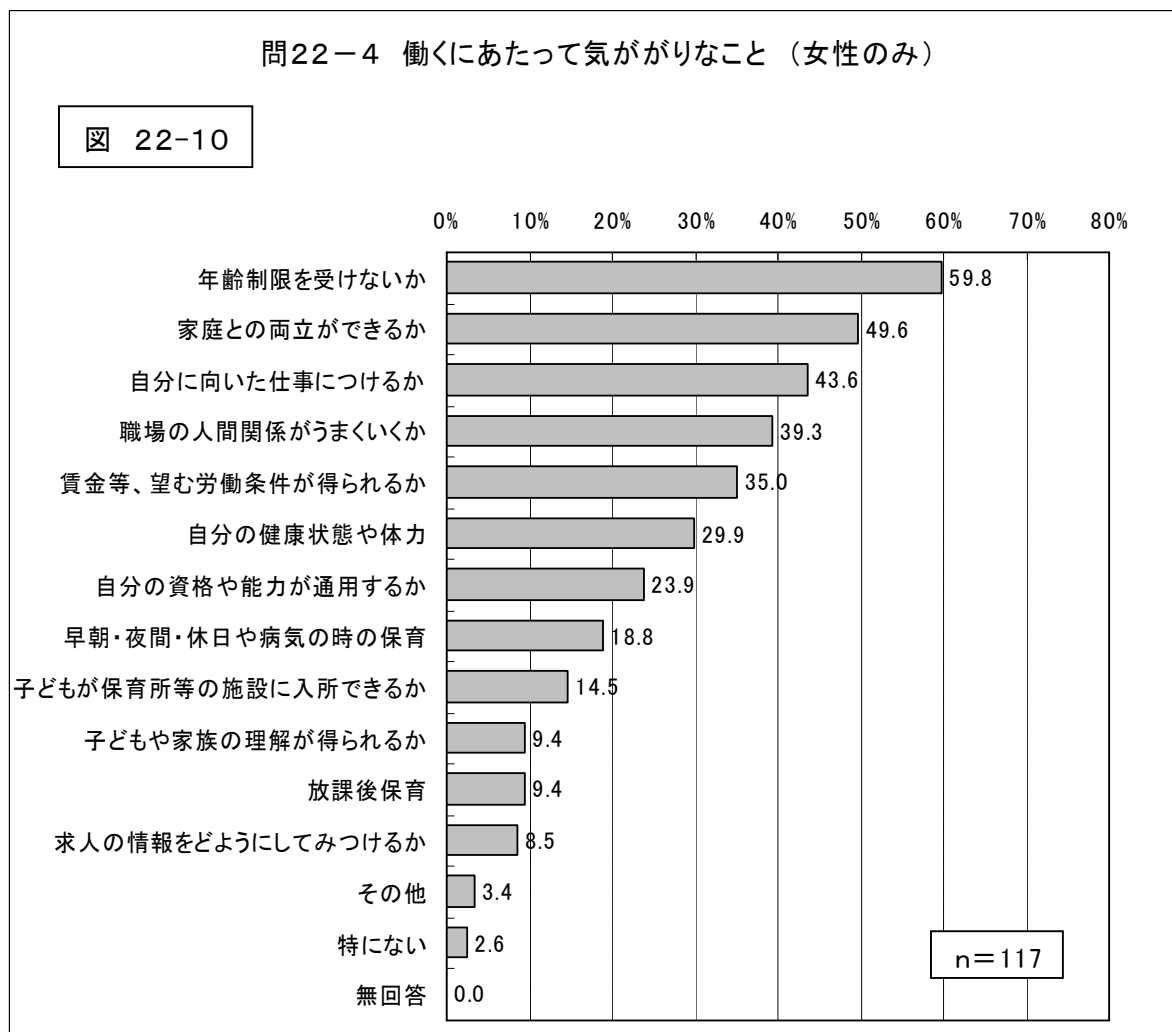


「今後の就業意向（女性のみ）」については、「すぐに働きたい」が12.5%（11.6%）、「将来は働きたい」が20.7%（22.7%）と3分の1が就業の希望を有している。

年代別にみると、50歳代以上では、「働きたくない」、「無回答」の割合が80%と高くなっている。一方、20歳代から40歳代で、「すぐに働きたい」「将来は働きたい」の割合を合わせると85%を超え、就業を希望していることがわかる。

4. 調査結果

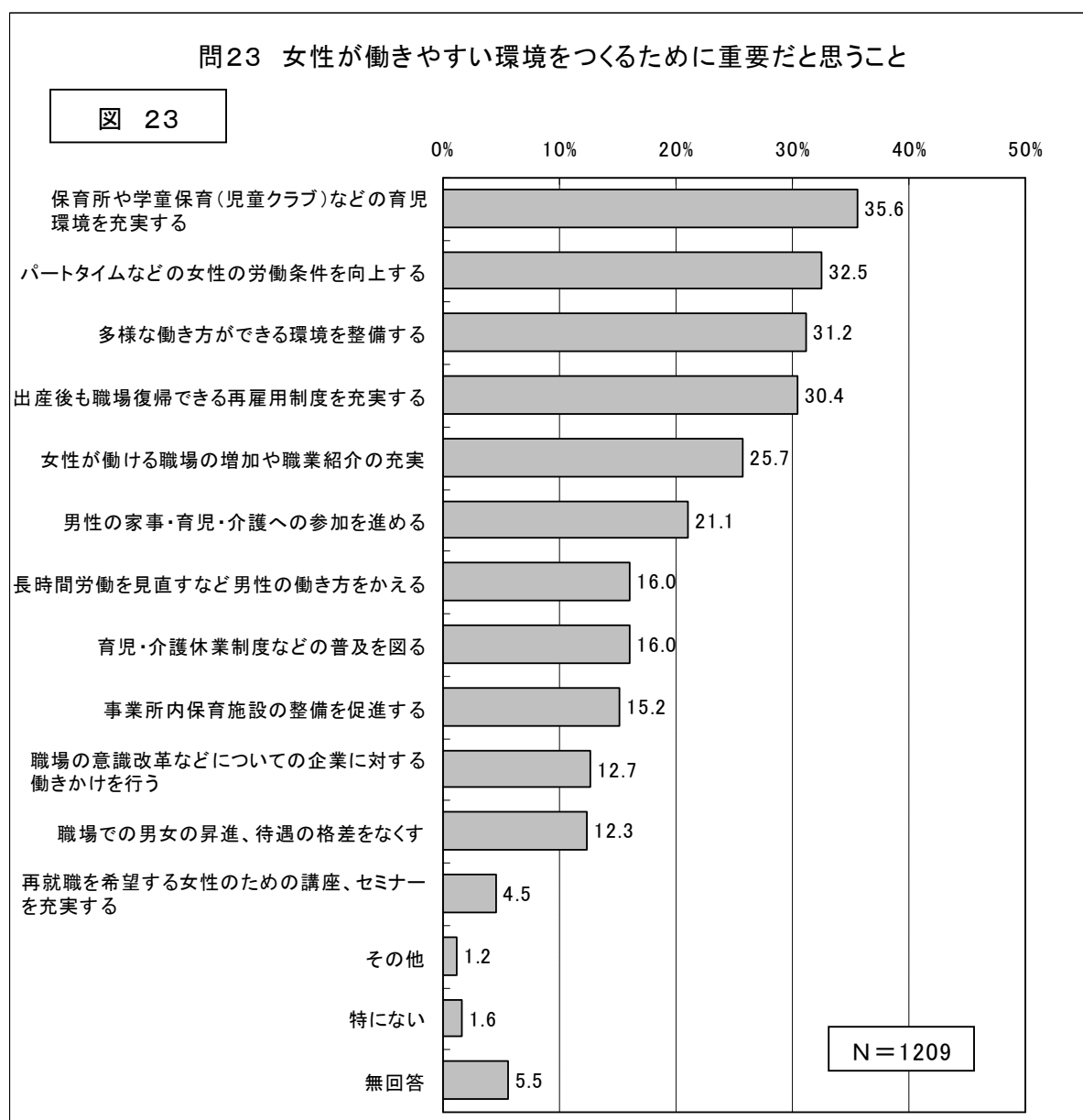
問 22-4 問 22-3 で「1. すぐに働きたい」または「2. 将来は働きたい」を選ばれた方におたずねします。働く場合、気がかりなことは何ですか。（複数回答）



「働くにあたって気がかりなこと（女性のみ）」については、最も多い回答は、「年齢制限を受けないか」で 59.8%を占める。これは前回の調査の 64.5%よりも低い結果である。次いで「家庭との両立ができるか」が 49.6%となっている。前回の調査では 27.3%であったため、大きく増加した項目である。「自分に向いた仕事につけるか」は 43.6%であり、前回の調査の 47.1%を下回る。また、前回の調査では高い割合であった「自分の資格や能力が通用するか」は 44.6%から、今回 23.9%となっている。

「早朝・夜間・休日や病気の時の保育」が 18.8%（15.7%）、「子どもが保育所等の施設に入所できるか」14.5%（16.5%）、「放課後保育」9.4%（12.4%）となり、子育てとの両立への関心が高まっている。

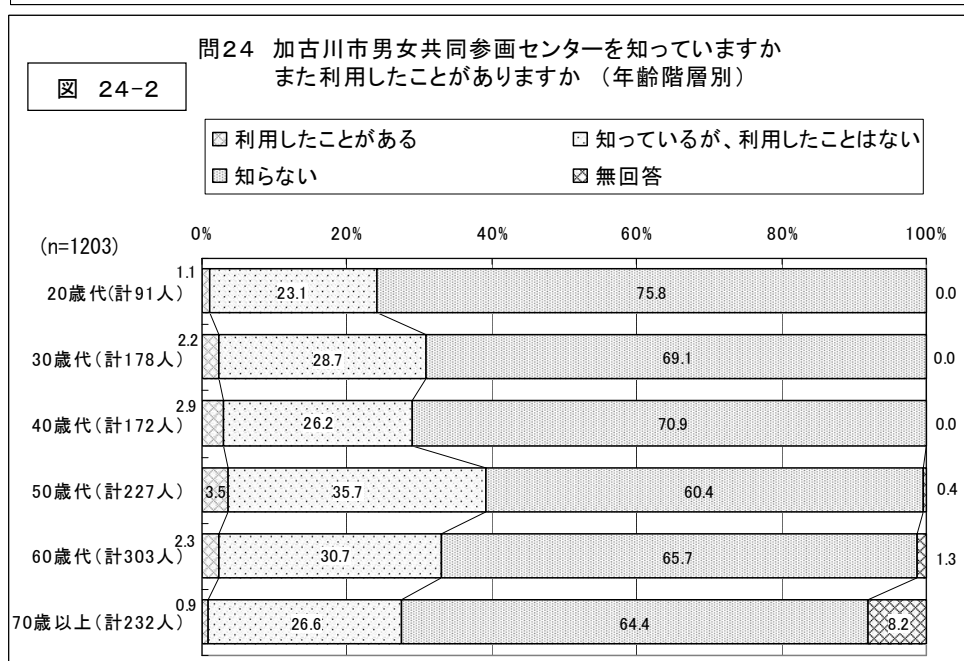
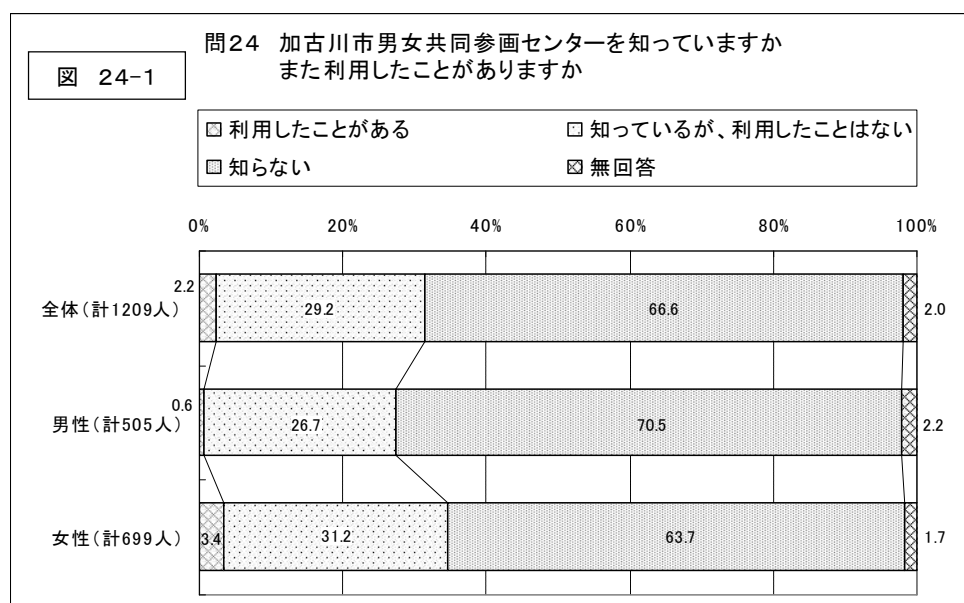
問 23 全員の方におたずねします。これから女性が働きやすい環境をつくるためには、どのようなことが重要だと思いますか。（複数回答）



「女性の働きやすい環境をつくるために重要だと思うこと」については、「保育所や学童保育（児童クラブ）などの育児環境を充実する」が 35.6%（33.6%）を占めている。次いで「パートタイムなどの女性の労働条件を向上する」が 32.5%（36.4%）である。また、「多様な働き方ができる環境を整備する」が 31.2%（31.4%）、「出産後も職場復帰できる再雇用制度を充実する」30.4%（31.8%）、「女性が働ける職場の増加や職業紹介の充実」が 25.7%（29.9%）となっており、前回と同様に上位を占めている。

(8) 市の男女共同参画推進に関する施策について

問 24 あなたは、加古川市男女共同参画センターをご存知ですか。また利用したことがありますか。次の中から 1 つ選んでください。（単数回答）

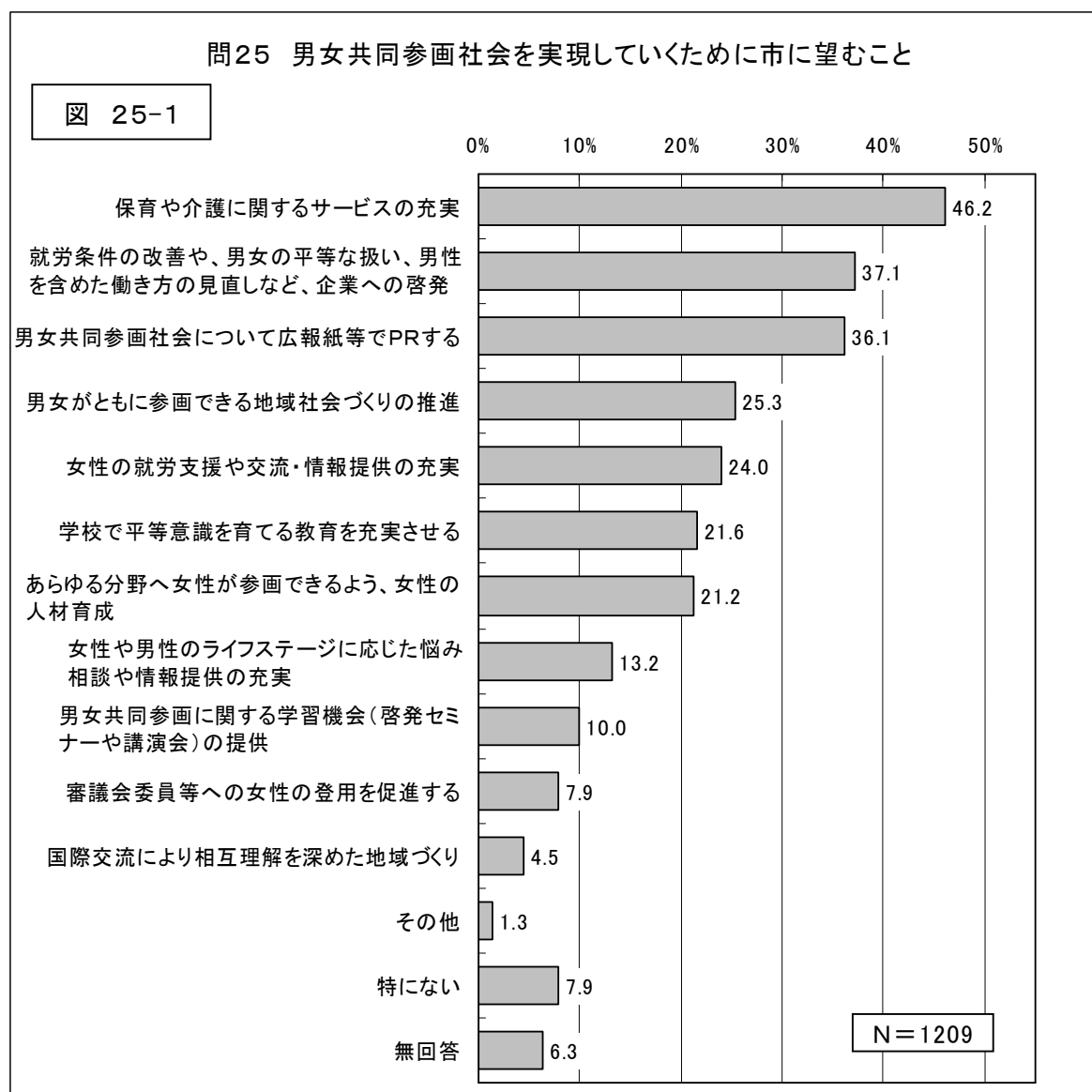


「加古川市男女共同参画センターの知名度と利用度」については、「利用したことがある」が 2.2%、「知っているが利用したことがない」は 29.2%、「知らない」が 66.6%である。

女性では、「利用したことがある」が 3.4%、「知っている」が 31.2%であり、いずれも男性に比べると知名度が高い。

年代別では、50 歳代で「利用したことがある」、「知っている」の割合が 39.2%と最も高く、次いで 60 歳代、40 歳代となっている。20 歳代では「知らない」が 75.8%を占めており、若年層での知名度が低いことがわかる。

問 25 男女共同参画社会を実現していくために、あなたは加古川市に対してどのようなことを望みますか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。（複数回答）



「男女共同参画社会を実現していくために市に望むこと」については、最も多い回答が、「保育や介護に関するサービスの充実」で46.2%（51.3%）、「就労条件の改善や、男女の平等な扱い、男性を含めた働き方の見直しなど、企業等への啓発」で37.1%（42.6%）と割合が高く、就業のための環境整備への期待が大きい。次いで、「男女共同参画社会について広報紙等でPRする」36.1%（24.8%）、「男女がともに参画できる地域社会づくりの推進」25.3%（29.1%）、「女性の就労支援や交流・情報提供の充実」24.0%（21.8%）、「学校で平等意識を育てる教育を充実させる」21.6%（28.4%）、「あらゆる分野へ女性が参画できるよう、女性の人材育成」21.2%（29.4%）となっている。

4. 調査結果

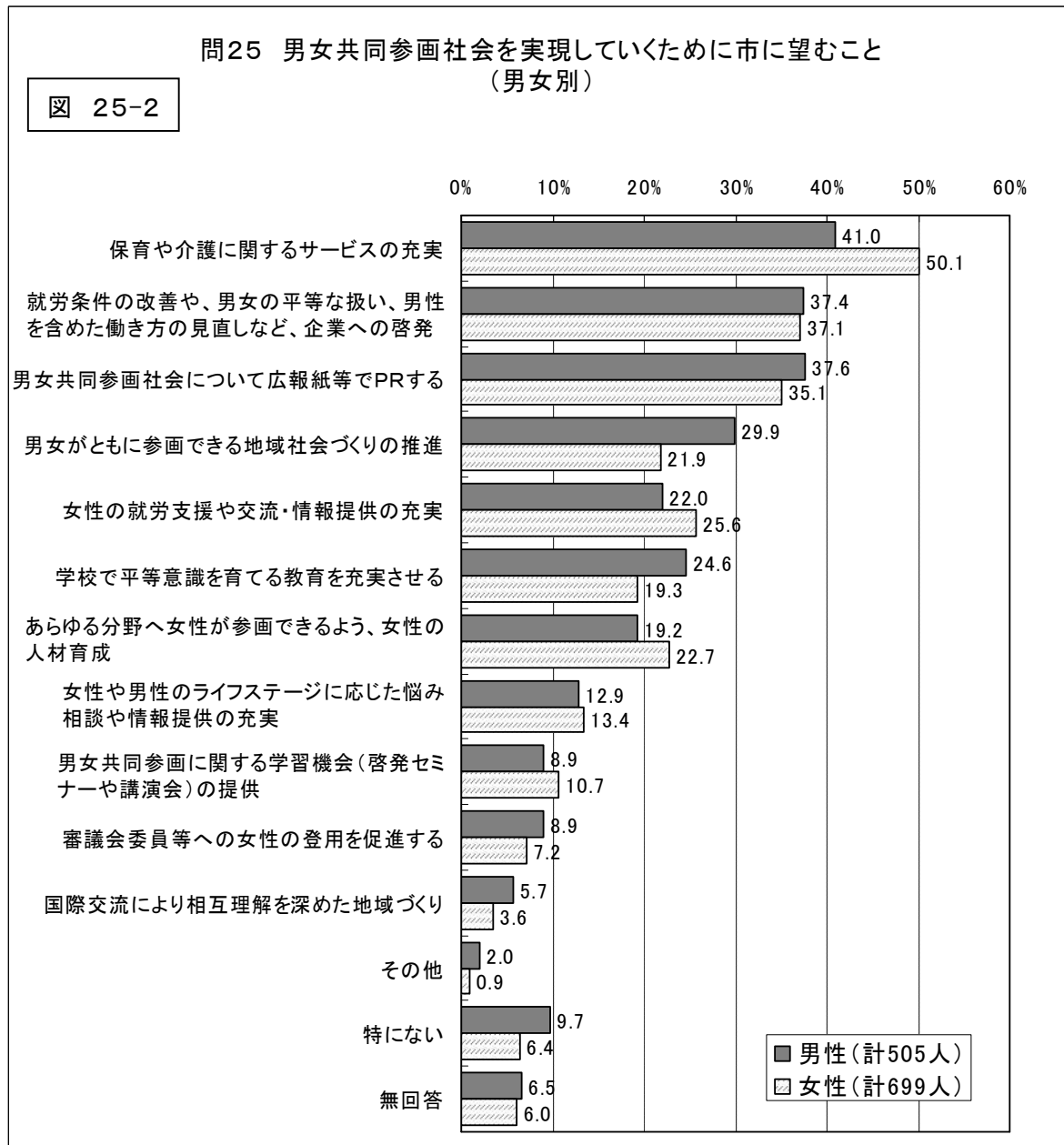


表 25

男女共同参画社会を実現していくために市に望むこと(年代別)

単位(%)

	男女共同参画社会について広報紙等でPRする	審議会委員等への女性の登用を促進する	学校で平等意識を育てる教育を充実させる	あらゆる分野へ女性が参画できるよう、女性の人材育成	保育や介護に関するサービスの充実	女性の就労支援や交流・情報提供の充実	女性や男性のライフステージに応じた悩み相談や情報提供の充実	男女がともに参画できる地域社会づくりの推進	男女共同参画に関する学習機会(啓発セミナーや講演会)の提供	見直しなど、企業等への啓発	就労条件の改善や、男女の平等な扱い、男性を含めた働き方の啓発	国際交流により相互理解を深めた地域づくり	その他	特にない	無回答
年代別															
20歳代	22.0	8.8	22.0	18.7	48.4	28.6	12.1	16.5	3.3	39.6	11.0	0.0	7.7	2.2	
30歳代	19.7	3.9	19.1	9.0	52.2	20.2	13.5	15.2	6.2	44.9	3.9	2.8	9.6	2.2	
40歳代	27.9	7.6	19.2	29.1	47.7	27.9	15.1	27.9	7.0	34.3	5.2	1.7	7.0	1.2	
50歳代	36.1	9.3	18.1	22.9	54.6	29.1	14.5	17.6	10.1	46.7	3.1	1.8	5.3	4.0	
60歳代	49.2	6.9	23.8	22.8	41.6	25.1	11.9	34.3	15.8	34.0	3.0	0.7	8.6	6.3	
70歳以上	43.5	10.8	25.0	22.4	37.5	16.4	12.5	30.2	9.9	27.2	5.2	0.9	8.6	17.2	

性別でみると、女性は、「保育や介護に関するサービスの充実」50.1%となり、男性の41.0%を大きく上回っている。「女性の就労支援や交流・情報提供の充実」、「あらゆる分野へ女性が参画できるよう、女性の人材育成」においても男性よりも高い割合となっている。男性では「男女共同参画社会について広報紙等でPRする」や「学校で平等意識を育てる教育を充実させる」といった啓発や情報提供に対する希望が女性のそれを上回っている。また「男女がともに参画できる地域社会づくりの推進」でも男性が29.9%、女性が21.9%と男性が上回っている。

年代別でみると、「保育や介護に関するサービスの充実」は20歳代で48.4%、30歳代で52.2%、40歳代で47.7%、50歳代では54.6%と高い割合を占める。「就労条件の改善や、男女の平等な扱い、男性を含めた働き方の見直しなど、企業等への啓発」は20歳代、30歳代、50歳代で割合が高く、「男女共同参画社会について広報紙等でPRする」や、「男女がともに参画できる地域社会づくりの推進」は40歳代以上の年代で高い割合となっている。

5. 調査結果からの展望

(1) 男女の平等感について

言葉の認知度については、「ジェンダー」や新しい用語である「ワーク・ライフ・バランス」の認知度が低く、男女共同参画を推進していく上での広報・啓発活動の推進が必要である。

様々な場面で、「男性が優遇されている」との意識を持つ人が多く、特に女性の方が「男性が優遇されている」との意識が強い。特に「慣習・しきたりのなかで」など従来の性別による固定化された役割分担の考え方が根強く残っている。性別に関係なく、お互いが理解し合い協力できる環境、考え方の推進が必要である。

男女平等を進めるために必要なこととして、保育所や介護施設の整備、男女の仕事や賃金格差の是正などの女性の労働環境や労働条件の整備、子どもの時からの男女平等教育、男女平等についての理解、社会の慣習やしきたりの見直しが求められている。

(2) 人権について

セクシャル・ハラスメントの被害を受けたとの回答は減少しているが、言葉による被害は増加傾向にあり、より一層の理解を深める取り組みが必要である。

ドメスティック・バイオレンスの言葉自体の認知度は上昇しているが言葉や精神的暴力をDVと認識している割合は低い。

実際に「命の危険を感じるくらいの暴行を受けた」、「医師の治療が必要となる程度の暴行を受けた」経験のある人が、それぞれ 2.5%程度いる。女性に対する暴力は、潜在化することが多く、問題として認識されにくい。暴力の根絶に向けた広報活動、防止対策の推進が必要である。

また、被害者に対する相談窓口の明確化、相談しやすい環境整備が求められている。

(3) 結婚観や家庭生活について

結婚を負担に感じる割合は、増加傾向にあり、特に未婚者で負担と感じるとの割合は過半数を超えている。男性では、「経済的負担」、女性では、「家族関係・親せき付き合い」を負担と感じている。

「夫婦の役割分担」では、家庭における役割のほとんどを妻が担っている。地域活動や家庭生活において、男性がより参画するためには、家庭や職場、地域の慣習など性別による固定化した役割分担の見直し、労働時間や休暇制度など働き方の見直しなどを推進していくことで、さらに男女共同参画の意識が定着するように努めなければならない。

(4) 教育について

「子どもがどのように育ってほしいか」では、男の子の場合は、「経済的な自立ができるように」、「責任感をもてるように」という回答が多く、女の子の場合は、「やさしさと思いやりをもつように」、「経済的な自立ができるように」、「自分の身の回りのことができるように」と回答している。

学校教育を通じて自立の意識をはぐくみ、男女平等に関する教育の一層の推進を図るとともに、教職員自身が男女共同参画社会の実現に向けて、理解を深め、模範となる行動が求められている。

(5) 地域活動について

地域活動で参加したことがある活動は、「自治会・町内会等の活動」が最も多く、次いで「仲間・友人と行うサークル活動」となっている。若年層は「仲間・友人と行うサークル活動」が中心で年代が高くなるにしたがい「自治会・町内会等の活動」が中心となる。今後参加したい活動として「イベントなどのボランティア活動」がある。「男女共同参画社会」の認知度が高いほど、地域活動への参加率が高いことから、より一層の地域における男女共同参画の推進を図るとともに、広報等を通して市民への情報提供や各種団体との連携も重要となっている。

(6) 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について

男性では、『「仕事」と「家庭生活」を優先したい』が、女性では、『「家庭生活」を優先したい』が多い回答となっている。現実では男性は、『「仕事」を優先している』が多くなり、女性では、『「家庭生活」を優先している』が希望を上回る結果となっている。男女とも40歳代までは、『「仕事」と「家庭生活」を優先したい』を希望としており、仕事と家庭生活の両立ができる環境づくりが求められている。

「ワーク・ライフ・バランス」についてはまだ十分に理解されていない状況であるため、「ワーク・ライフ・バランス」が実現した社会をわかりやすく周知・啓発を進めるとともに、多様な働き方の普及や男性の家事・育児参加などの推進を図り、これらについて、企業、市民、行政が協働で取り組む必要がある。

(7) 就労について

「女性が仕事をもつことについて」は、男女とも「結婚や出産などで一時家庭に入り、育児が終わると再び仕事をもつ方がよい」との回答が最も多く、次いで「結婚や出産の後も仕事を続ける方がよい」となっている。少子化、高齢化、核家族化が進んでおり、仕事と育児・介護などを両立させていけるようにすることが課題である。育児休業、介護休業の男女双方の利用促進、多様な保育環境の充実など、安心して子育てができ、仕事を継続することができる環境の整備や再就職を希望する女性に対する支援が必要である。また、女性の非正規雇用の割合が高いことや賃金格差などがあることから、女性の就業の機会や待遇の改善が必要となっている。

(8) 市の男女共同参画推進に関する施策について

加古川市男女共同参画センターの知名度については「知らない」が3分の2を占める。男女共同参画センターやイベントなど知名度を高める活動を行い、特に若い年代に対しての啓発活動の中で、気軽に利用、参加できる存在となることが求められている。

市に望む施策については、最も多い回答が、「保育や介護に関するサービスの充実」である。次いで「就労条件の改善や、男女の平等な扱い、男性を含めた働き方の見直しなど、企業等への啓発」となっており、男女ともに仕事と家庭生活の両立ができる環境整備への期待である。

男女共同参画社会に関する市民意識調査

調査ご協力のお願い

市民の皆様には、日ごろから市政にご理解とご協力を頂きありがとうございます。

加古川市では、性別にかかわらず、一人ひとりの個性と能力を十分に発揮することができる男女共同参画社会の実現を目指して、加古川市男女共同参画行動計画を策定するなど、さまざまな取組みを進めています。

この調査は、平成 18 年 3 月に策定した加古川市男女共同参画行動計画の見直しにあたり、市民の皆さんのお考えやご意見をお伺いするもので、20 歳以上の市民の中から 3,000 人を無作為に選ばせていただきました。

ご回答は無記名で、調査結果は、統計的な集計・分析だけに用いられますので、個々のお答えの内容や個人が特定されるなど、ご回答された方にご迷惑をおかけするようなことはありません。

お忙しいところ誠に申し訳ございませんが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

平成 21 年 12 月

加古川市長 樽本 庄一

ご記入に際して

- 封筒のあて名の方がご自分のお考えをご記入ください。
- ご回答はあてはまる番号に○をつけてください。「その他」にあてはまる場合は、
お手数ですが、() に具体的にご記入ください。
- ご回答いただきました調査票は、同封の返信用封筒で（切手不要）

12 月 25 日（金）までにご返送をお願いします。

〔お問合せ先〕加古川市企画部政策企画局

男女共同参画センター

電 話 079-424-7172

FAX 079-454-4190

●基本属性

問1 あなたの性別をお答えください。(○は1つ)

- | | |
|-------|-------|
| 1. 男性 | 2. 女性 |
|-------|-------|

問2 あなたの年齢をお答えください。(○は1つ)

- | | | |
|---------|---------|----------|
| 1. 20歳代 | 2. 30歳代 | 3. 40歳代 |
| 4. 50歳代 | 5. 60歳代 | 6. 70歳以上 |

問3 あなたのお仕事をお答えください。(○は1つ)

- | | | |
|------------|---------------|--------------|
| 1. 正社員 | 2. 派遣・契約社員 | 3. パート・アルバイト |
| 4. 自営業・自由業 | 5. 在宅勤務 | 6. 専業主婦・主夫 |
| 7. 学生 | 8. 無職(6,7を除く) | 9. その他() |

問4 あなたは結婚されていますか(内縁関係など事実婚を含む)。(○は1つ)

- | | | |
|--------------|--------------|-------|
| 1. 既婚(配偶者あり) | 2. 既婚(離別、死別) | 3. 未婚 |
|--------------|--------------|-------|

問4-1 問4で「1. 既婚(配偶者あり)」を選ばれた方におたずねします。あなたの配偶者の主な仕事をお答えください。(○は1つ)

- | | | |
|------------|---------------|--------------|
| 1. 正社員 | 2. 派遣・契約社員 | 3. パート・アルバイト |
| 4. 自営業・自由業 | 5. 在宅勤務 | 6. 専業主婦・主夫 |
| 7. 学生 | 8. 無職(6,7を除く) | 9. その他() |

問5 あなたのご家庭の家族構成をお答えください。(○は1つ)

- | | | |
|---------------|-----------|-------------|
| 1. 本人のみ | 2. 夫婦のみ | 3. 親・子(二世帯) |
| 4. 親・子・孫(三世帯) | 5. その他() | |

問6 あなたにはお子さんがいらっしゃいますか。(○は1つ)

- | | |
|-------|--------|
| 1. いる | 2. いない |
|-------|--------|

問6-1 問6で「1. いる」を選ばれた方におたずねします。あなたの一番下のお子さんは次のいずれにあたりますか。(○は1つ)

- | | | |
|--------------|------------------|--------|
| 1. 乳幼児(3歳未満) | 2. 幼児(3歳以上の未就学児) | 3. 小学生 |
| 4. 中学生 | 5. 高校生以上の生徒・学生 | 6. 社会人 |

●男女の平等観などについて

問7 次のア～ケの言葉を知っていますか。それぞれあてはまる番号に○をつけてください。
(○は各項目に1つ)

項 目	よく知っている	聞いたことがある	知らない
ア. 女子差別撤廃条約	1	2	3
イ. 男女雇用機会均等法	1	2	3
ウ. 育児・介護休業法	1	2	3
エ. 男女共同参画社会	1	2	3
オ. 配偶者暴力防止法 (DV防止法)	1	2	3
カ. 性別役割分担意識	1	2	3
キ. セクシュアル・ハラスメント	1	2	3
ク. ジェンダー	1	2	3
ケ. ワーク・ライフ・バランス	1	2	3

問8 次のような分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。次のア～クの項目について、
あてはまる番号に○をつけてください。(○は各項目に1つ)

項 目	男性が 優遇	やや男性 が優遇	平等	やや女性 が優遇	女性が 優遇	わから ない
ア. 家庭の中で	1	2	3	4	5	6
イ. 学校の中で	1	2	3	4	5	6
ウ. 職場の中で	1	2	3	4	5	6
エ. 地域活動の中で	1	2	3	4	5	6
オ. 法律や制度の中で	1	2	3	4	5	6
カ. 慣習・しきたりの中で	1	2	3	4	5	6
キ. 政治・政策決定の場で	1	2	3	4	5	6
ク. 社会全体で	1	2	3	4	5	6

問9 あなたは、次のア～キのような考え方に対してどのようにお考えですか。あてはまる番号に○をつけてください。(○は各項目に1つ)

項 目	賛成	どちらか といえば 賛成	どちらか といえば反対	反対	わから ない
ア. 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである	1	2	3	4	5
イ. 男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる方がよい	1	2	3	4	5
ウ. 妻子を養うのは男の役割である	1	2	3	4	5
エ. 男性と女性で昇進や賃金に差があるのは仕方がない	1	2	3	4	5
オ. 子どもが3歳くらいまでは母親の手で育てるべきだ	1	2	3	4	5
カ. 夫の親を妻が介護・看護するのは当然である	1	2	3	4	5
キ. 育児休業・介護休業は、男性より女性が取得すべきだ	1	2	3	4	5

問10 男性の方におたずねします。あなたは、男性であるがゆえに大変だなと感じたことがありますか。(○は1つ)

1. よくある 2. 時々ある 3. あまりない 4. まったくない

問10-1 問10で「1. よくある」または「2. 時々ある」を選ばれた方におたずねします。そう感じた理由は何ですか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。
(○はいくつでも)

1. 経済力が求められるから
2. 仕事を優先しないといけないから
3. 子育てや子どもに関わる時間がつukれないから
4. 自分の時間がもてないから
5. 地域とのつながりがもちにくいから
6. 積極性やリーダーシップが求められるから
7. その他 ()

問 1 1 あなたは、今後、男女平等を進めていくためには、特にどのようなことが必要だと思いますか。
次の中から 3 つ以内で選んでください。(○は 3 つ以内)

1. 子どものときから、学校や家庭で男女平等教育をする
2. 法律や制度を改める
3. 社会の慣習やしきたりを改める
4. 仕事や賃金面で男女差別をなくす
5. 保育所や介護施設など、安心して働くための施設整備を進める
6. 「女性だから」という甘えをなくして、精神的に自立する
7. 女性が経済力をつける
8. 男女ともに男女平等について理解を深める
9. 女性が社会活動や政治に積極的に参画し、発言力を高める
10. 男性が生活面で自立できるよう意識や行動を変える
11. 男性の労働時間を短縮し、家事・育児等に関わる時間をつくる
12. その他 ()
13. 特に必要なことはない
14. わからない

●人権について

問 1 2 あなたは、職場、地域、学校などで、次のようなセクシュアル・ハラスメント（性的嫌がらせ）を受けたことがありますか。受けたことがあるものをすべて選んでください。
(○はいくつでも)

1. 好まない性的な話を聞かされた
2. 容姿について傷つくことを言われた
3. 「女のくせに…」とか「男なのに…」と性別による言い方をされた
4. お酒の場でお酌やデュエットを強要された
5. 不必要に身体をさわられた
6. しつこく交際を迫られた
7. 性的な噂をたてられた
8. 「まだ結婚しないのか」とか「子どもは産まないのか」など、結婚や出産などについて、たびたび聞かれた
9. 性的な関係を強要された
10. 性的な要求を拒否したら、嫌がらせをされた
11. その他 ()
12. 受けたことがない

問 1 3 配偶者や恋人などパートナーからの暴力（ドメスティック・バイオレンス＝DV）が社会問題になっています。そこで、（A）と（B）2つの質問にお答えください。

（A）あなたは、ア～コのような行為がドメスティック・バイオレンス（DV）にあたると思いますか。
1, 2のいずれかに○をつけてください。（○は各項目に1つ）

（B）あなたは配偶者や恋人などから、ア～コのような行為を受けたことがありますか。
1～3のいずれかに○をつけてください。（○は各項目に1つ）

（A）		項 目	（B）		
D V だ と 思 う	D V だ と 思 わ な い		何 度 も あ っ た	1 ～ 2 度 あ っ た	ま っ た く な い
1	2	ア. 命の危険を感じるくらいの暴行を受けた	1	2	3
1	2	イ. 医師の治療が必要となる程度の暴行を受けた	1	2	3
1	2	ウ. 医師の治療が必要とならない程度の暴行を受けた	1	2	3
1	2	エ. いやがっているのに性的な行為を強要された	1	2	3
1	2	オ. 見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せられた	1	2	3
1	2	カ. 何を言っても長期間無視され続けた	1	2	3
1	2	キ. 交友関係や電話を細かく監視された	1	2	3
1	2	ク. 「だれのおかげで生活できるんだ」と言われた	1	2	3
1	2	ケ. 生活費を渡してくれなかった	1	2	3
1	2	コ. 大声でどなられた	1	2	3

問 1 4 あなたがドメスティック・バイオレンス（DV）やセクシュアル・ハラスメントの被害にあったとき、誰（どこ）かに相談しましたか。次の中から1つ選んでください。
（○は1つ）

1. 相談した
2. 相談したかったが、誰（どこ）に相談してよいかわからなかった
3. 相談したかったが、相手からの仕返しが怖くてできなかった
4. 相談しようとは思わなかった
5. 被害にあったことがない

●結婚観や家庭生活について

問 1 5 あなたの結婚観についておたずねします。あなたは、結婚を負担に感じますか（感じていますか）。独身の方も教えてください。（○は1つ）

1. 感じる（感じている）	2. 感じない（感じていない）
---------------	-----------------

問 1 5-1 問 1 5で「1. 感じる（感じている）」を選ばれた方におたずねします。負担に感じるのはどのようなことがらですか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。（○はいくつでも）

1. 家事の負担	2. 仕事と家庭を両立させるのが困難
3. 経済的負担	4. 行動の自由が制約されること
5. 育児の負担	6. 結婚相手の父母の介護負担
7. 家族関係・親せき付き合い	
8. その他（	）

問 1 6 あなたのご家庭では、夫婦の役割分担はどのようになっていますか。次のア～スの項目についてそれぞれ1つずつ選んでください。（○は各項目に1つ）

項 目	妻がする	妻が主で 夫が協力	妻と夫と 同じ位	夫が主で 妻が協力	夫がする	そ の 他
ア. 食事をつくる	1	2	3	4	5	6
イ. 食事のあとかたづけ	1	2	3	4	5	6
ウ. ゴミ出し	1	2	3	4	5	6
エ. 風呂の掃除	1	2	3	4	5	6
オ. 洗濯	1	2	3	4	5	6
カ. 部屋の掃除	1	2	3	4	5	6
キ. 生活費を稼ぐ	1	2	3	4	5	6
ク. 日々の家計の管理	1	2	3	4	5	6
ケ. 乳幼児の世話	1	2	3	4	5	6
コ. 子どものしつけと教育	1	2	3	4	5	6
サ. 地域の役員等(参画)	1	2	3	4	5	6
シ. 地域社会への参加(行事への参加)	1	2	3	4	5	6
ス. 高齢者や病身者の介護	1	2	3	4	5	6

●教育について

問 1 7 あなたは、子どもがどのように育ってほしいと思いますか。「男の子」と「女の子」の場合について、それぞれ2つ以内で選んでください。お子さんがいない方は「もし、いたとしたら」と仮定してお答えください。

項 目	「男の子」 (○は2つ以内)	「女の子」 (○は2つ以内)
ア. 経済的な自立ができるように	1	1
イ. 自分の身の回りのことができるように	2	2
ウ. 何事も積極的にできるように	3	3
エ. 何か得意なものを身につけられるように	4	4
オ. 責任感をもてるように	5	5
カ. 社会に役立つように	6	6
キ. やさしさと思いやりをもつように	7	7
ク. 自分の考えを人前ではっきり言えるように	8	8
ケ. 素直で、よく言うことを聞くように	9	9
コ. その他 ()	10	10

問 1 8 学校（園）教育において、男女平等に配慮してほしいことや、力を入れてほしいと思うことはどのようなことですか。次の中から3つ以内で選んでください。
(○は3つ以内)

1. 男女の性を尊重しあえる性教育の充実を図る 2. 学校生活の中で、性別による役割を決めないよう配慮する 3. 名簿の順番など男子が先、女子が後という、男子を優先する慣行の見直し 4. 性別に関わらず、個性や能力を活かせるような生徒指導や進路指導に配慮する 5. 副読本などの教材の選定にあたっては、性別役割の固定化につながらないよう配慮する 6. 学校では、男女がともに協力しあい、学習や行事に参加できるよう配慮する 7. 教職員自身が、男女平等について十分理解する 8. 教職員の現場から率先して男女平等を進める 9. P T A活動などの運営について、男女平等に配慮する 10. その他 () 11. 特になし
--

●地域活動について

問１９ あなたは、この１年間に何か地域活動に参加したことがありますか。また、今後参加したい活動はありますか。次のア～カの項目について、それぞれ１つずつ選んでください。

(○は各項目に１つ)

項 目	この１年 間に参加 した	現在参加してい ないが、今後参 加したい	参加した くない	わからない
ア. 自治会・町内会等の活動	1	2	3	4
イ. 少年団（こども会）活動・PTA 活動、老人会活動、婦人会活動	1	2	3	4
ウ. 仲間・友人と行なうサークル活動	1	2	3	4
エ. イベントなどのボランティア活動	1	2	3	4
オ. NPO や市民活動団体の活動	1	2	3	4
カ. その他（ ）	1	2	3	4

●仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について

問２０ 生活の中での「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の優先度についてお伺いします。
あなたの「希望」に最も近いものと、「現実」に最も近いものを、それぞれ１つ答えてください。

(○は各項目に１つ)

あなたの希望	あなたの現実（現状）
１．「仕事」を優先したい ２．「家庭生活」を優先したい ３．「地域・個人の生活」を優先したい ４．「仕事」と「家庭生活」を優先したい ５．「仕事」と「地域・個人の生活」を 優先したい ６．「家庭生活」と「地域・個人の生活」を優先 したい ７．「仕事」と「家庭生活」と「地域や個人の生 活」を優先したい ８． わからない	１．「仕事」を優先している ２．「家庭生活」を優先している ３．「地域・個人の生活」を優先している ４．「仕事」と「家庭生活」を優先している ５．「仕事」と「地域・個人の生活」を 優先している ６．「家庭生活」と「地域・個人の生活」を 優先している ７．「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生 活」を優先している ８． わからない

●就労について

問 2 1 一般的に、女性が仕事をもつことについて、あなたのお考えに最も近いものはどれですか。次の中から 1 つ選んでください。(○は 1 つ)

- 1. 結婚や出産の後も仕事を続ける方がよい
- 2. 結婚や出産などで一時家庭に入り、育児が終わると再び仕事をもつ方がよい
- 3. 結婚をきっかけとして、家庭に入る方がよい
- 4. 出産をきっかけとして、家庭に入る方がよい
- 5. 仕事をもたない方がよい
- 6. わからない

問 2 2 女性の方におたずねします。あなたは、今までに仕事を辞めた経験がありますか。(○は 1 つ)

- 1. ある
- 2. ない

問 2 2-1 問 2 2 で「1. ある」を選ばれた方におたずねします。一番最近仕事を辞めた時期と主な理由は何ですか。

(1) 仕事を辞めた時期 (○は 1 つ)

- 1. 結婚を機に
- 2. 出産を機に
- 3. 定年
- 4. その他 ()

(2) 仕事を辞めた主な理由 (○は 1 つ)

- 1. 勤務先の慣例で辞めざるを得なかった
- 2. 結婚や出産で辞めるものだと思っていたから
- 3. 産休や育休がとりにくかったから
- 4. 勤務先の都合 (リストラ等) で
- 5. 自分の健康上の都合で
- 6. 仕事が自分に合わなかったから
- 7. 子育てに専念したかったから
- 8. 転勤・介護など家庭の都合で
- 9. 保育所など、子どもの預け先が見つからなかったから
- 10. 仕事と家庭の両立が難しかったから
- 11. 他にやりたいことがあったから
- 12. 働く必要がなくなったから
- 13. 単に働きたくなくなったから
- 14. その他 ()

問 2 2-2 あなたは、現在、仕事をしていますか。(○は 1 つ)

- 1. していない
- 2. している

問2 2-3 問2 2-2で「1. していない」を選ばれた方におたずねします。今後、適当な仕事があれば働きたいと思いますか。(○は1つ)

1. すぐに働きたい	2. 将来は働きたい
3. 働きたくない	4. その他 ()

問2 2-4 問2 2-3で「1. すぐに働きたい」または「2. 将来は働きたい」を選ばれた方におたずねします。働く場合、気がかりなことは何ですか。(○はいくつでも)

1. 年齢制限を受けないか
2. 自分に向けた仕事につけるか
3. 求人の情報をどのようにしてみつけるか
4. 自分の資格や能力が通用するか
5. 職場の人間関係がうまくいくか
6. 賃金等、望む労働条件が得られるか
7. 家庭との両立ができるか
8. 自分の健康状態や体力
9. 子どもや家族の理解が得られるか
10. 子どもが保育所等の施設に入所できるか
11. 早朝・夜間・休日や病気の時の保育
12. 放課後保育
13. その他 ()
14. 特にない

問2 3 全員の方におたずねします。これから女性が働きやすい環境をつくるためには、どのようなことが重要だと思いますか。(○は3つ以内)

1. 多様な働き方ができる環境を整備する
2. 男性の家事・育児・介護への参加を進める
3. 長時間労働を見直すなど男性の働き方をかえる
4. 女性が働ける職場の増加や職業紹介の充実
5. 職場での男女の昇進、待遇の格差をなくす
6. パートタイムなどの女性の労働条件を向上する
7. 再就職を希望する女性のための講座、セミナーを充実する
8. 出産後も職場復帰できる再雇用制度を充実する
9. 保育所や学童保育（児童クラブ）などの育児環境を充実する
10. 育児・介護休業制度などの普及を図る
11. 職場の意識改革などについての企業に対する働きかけを行う
12. 事業所内保育施設の整備を促進する
13. その他 ()
14. 特にない

